

ORIGAMI TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価 635円
(本体605円)

クローズアップ Close-up

サキュバスの羽はどうやって伸ばす

What We Should Do When We Need Longer Wings for Succubus

宮本宙也 Miyamoto Chuya

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

バンビラプトル 金沢隆史

Bambiraptor

Kanazawa Takashi



隔号新連載 New Series Out Every Other Issues

『千羽鶴折形』再訪

"Senbazuru Orikata" Revisited

岡村昌夫 Okamura Masao

折り図 Diagrams

サメ 宮島 登

Shark

Miyajima Noboru

イベント案内 Announcement of Called-for for an Event

COP10おりがみプロジェクト 写真募集

Pictures Called for for the COP10
Origami Project

つまみおり Information

第16回折紙探偵団コンベンション & 第1回韓国折紙コンベンション直前情報

Updates on the 16th Origami Tanteidan Convention &
Minutes of the 1st Korean Origami Convention

通巻 122 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

谷折り線

Line indicating
valley fold

山折り線

Line indicating
mountain fold

手前に折る

Fold paper
forwards

後ろへ折る

Fold paper
backwards

折り筋を
つける

Making a crease line

段折り

Pleat fold

裏返す

Turn paper over

引き出す

Pull out

図の見る
位置が変わる

Rotation

図が大きくなる

A magnified view

見えない
ところ

A hidden line

押す、
押しつぶす

Push paper in

切る

Cut

バンビラプトル

Bambiraptor

作: 金沢隆史 (P.34)

by Kanazawa Takashi (P.34)

■小型恐竜の徹底的に絞り込まれた体型。そこに適度な緩急を演出し、デザイン調整にも役立つ「蛇腹幅変換」。いきなり取り組むのが心配なら、蛇腹らしくない変則的な折り線だけを用紙に直接書き込んで、全体をまず「同じ幅の普通の蛇腹」でたたんでみるのも有効。ひらいたり引き伸ばしたりしているうちに、自然に理解が深まります。

(解説: 北條高史) Comments: Hojyo Takashi

ORIGAMI TANTEIDAN
折紙探偵団
 MAGAZINE
 CONTENTS

No. **122**



Bambiraptor: Kanazawa Takashi

クローズアップ / Close-up

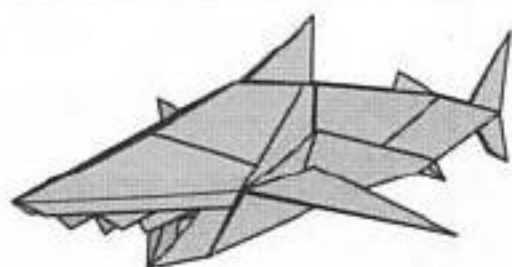
P.11 サキュバスの羽はどうやって伸ばす

What We Should Do When We Need Longer Wings for Succubus

宮本宙也
Miyamoto Chuya

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.22 サメ
Shark



宮島 登
Miyajima Noboru

P.34 展開図折りに挑戦!
Crease Pattern Challenge!

バンビラプトル

Bambiraptor
金沢隆史
Kanazawa Takashi

カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー
Origami Photo Gallery

解説・北條高史
Comments: Hojyo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 うず組みの世界

The Spiral Module Series

ハイパー手裏剣

Hyper Shuriken (A Ninja Throwing Knife)

川崎敏和

Kawasaki Toshikazu

P.8 おりがみ我楽多市

Origami Odds and Ends

かんたんポチ袋・ペーパーホルダー

A Small Envelope (for Wishes), Paper Holder

やまぐち真

Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

P.14 『千羽鶴折形』再訪

"Senbazuru Orikata" Revisited

取りあえず出発

It's Time to Restart

岡村昌夫

Okamura Masao

P.16 折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

『The Kindergarten Guide Vol. 2: The Occupations』

"The Kindergarten Guide Vol. 2: The Occupations"

羽鳥公士郎

Hatori Koshiro

P.35 ペーパーホルダーの横顔

Paper Folders on File

ソク・ソン

Sok Song

取材: アン・ラビン

Anne LaVin

翻訳: 羽鳥公士郎

Translator: Hatori Koshiro

コラム / Columns

P.7 折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子

Fuse Tomoko

P.32 おりすじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

三谷 純

Mitani Jun

P.33 折紙三昧

Origami-Zanmai (This Origami and That)

西川誠司

Nishikawa Seiji

情報 / Information

P.18 COP10 おりがみプロジェクト写真募集

Pictures Called for for the COP10 Origami Project

P.36 つまみおり Rabbit Ear

第16回折紙探偵団コンベンション・
韓国折紙コンベンション直前情報

Updates on the 16th Origami Tanteidan Convention &
Minutes of the 1st Korean Origami Convention

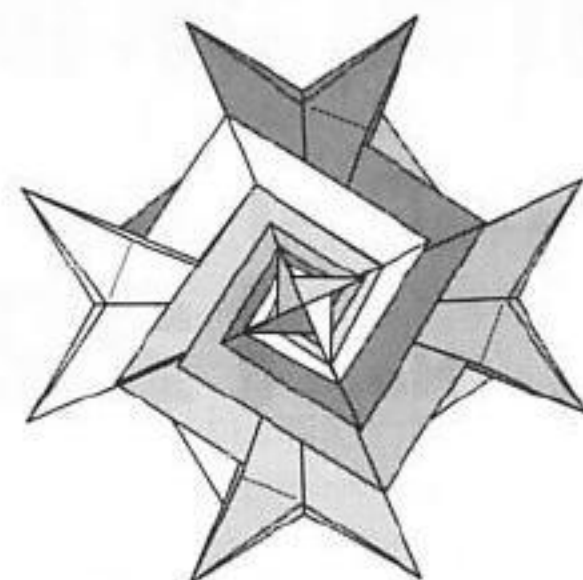
第1回 ハイパー手裏剣

Hyper Shuriken (A Ninja Throwing Knife)

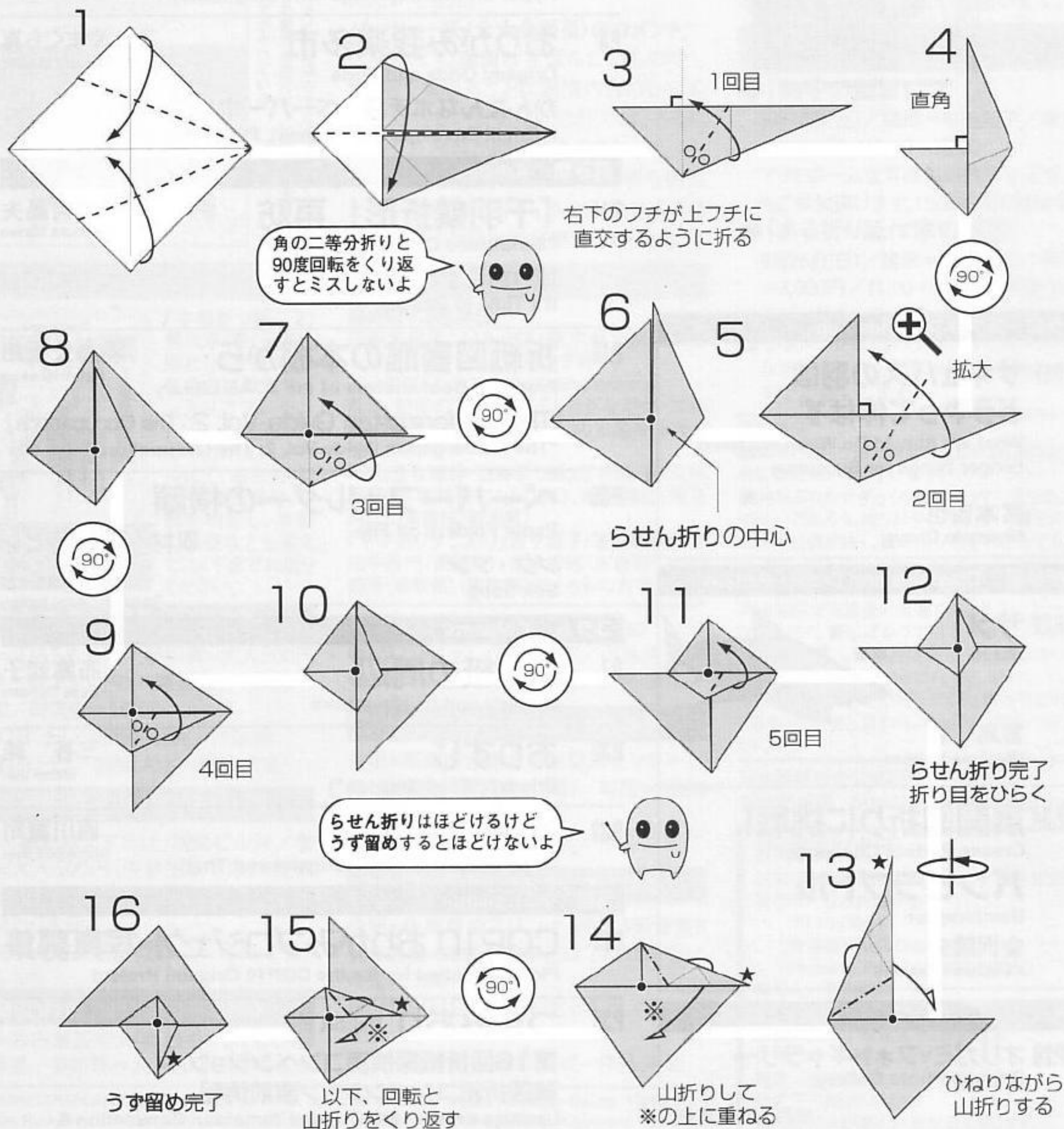
©2007-2010 川崎敏和

©2007-2010 KAWASAKI Toshikazu

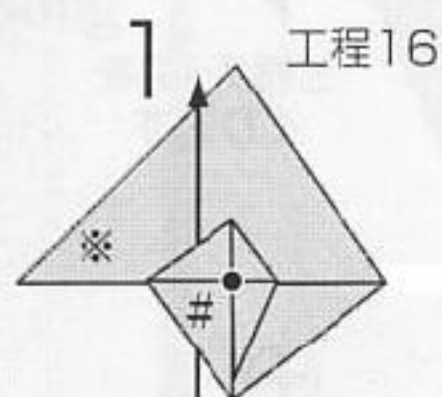
うず組みは汎用性が高く、新作がいくらでもできます。『究極の夢折り紙』の作品はその一部に過ぎません。これから数回に渡って、探偵団向きの作品を紹介していきます。まずはハイパー手裏剣から。



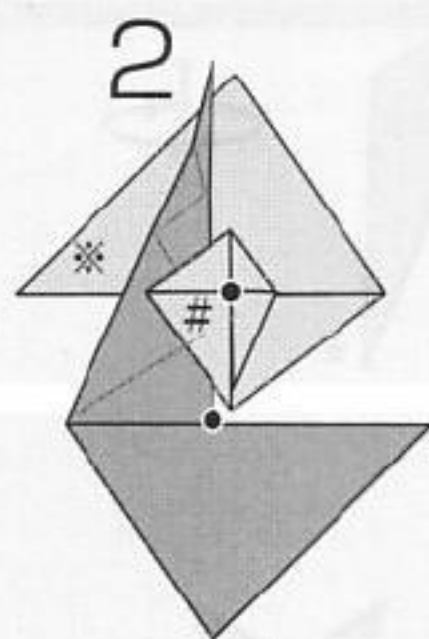
らせん折りとうず留めの練習



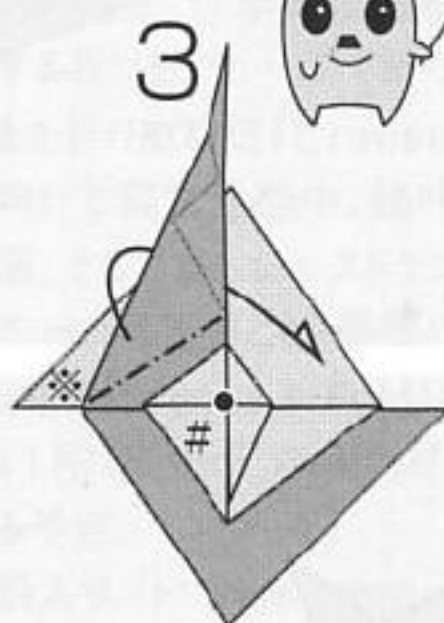
うず組みの練習



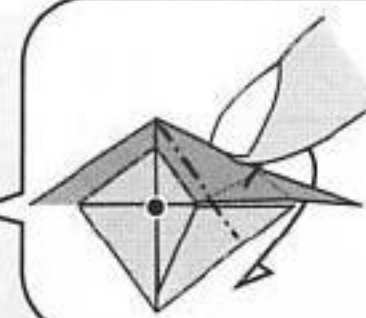
工程16



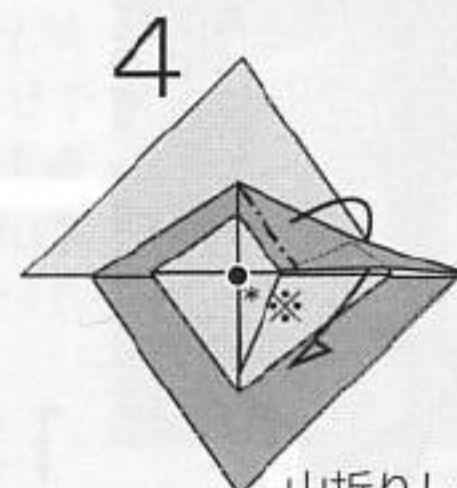
●を重ねる



ひねりながら
山折りする



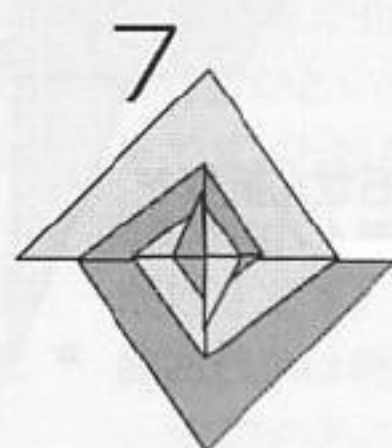
爪をフチに垂直に
当てるとうず組み
しやすい。
うまくいかない場
合は、ピンセット
を使うこと。



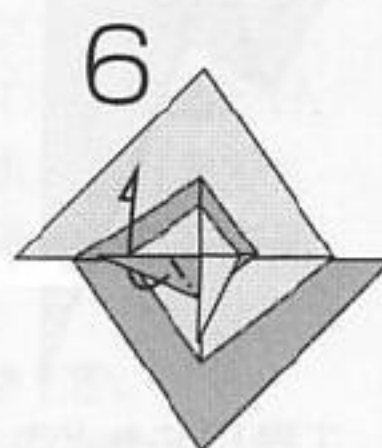
山折りして
※と※の間に入れる



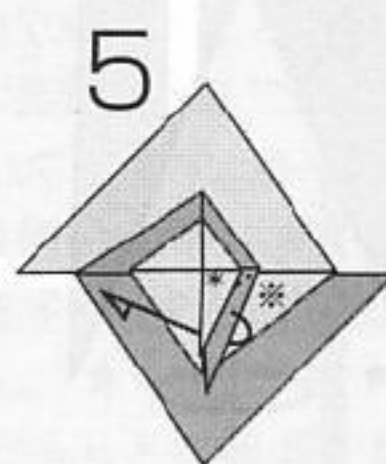
※と#の間に腕を通す



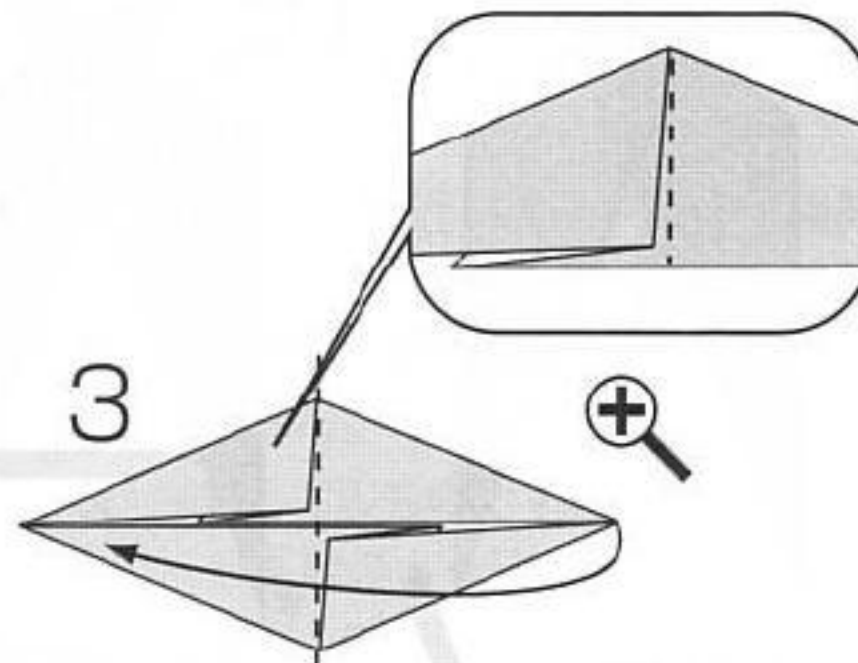
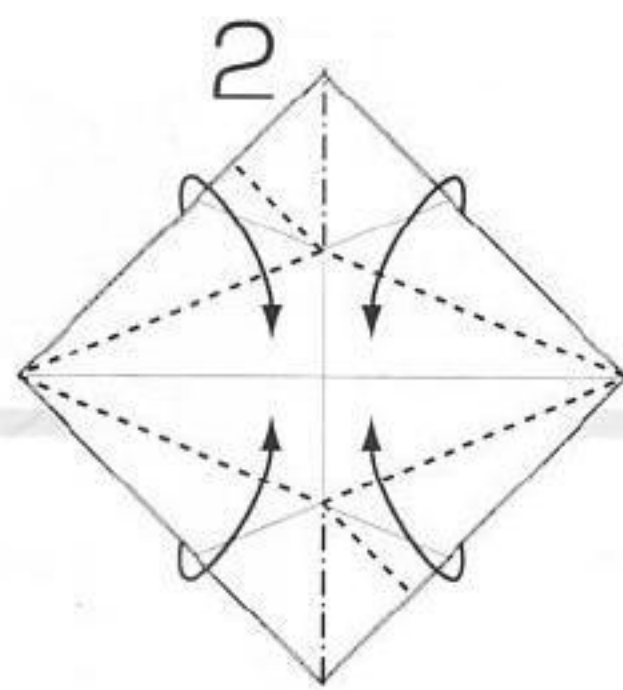
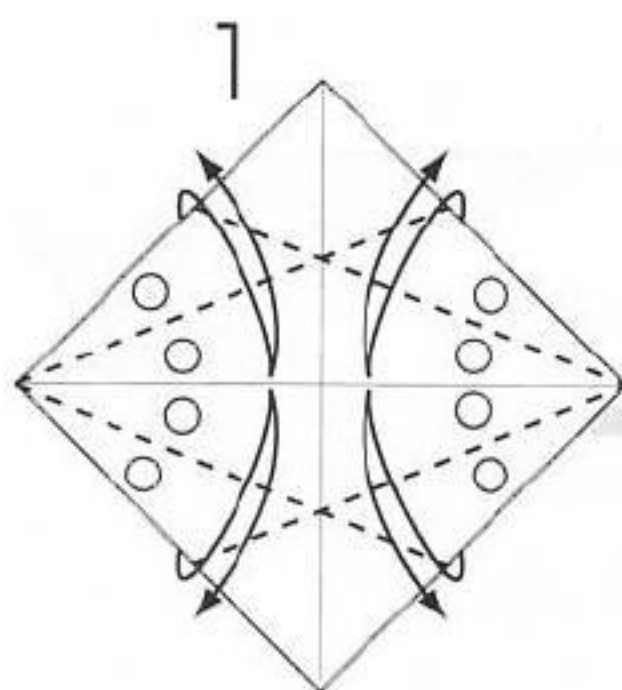
うず組み完了



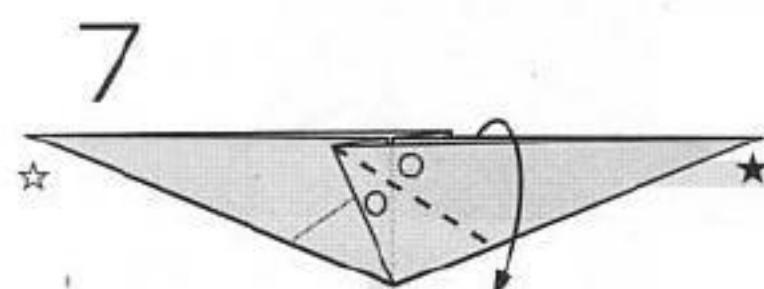
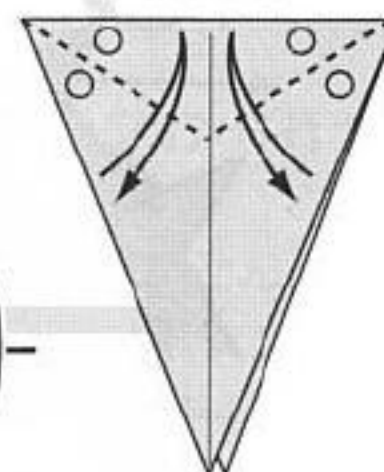
この要領で山折りをくり返す



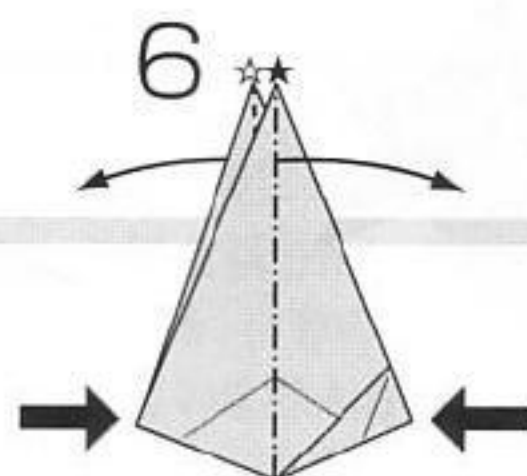
パーツを4個折る



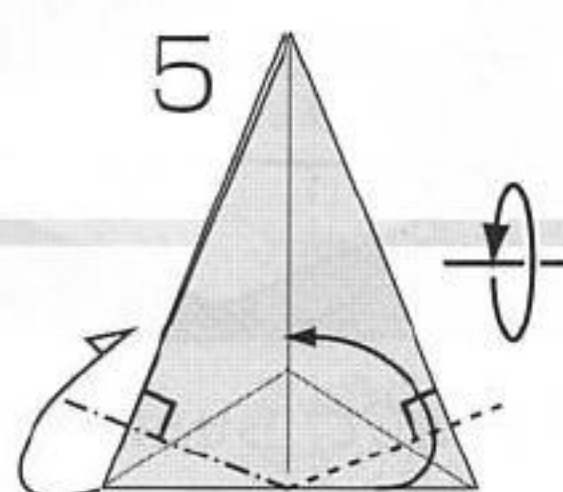
4 上1枚を折る
裏側も同じ



工程4でつけた
折り筋を折る



太矢印方向につぶしながら
★と☆の腕を左右に開く

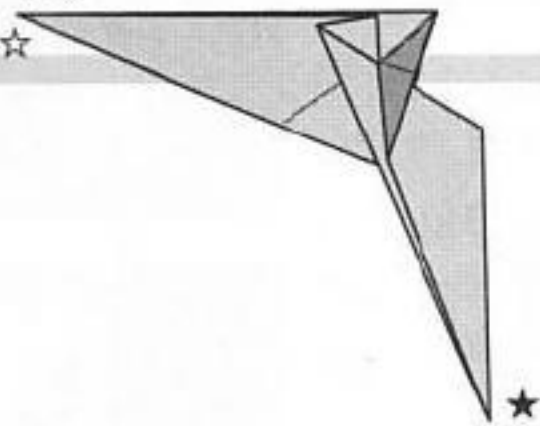


フチと垂直に折る
紙がずれないように注意する

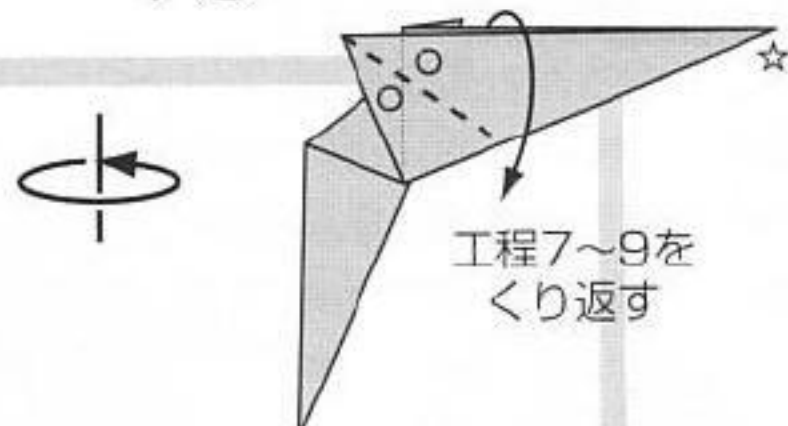
8



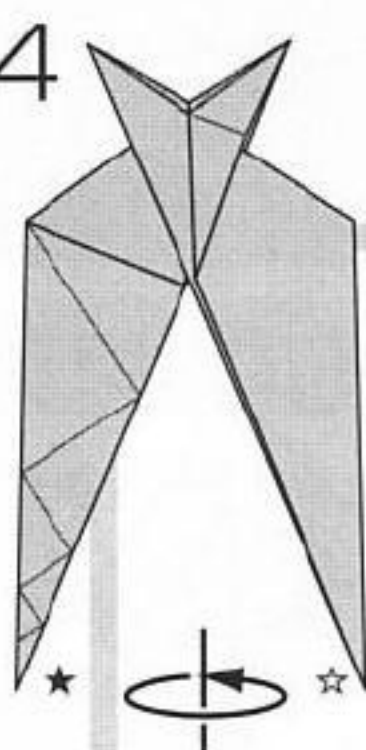
9



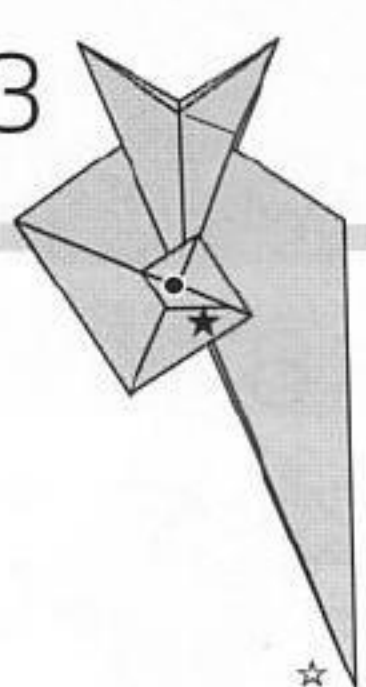
10



14



13

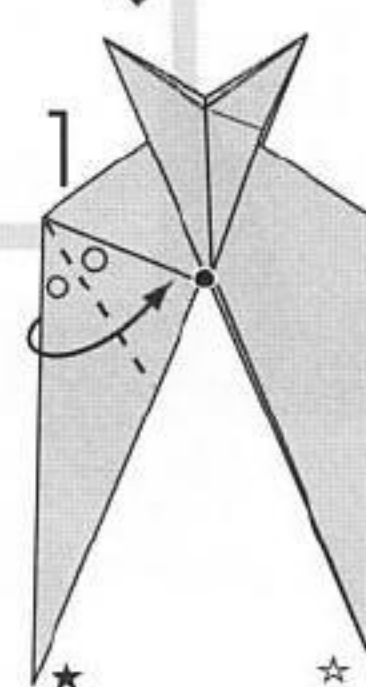


工程11にもどす

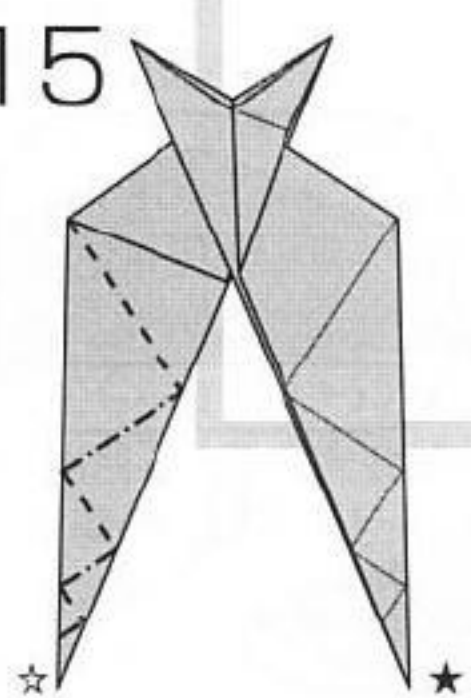
12



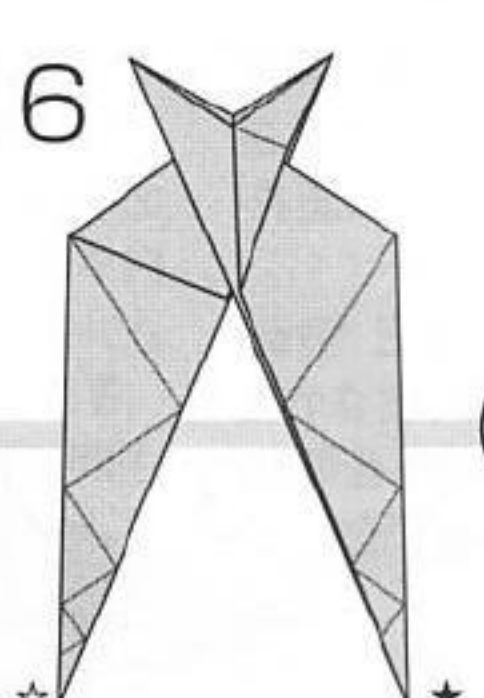
11



15

工程11~14を
くり返す

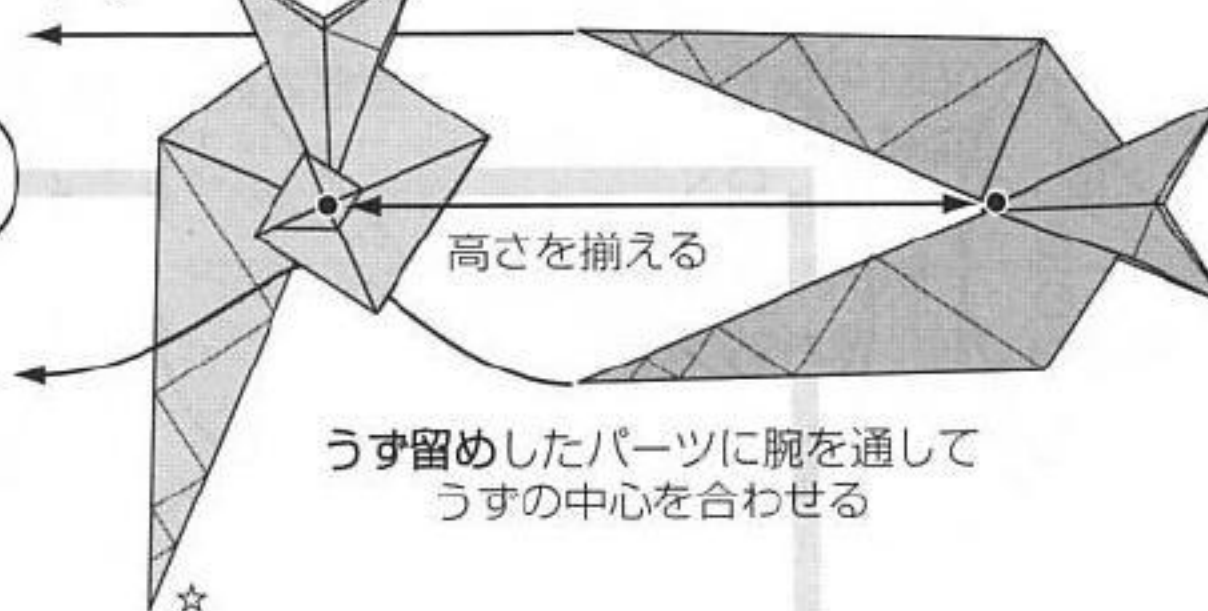
16



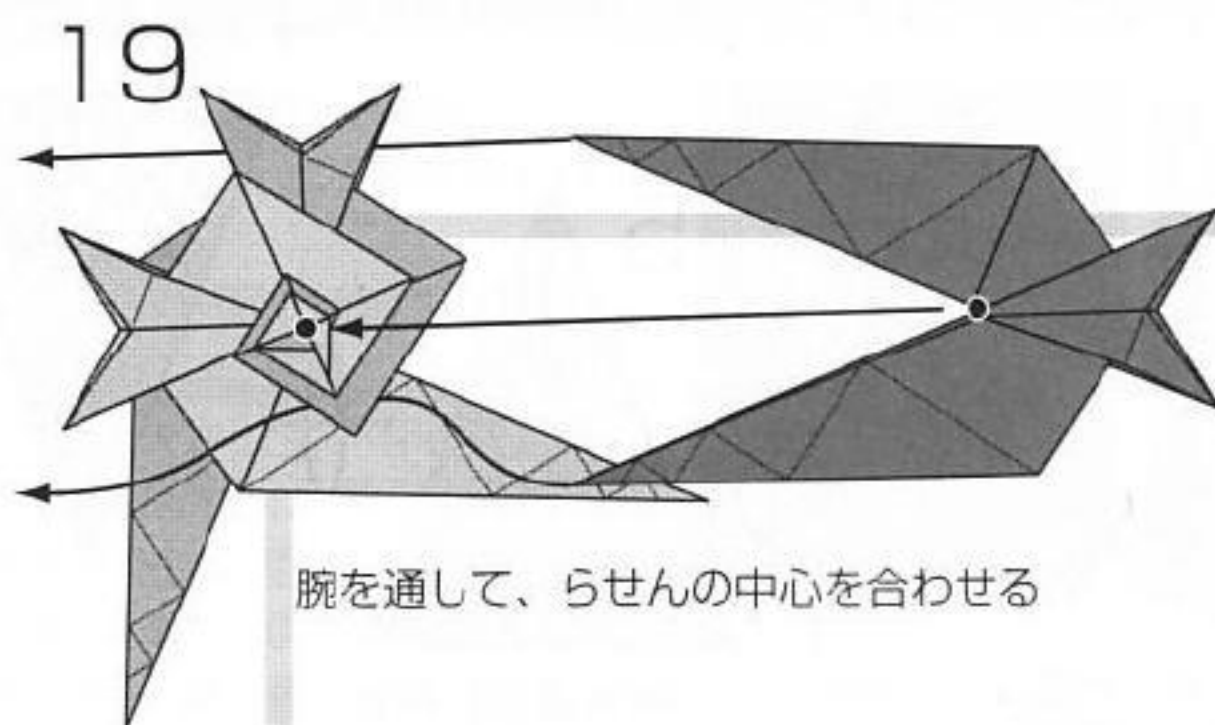
パーツ完成

パーツを組む

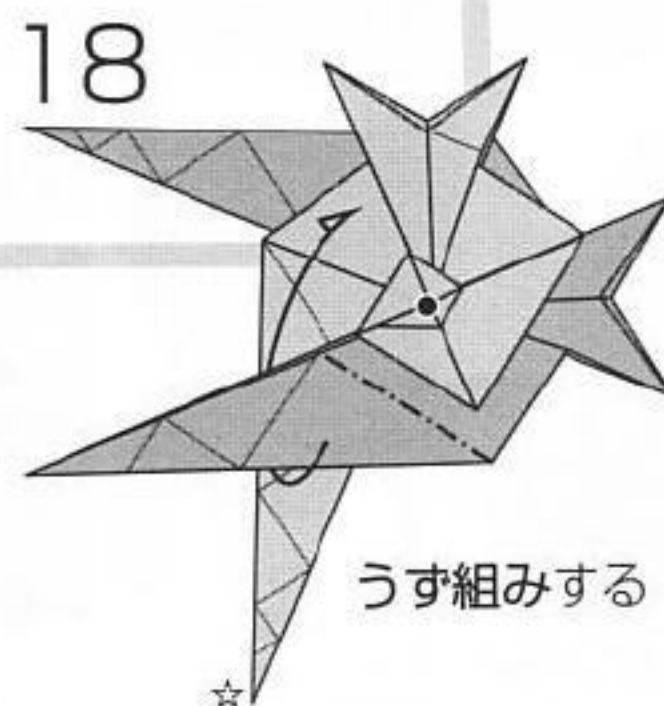
17



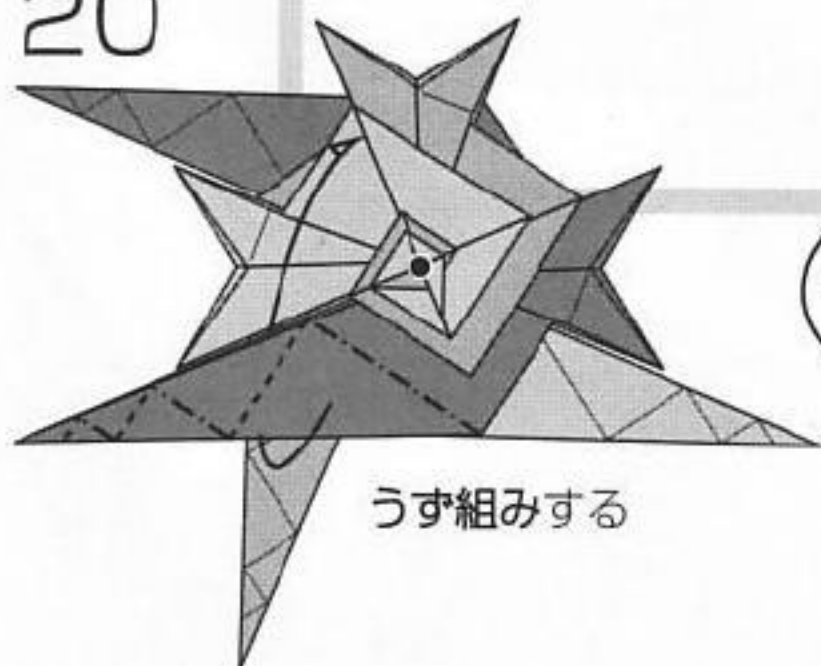
19



18

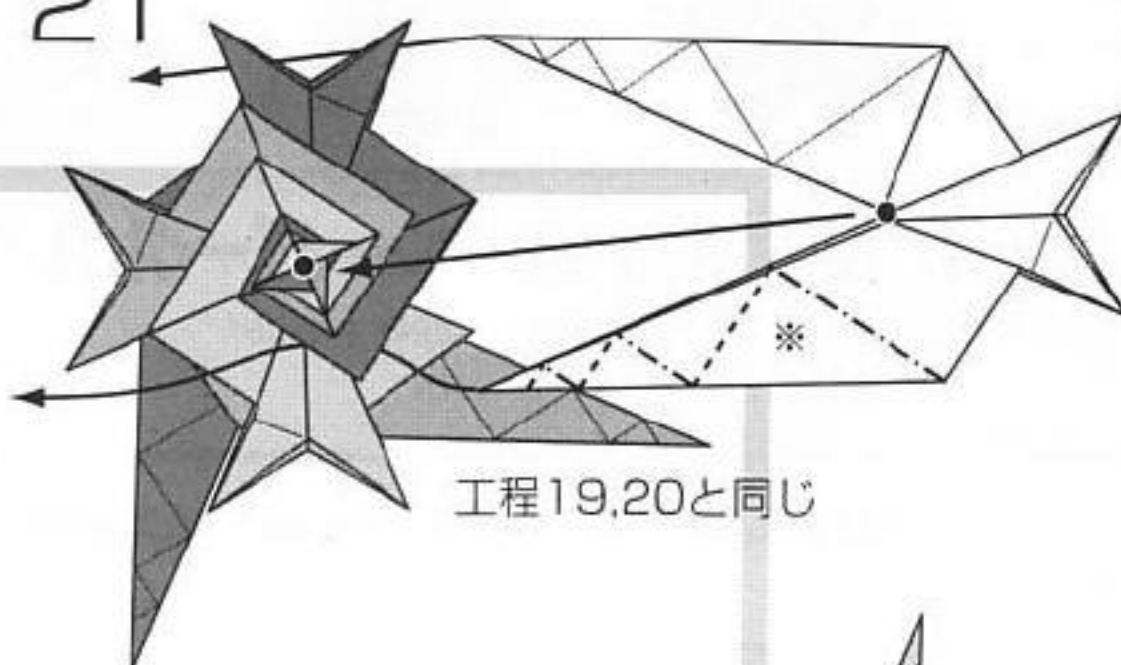


20



うず組みする

21



工程19,20と同じ

22



裏でうず組みする

23



完成

突起が8つあるうえ、
ずっしりと重いので
伝承の手裏剣より強
いんだ。
人に向かって投げな
いでね。



©2007-2010 KAWASAKI Toshikazu

折り紙の 周辺

第42回
ほめられる
Compliments

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

はんこが必要な郵便物を配達に
きた郵便屋さんが言った。

「あんたんとこのエンドウは立派だ
ね。よそはひなひなしてるのに、えら
いすくすく育って天に届きそうじゃ
ん。土がいいかやあ」 この郵便屋
さんはめったにこない人だが、ほ
められた。うれしい。「かわいがっ
て、手塩にかけてますから」と答える。
東京の小岩に住んでいた頃、近くに
『ジャックの豆の木』という喫茶店

があった、なんて郵便屋さんと話し
ながら思い出した。夕飯にエンドウ
どっさりの卵とじを食べよう。

畑と庭の土作りは、秋に軽トラで
落ち葉を山盛りに何度か運んで堆肥
とし、あとは鶏糞。エンドウは春浅い
ころに種をまいて、頃合いを見て手
近に生えている淡竹を割って支柱に
し、ネットを張る。成長につれて倒れ
ないように麻ひもを渡す。アブラムシ
が出たら指ですりつぶす。アオムシ
なんかも踏みつぶす。ところで、野菜
や花につく虫の捕殺は苦手だ。これ
ができないと一人前ではないそうで、
まだ修行が足りない。

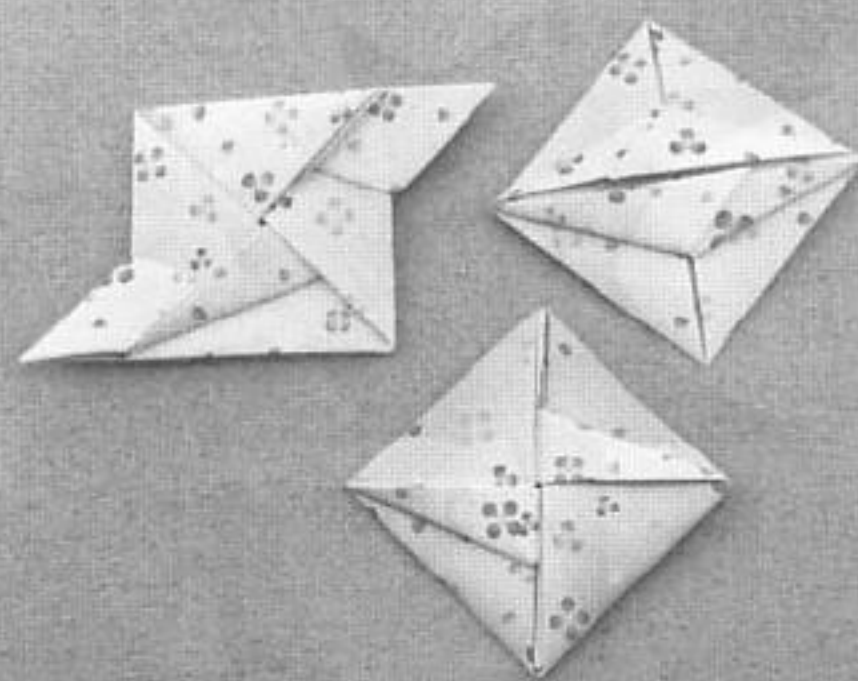
畑と庭での作業はよい気分転換
になる。家の前にあるので、仕事に詰
まるとちょっと出て手をいれる。毎日
何回か手をいれる(折紙の方が気分

転換じゃないの、と友人にからかわ
れたが)。激しい雨の夜は、野菜
や花が倒れないかと布団の中で
雨音が気になる。野菜作りは楽し
い。花作りも楽しい。ほめられると
ほんわりうれしい。やればやっただ
け成果がでる。一日中やってい
られそうだ。折紙と同じだ。どこかで
「今日はおしまい」にしないと。

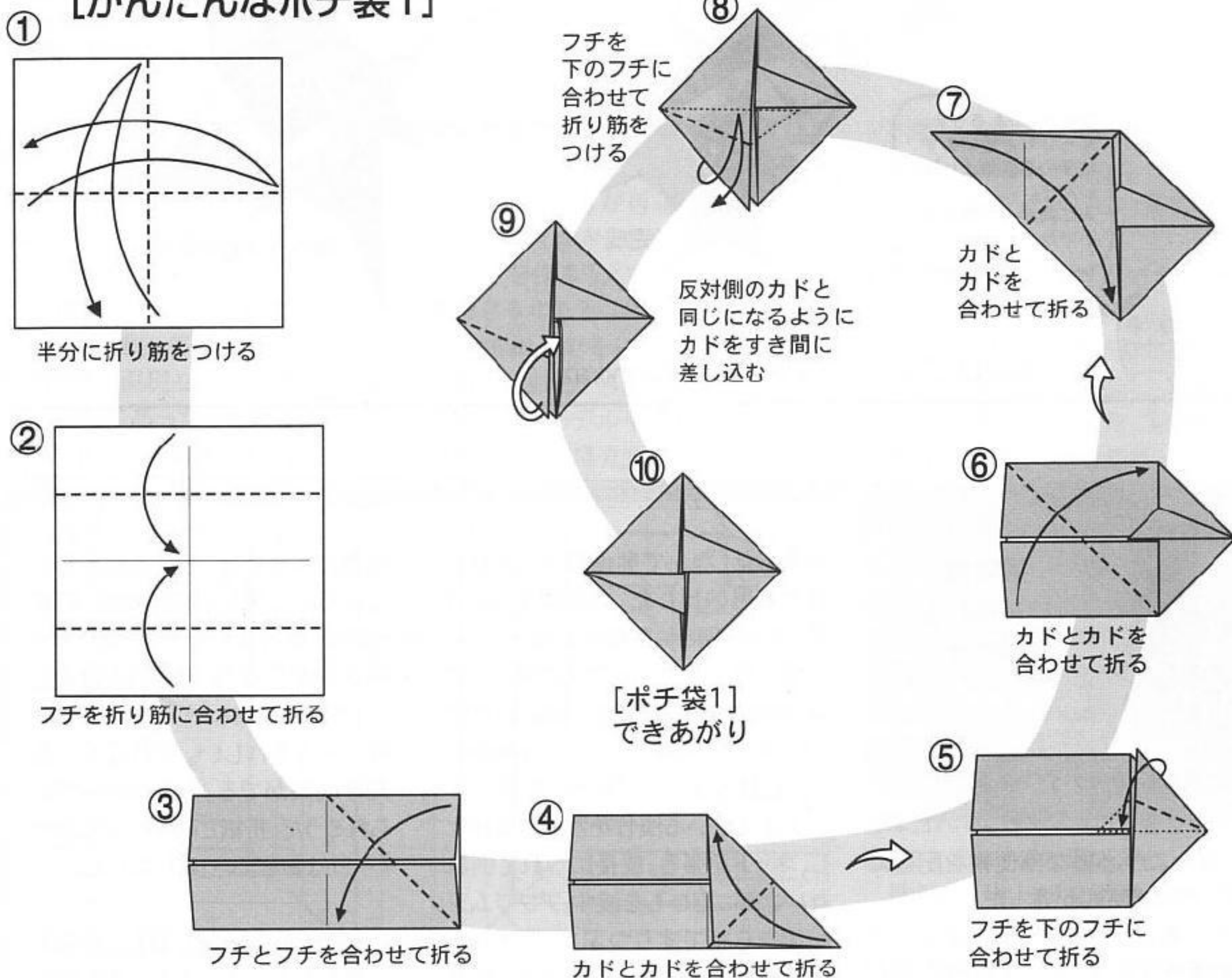
「キツネの子かとおもったらあ
んたんとこのネコかね。えらいい
服着てるね」と配りものにきた
役場の人にいわれる。服とは毛並
みのこと。この辺ではよく使う。ほ
められたように感じる。「あんた
んとこのネコはガイジンだね」ともい
われる。これはほめられたのだろ
うか……?

第43回 かんたんなポチ袋・ペーパーホルダー A Small Envelope (for Wishes), Paper Holder

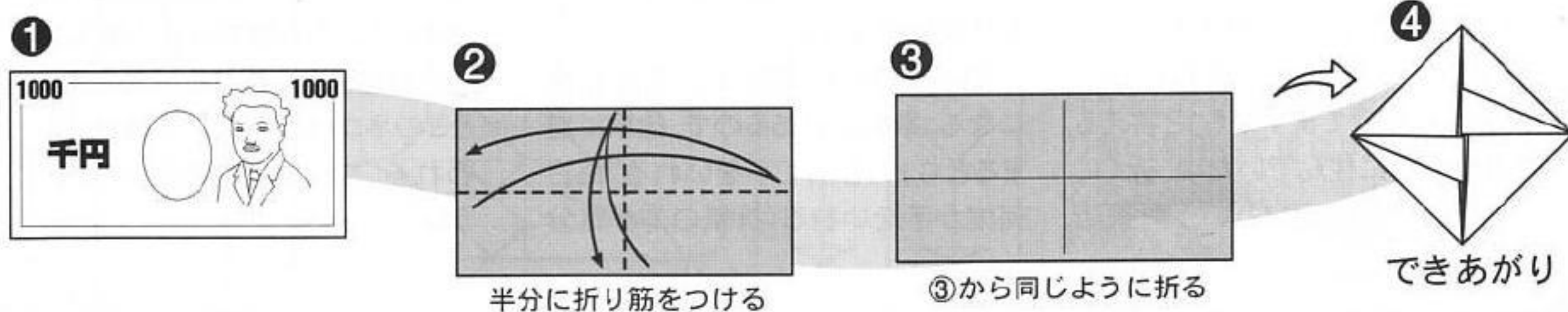
とてもシンプルで、実用的な作品を2つ紹介します。ポチ袋は、紙幣を使って折ってもよいでしょう。



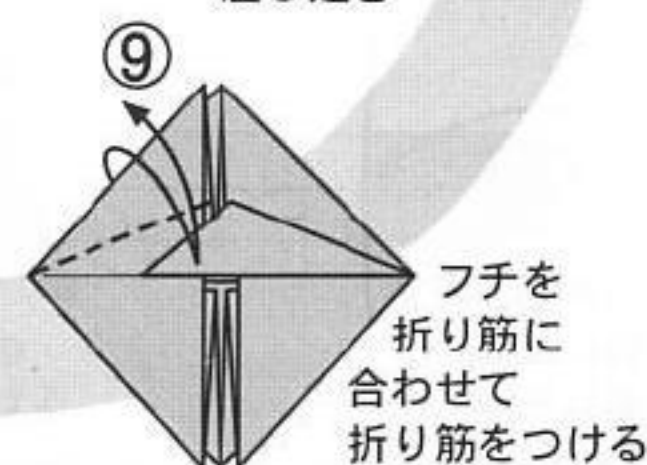
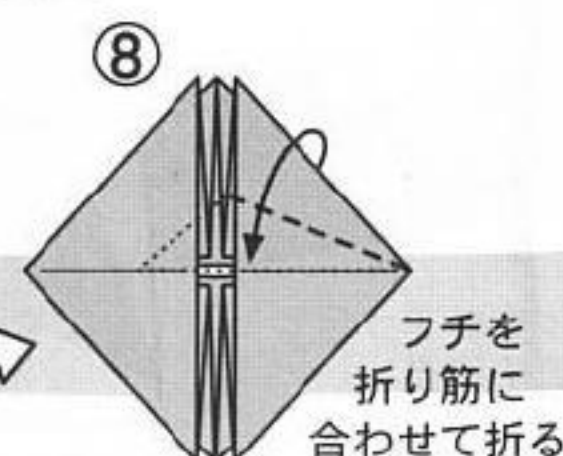
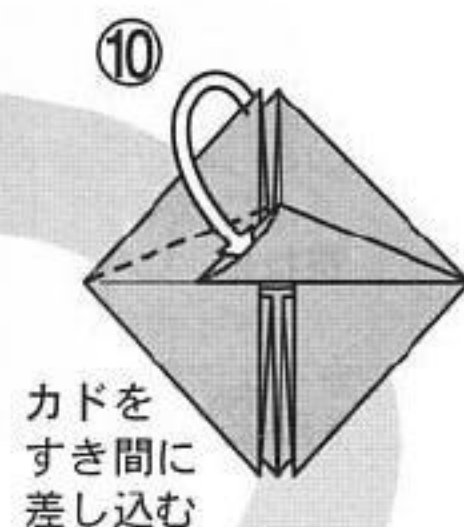
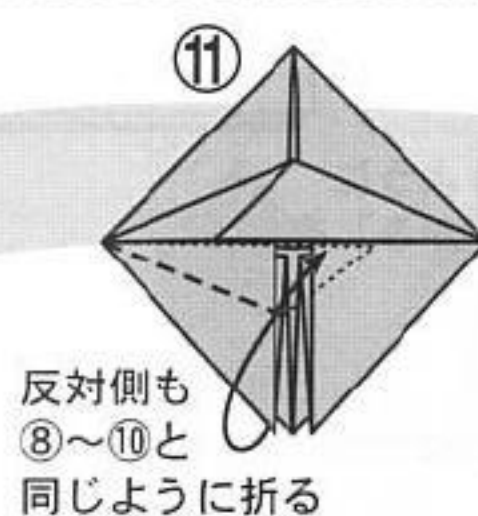
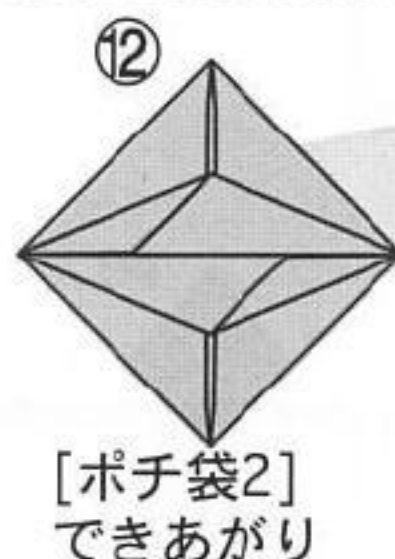
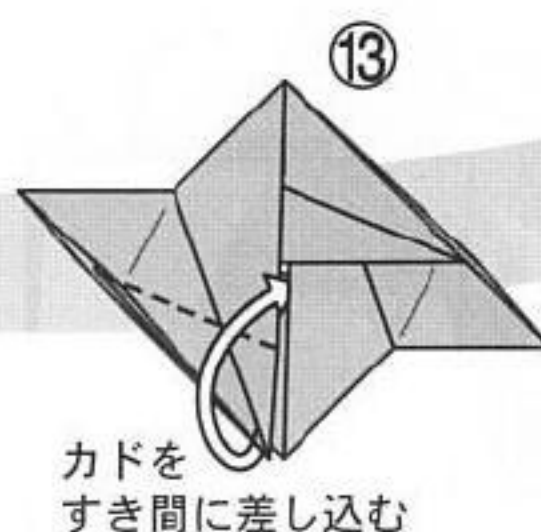
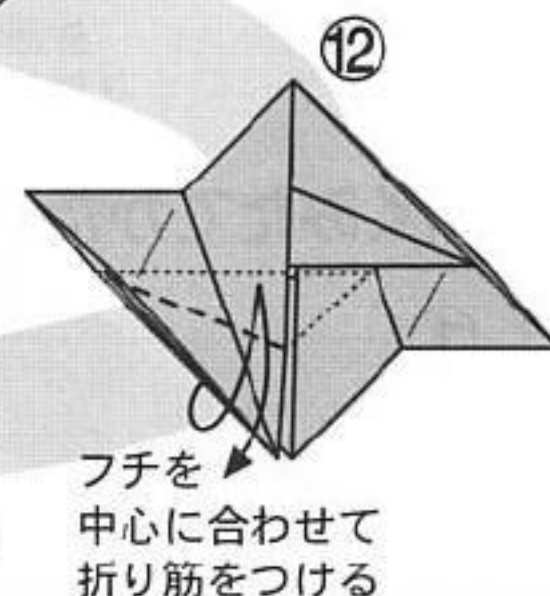
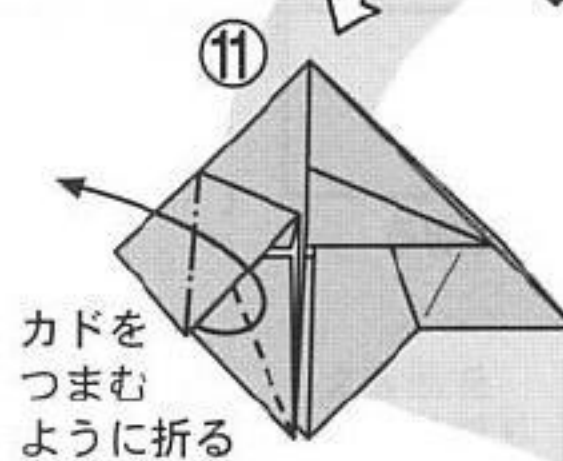
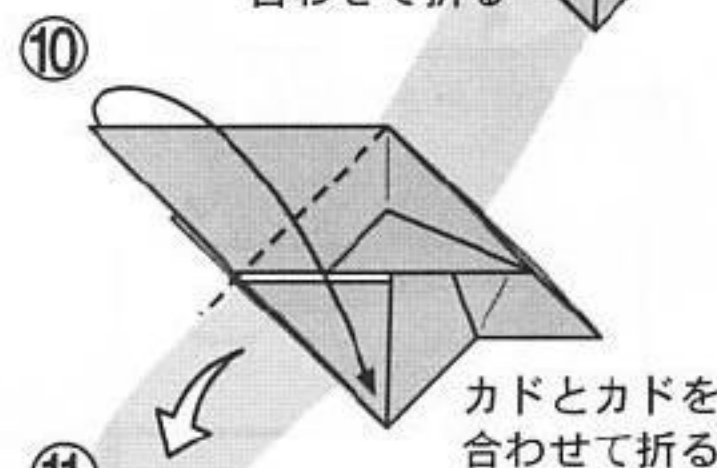
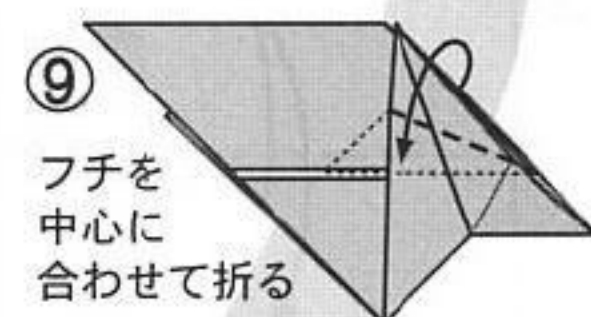
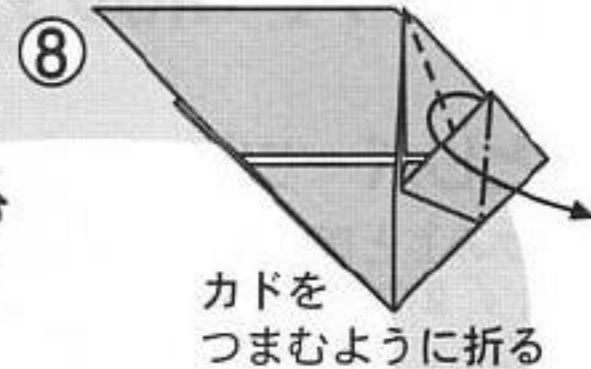
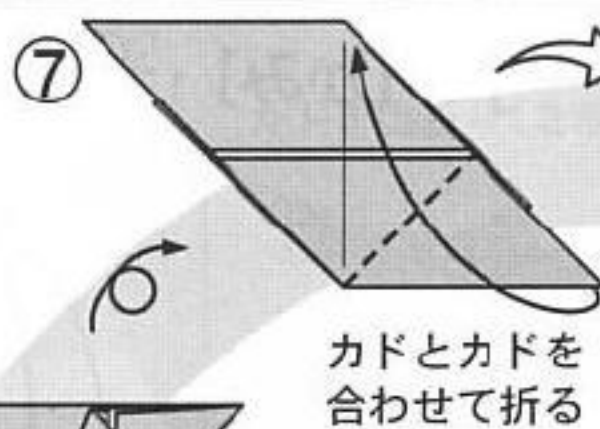
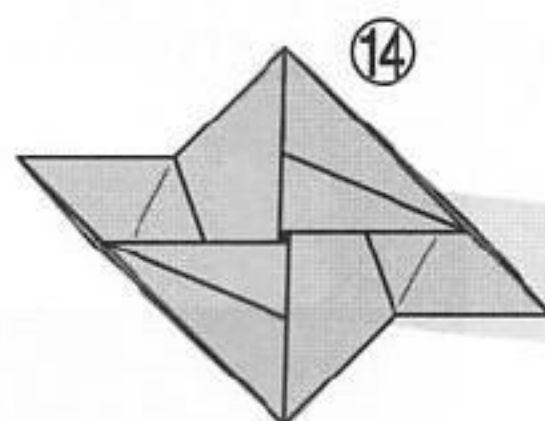
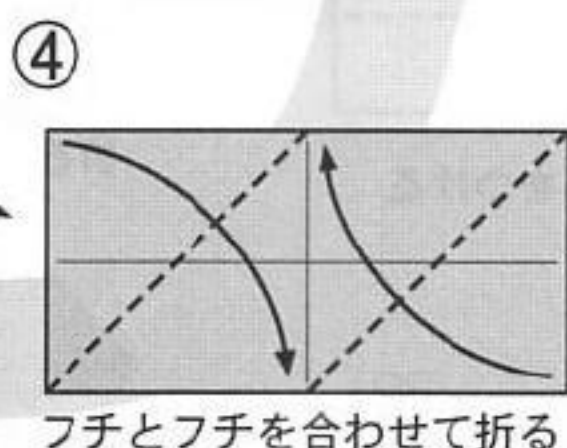
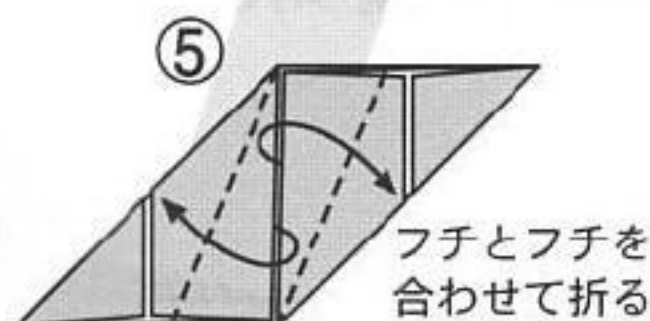
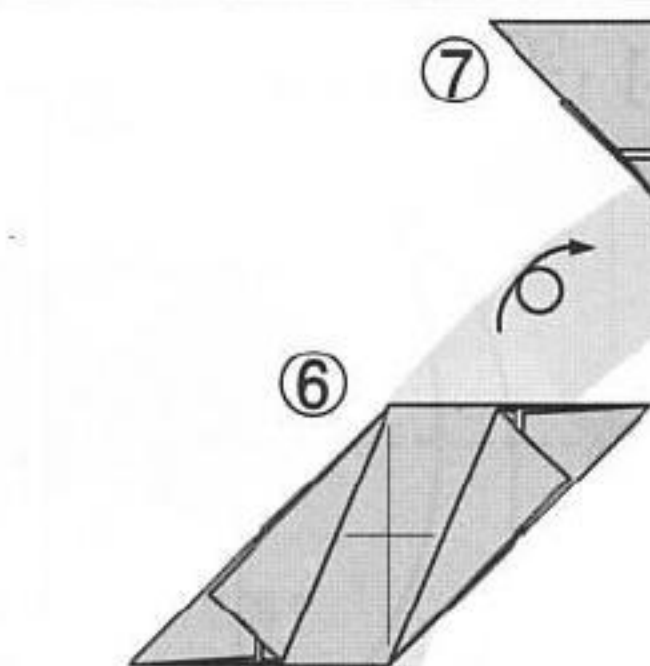
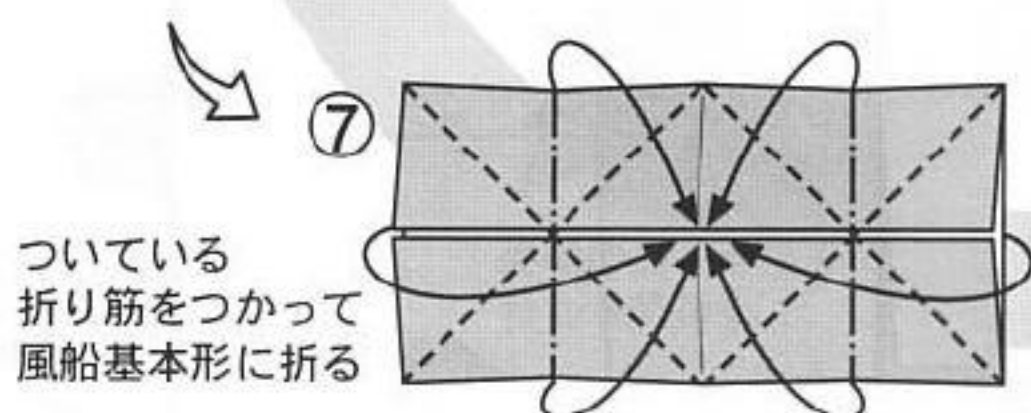
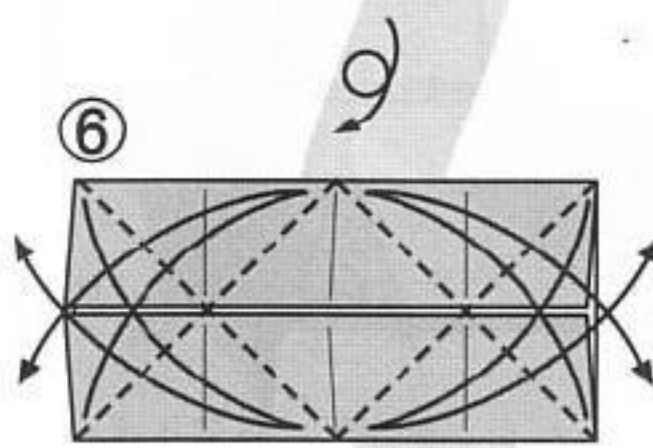
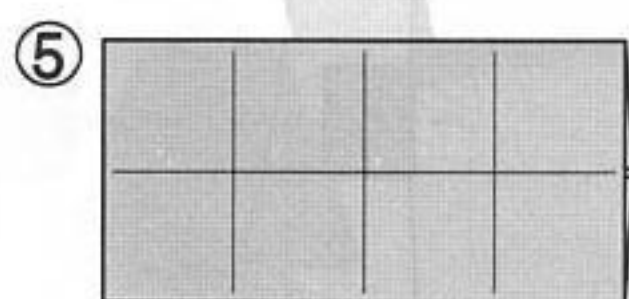
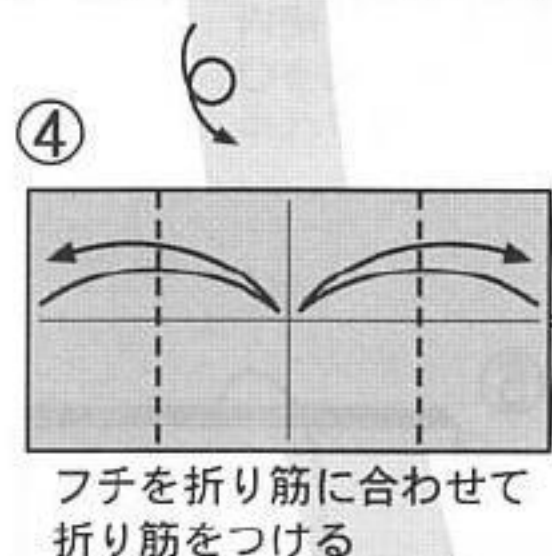
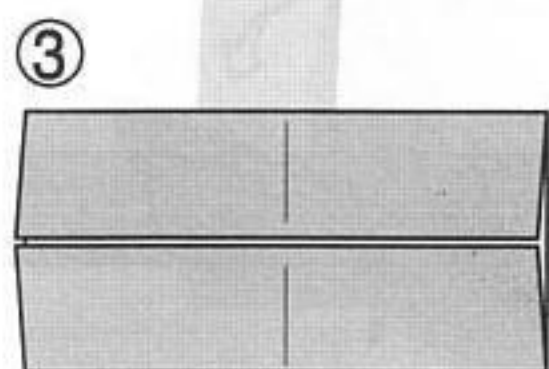
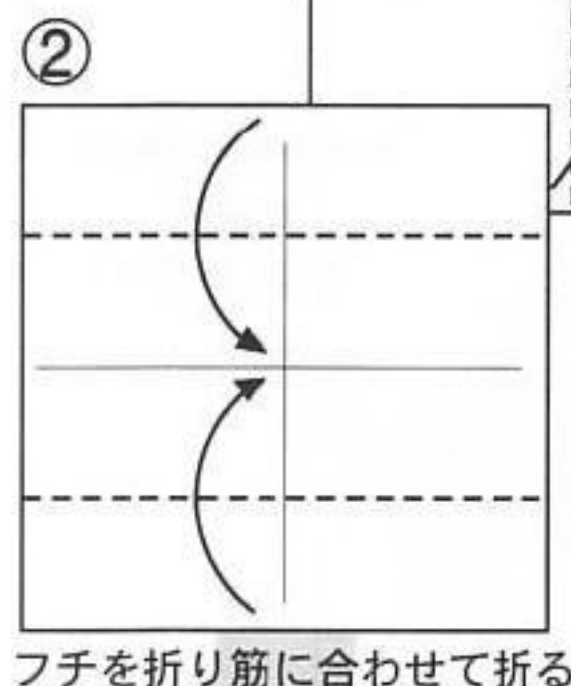
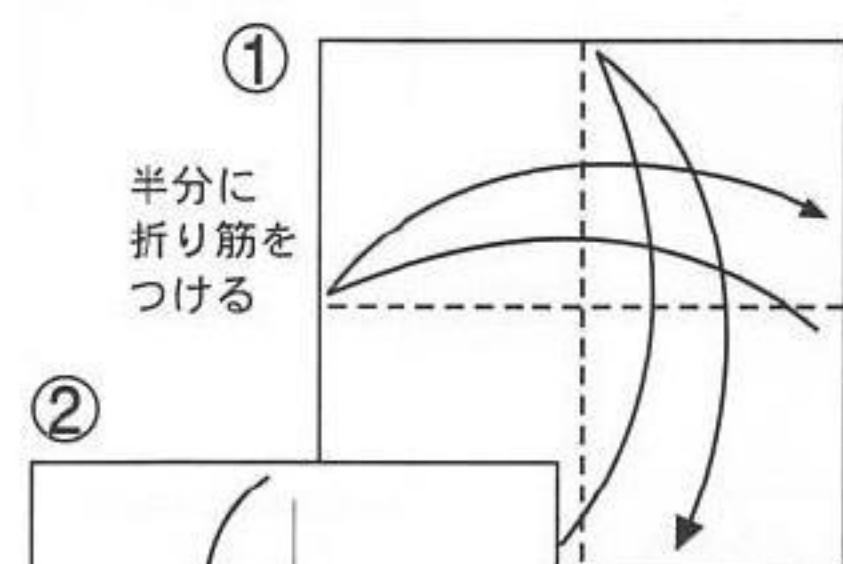
① [かんたんなポチ袋1]



お札で折ってみる



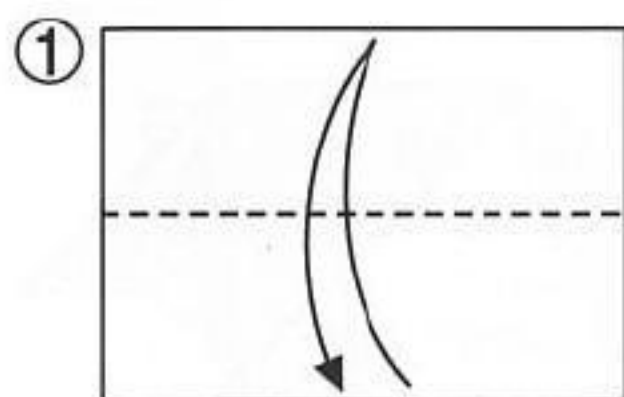
[かんたんポチ袋2、3]



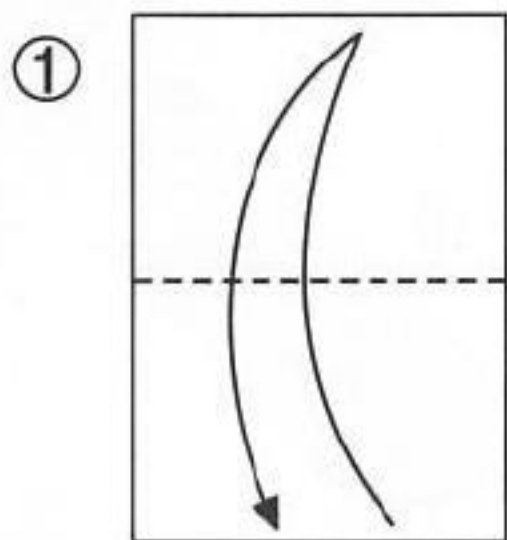
【ペーパーホルダー】 【かみ】 1 : $\sqrt{2}$ の紙を使う

【とじパーツ】

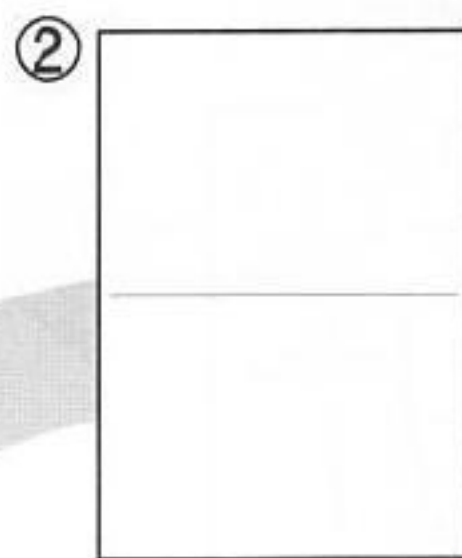
【かみ】と同じ大きさの
1 : $\sqrt{2}$ の紙を使う



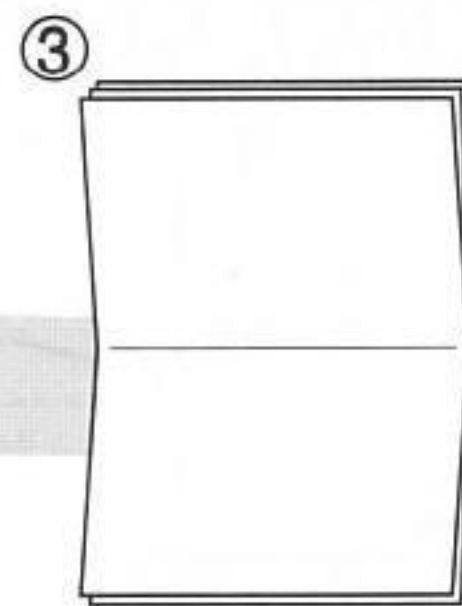
① 半分に折り筋をつける



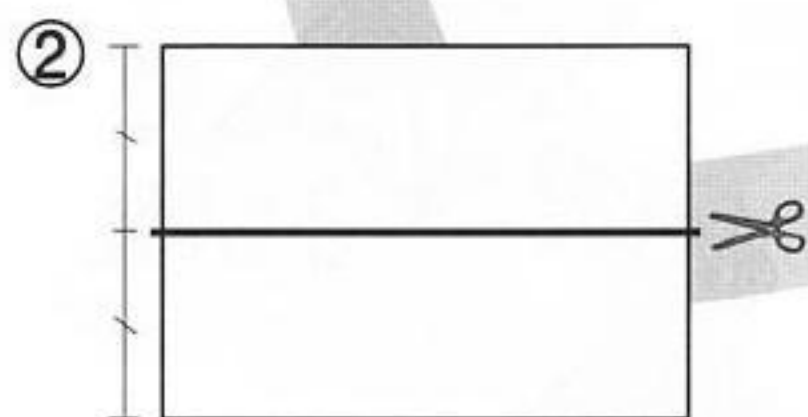
② 半分に折り筋をつける



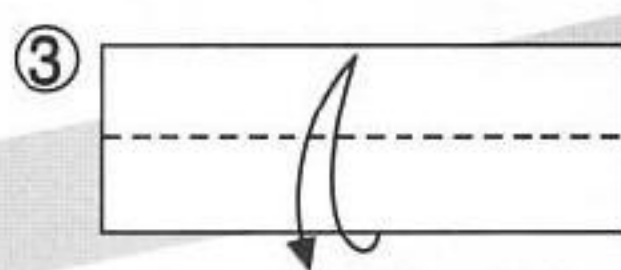
③ 同じものを数枚
作って重ねる



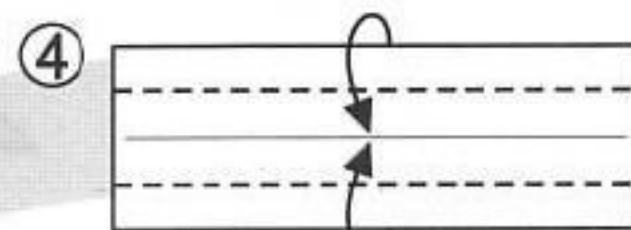
④ 【かみ】
できあがり



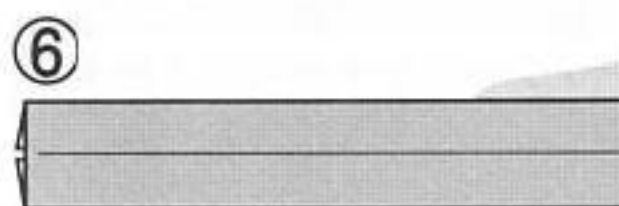
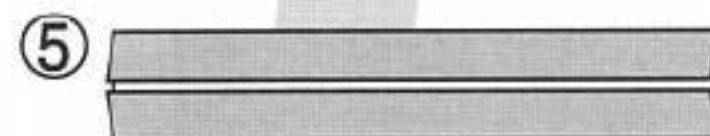
⑤ つけた折り筋で切る



⑥ 半分に折り筋をつける

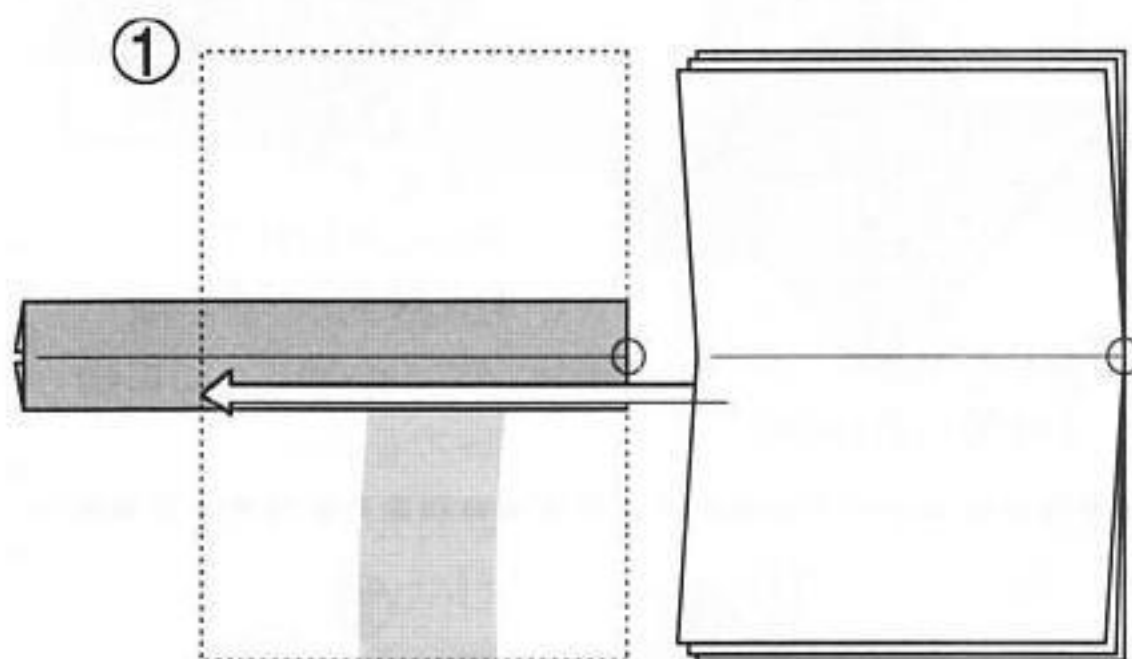


⑦ フチを折り筋に合わせて
折る

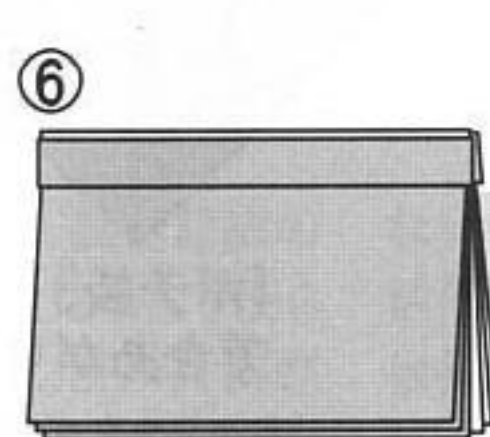


⑩ 【とじパーツ】
できあがり

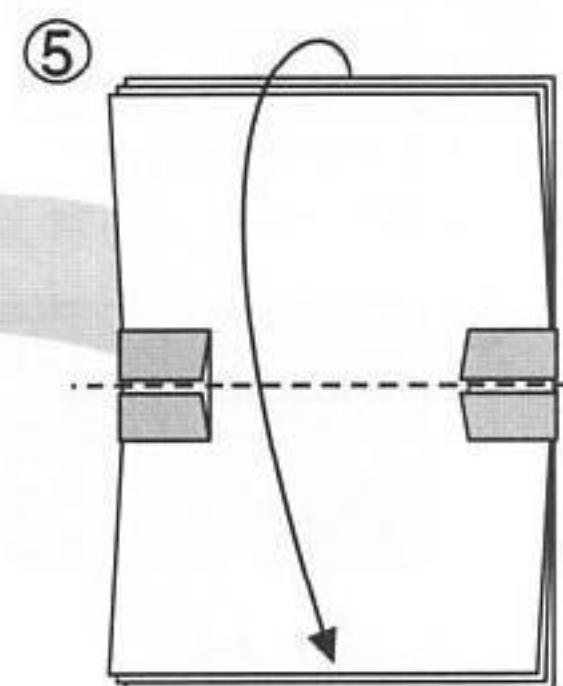
【くみたてかた】



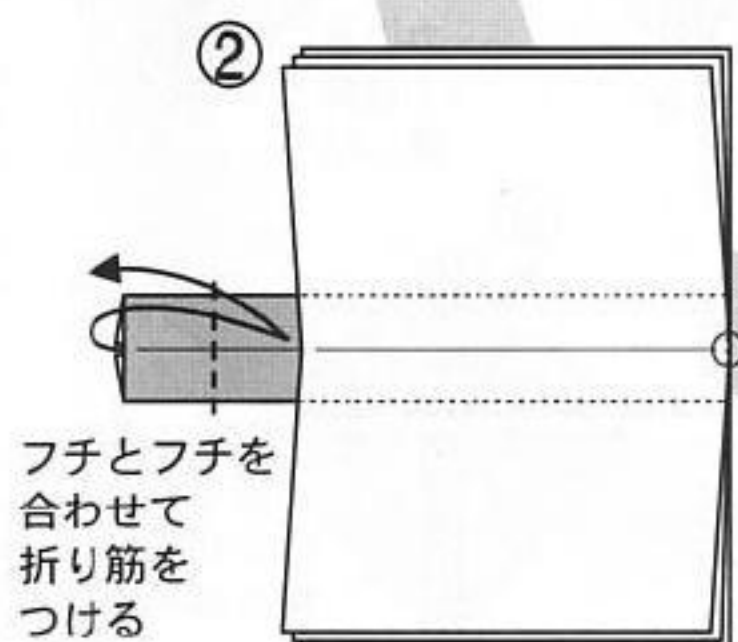
① ○と○の位置が合うように
【とじパーツ】に【かみ】を
重ねる



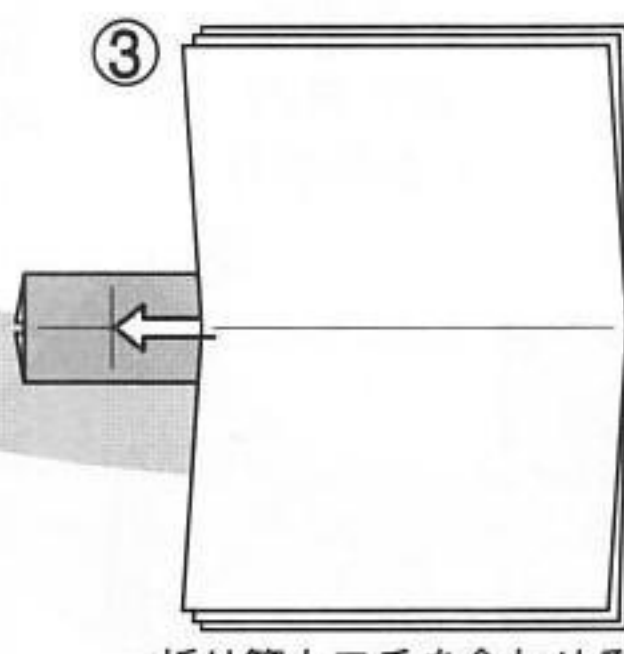
② できあがり



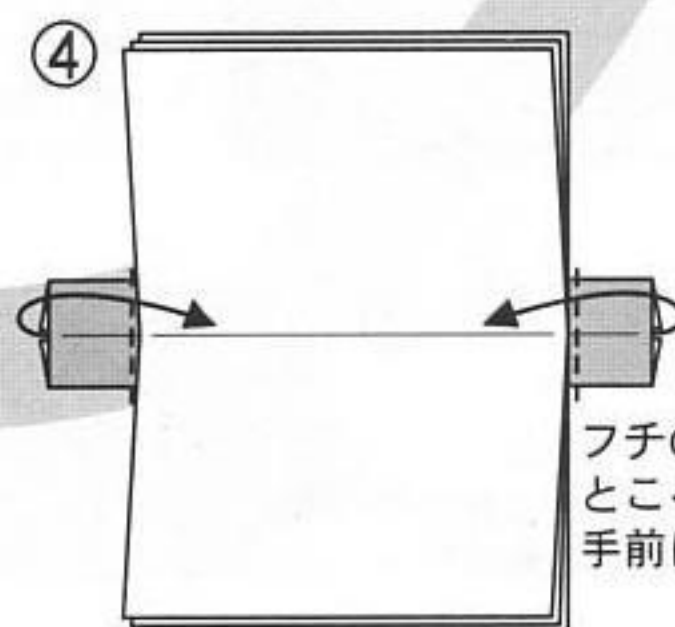
③ 半分に折る



④ フチとフチを
合わせて
折り筋を
つける



⑤ 折り筋とフチを合わせる



⑥ フチの
ところで
手前に折る

サキュバスの羽はどうやって伸ばす

What We Should Do When We Need Longer Wings for Succubus

宮本宙也

Miyamoto Chuya

1. はじめに

私は、自作品を完成させることがめったにできません。試作品を作っても、気になる箇所が見つければそれを解決するために改良し、次の試作品を作ります。そして改良した試作品を作っても、また新しく気になる箇所が見つければそれを解決するために改良し、次の試作品を作ります。そして更に改良した試作品を作っても、また新しく気になる箇所が見つければそれを解決するために改良し、次の試作品を作ります。いくら試作を重ねても十分に条件を満たす作品ができないので、試作のままお蔵入りになる作品が山ほどあります。そもそも私は、適切な折り方を見つけるといふその行為自体を苦手とします。そのため改良するにしても、膨大な数の試作とそのための時間を費やした末、改善策を見つけることすら至らず開発を頓挫させてしまう場合が殆どです。

カラーページのサキュバスもその一例です。今回、なんとか完成を間に合わせることができましたが、クローズアップ記事なんて依頼されなければずっと試作のままでした。

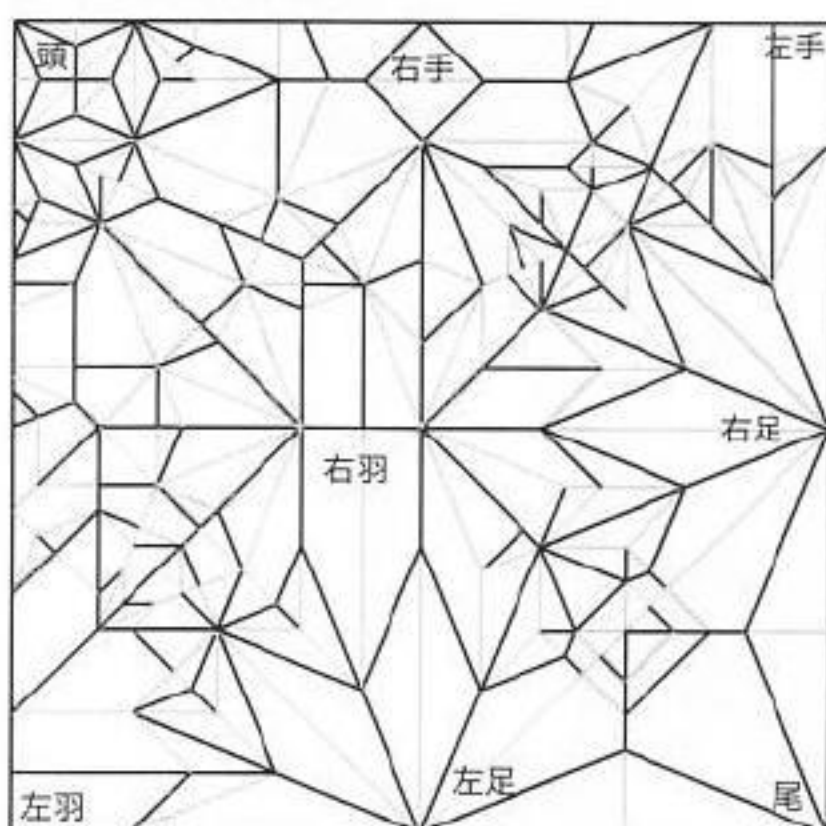


図1 サキュバス(試作1)の展開図

図1は、途中の試作段階の展開図です。ここに至るまでにも様々な試作を経ており、今度こそこれで終わりだと意気込んで作った基本形(図2)となります。ところがいざ仕上げようとする、完成写真のようにきれいに仕上げる事ができません。さて、この記事をご覧の皆様で、創作に関してもっと技術を深めたいと望んでいる方には、図1の展開図を実際に折ってみることをお勧めします。そして自己流で構わないので、仕上げを試みてください。きっと、右羽をなかなか格好良く仕上げられずに困ると思います。

展開図の、羽の部分の拡大図です(図3)。紙のカドと内部をそれぞれ羽に使っていますが、なるべく条件が同じになるように、左右対称の形状の展開図を埋め込んでいます。いくつかの山谷の違いはありますが、結果、羽のカドは左右とも同じ形状になりました。それなのに、右羽は左羽に比べて、長さが足りないように感じます。内部カドだからでしょうか？とにかくここで課題発見です。右羽のカドを、格好良く仕上げられるようになんとかしなければなりません。

この配置に至った経緯や創作の動機、デザインの拘り等、サキュバスにおいて語りたい話題は沢山あります。しか

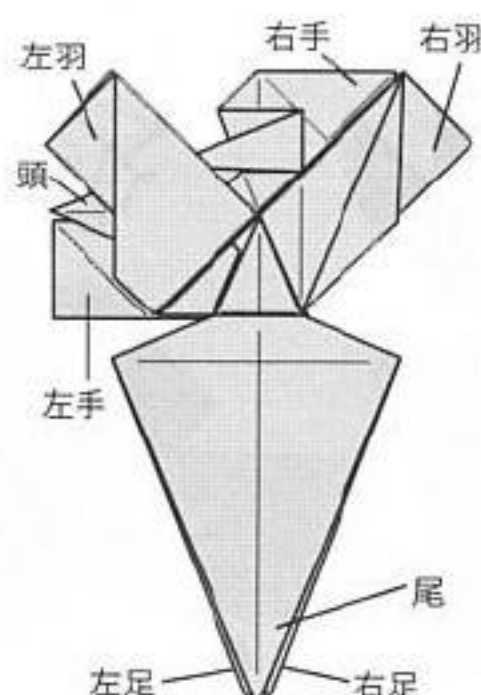


図2 サキュバス(試作1)の基本形

し本記事ではそういった話は一切出しません。ただ一点、「右羽のカドをどのようにして伸ばしたか」についてのみ記述します。展開図を折って頂けた皆さんには、この問題解決にも取り組んでもらいたいです。ここで一旦記事を読むのを止め、サキュバスの羽はどうやって伸ばすといいか、各々考えてみてください。そして答えを出した、あるいはどうしても答えが出ないときに続きを読み、私が実際に行った方法と比較して頂きたいです。そうすることで他者の思考をより効果的に理解し、取り入れることができると思います。ただし前述のとおり私は完成しないのが作風のようなものなので、取り入れるのも程々にした方がいいかもしれません。

やっとイントロダクションが終わりですが、どのように改良したかの詳細を追う前に、少し違う話から入ります。基本となる考え方の話なので、次の章を読んでから改良に取り組んでもいいでしょう。

2. 覚えておきたいこと

改善策を考える前に、右羽のカドは何故加工し辛いのか、原因を明らかにしなければなりません。内部カドだからと言ってしまえばそれまでですが、もっと原理的に考えてみましょう。

カドを加工するときに意識しておいて欲しいのは、実際の長さで見かけの長さは違うという点です。図4のようにカドを

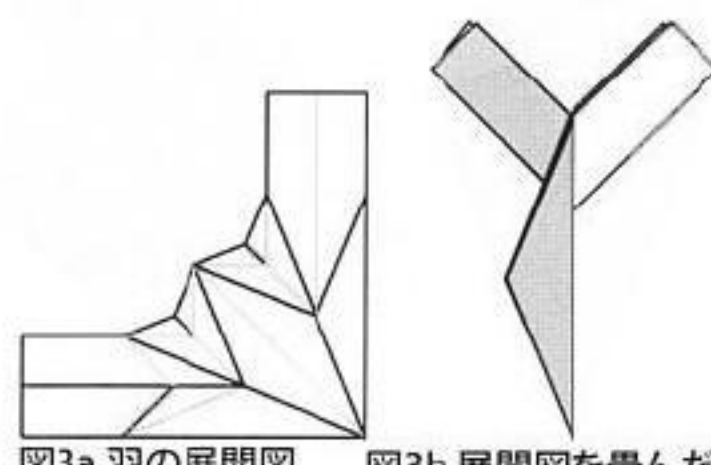


図3a 羽の展開図 図3b 展開図を畳んだ形
図3 羽部分の展開図と畳んだ形

サキュバスの羽はどうやって伸ばす

What We Should Do When We Need Longer Wings for Succubus

宮本 宙也

Miyamoto Chuya

段折りすると、カドの太さの分だけ本来の長さが引かれてしまいます。段折りの折り目を逆にすると、動物の足が背骨から出ているように見せることができますが、図4bのように紙が後ろに隠されて見えない場合は完全に損です。さて、殆どの場合、カドの長さは基本形の段階で既に決まっているので、これ以上長くしようとするならば仕上げの加工でどうにかしなければいけません。「カドの先端」Bを動かそうとすると基本形から考え直さなければいけませんし、「見かけ上のカドの始点」Cの移動は完成形のバランスを崩してしまいます。とすると加工において移動させる点は、「カドの本来の始点」Aとなります。下に、仕上げの加工の例を示します。

専ら、AをCに近付け、引かれる太さの分を小さくする方向性で考えます。細いカドほど長く出しやすいというわけです。カドを細くする処理としては図5b,cのよ

うなものが一般的ですが、5dのように、AをBから遠ざけることでカドの長さを伸ばす方法もあります。

ここで説明したのは基本形の後の加工についてです。サキュバスの右羽のように内部カドで、しかもどう考えても基本形の見直しから必要な場合に当てはまる話ではありません。しかしカドの加工における「先端」と「見かけの始点」と「本来の始点」の関係を頭に入れておかないと、サキュバスの右羽を短く感じる理由も説明ができません。そう、「本来の始点」の移動が、右羽のカドではできないのです。

3. 先端を移動させる

カドの先端をB1,2、背中の頂点をC、それぞれの羽の始点をA1,2とします(図6)。羽は背中から出ているように見せたいので、背中の頂点が「見かけの始点」Cとなります。仕上げの際にCも移動させるのですが、ほんの少ししか動かさないので、やはりA1,2を動かすことで羽のカドを加工していきます。

左羽の始点A1

の少ししか動かさないので、やはりA1,2を動かすことで羽のカドを加工していきます。

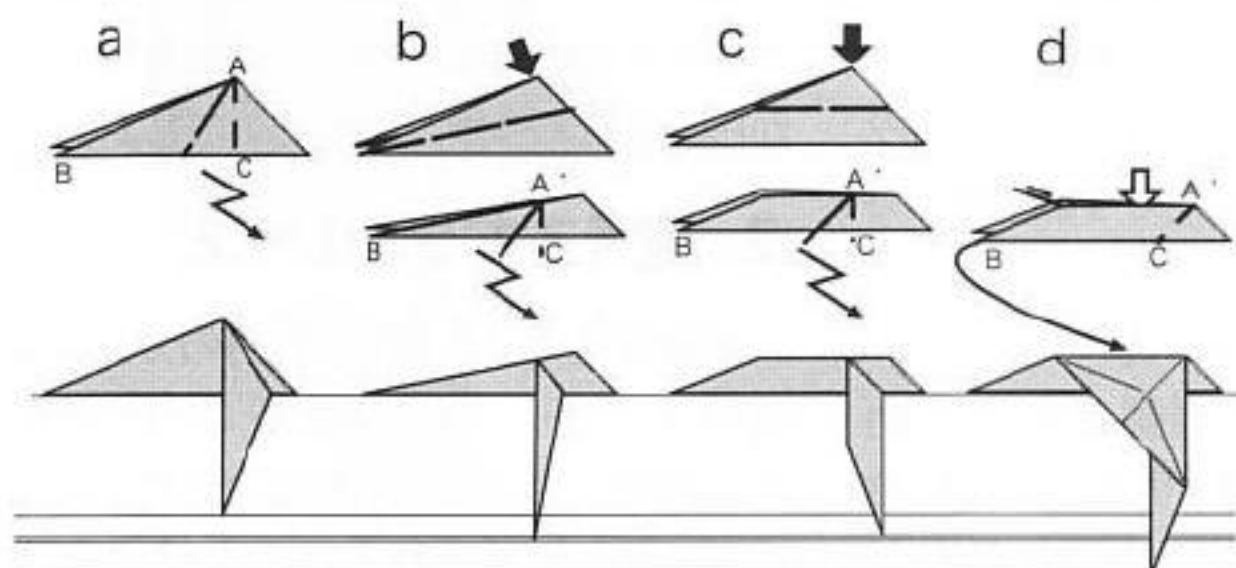


図5 カドの仕上げ処理の例

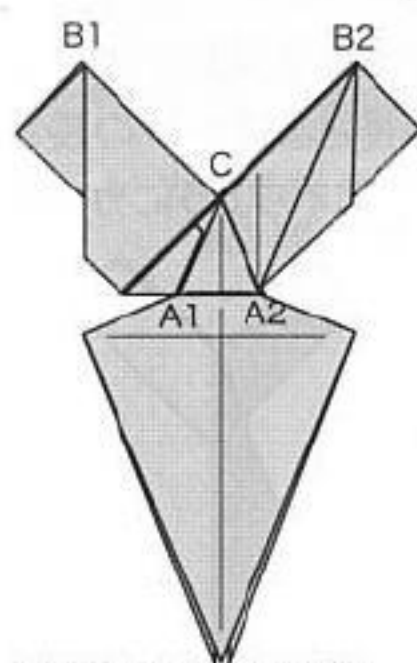


図6 それぞれのカドの位置関係

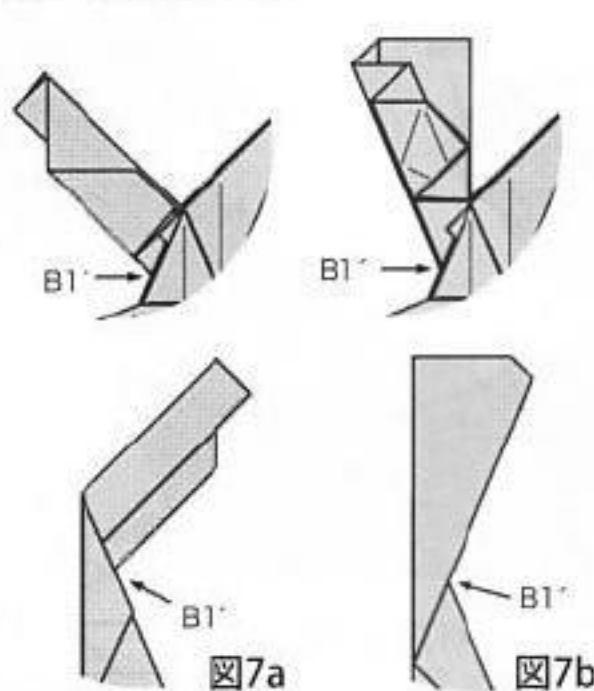


図7 左羽のカドの処理の一例

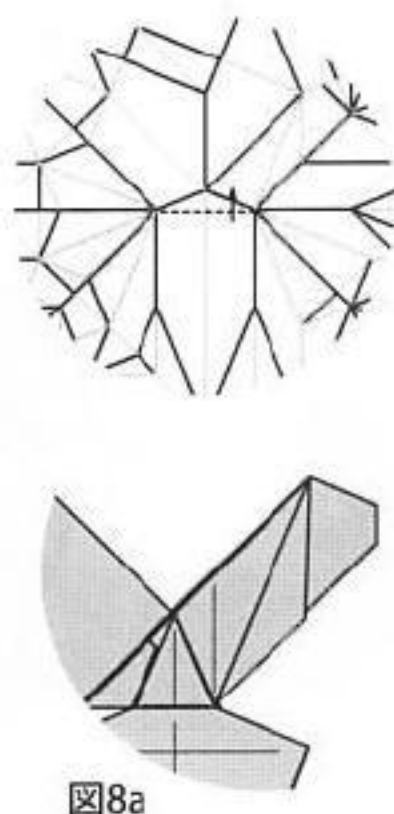


図8 羽の先端を移動させる一例

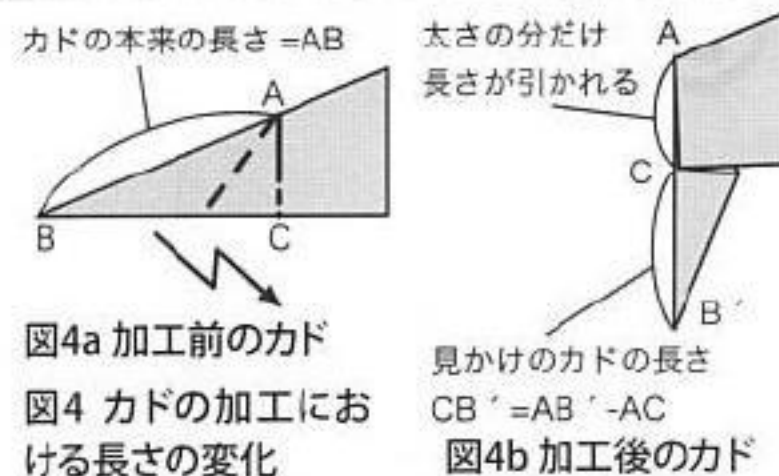


図4a 加工前のカド

図4 カドの加工における長さの変化

図4b 加工後のカド

は、図7に示したような処理で上に移動させることができます。右羽の始点A2を移動させる方法は、どなたか思いついたでしょうか。私は思いつきませんでした。あらゆる場所の紙がこの一点に集中しているため、他に影響させず仕上げの加工を施すのが困難になっています。基本形から見直し、最初からA2の位置を高めに設定するしかないでしょう。

基本形から見直すならば、他の点はどうでしょう？ 見かけの始点Cは、デザイン上まず考えられません。とするとB2ですが、羽を伸ばすのが目的なので、当然A2やCから離れる方向に移動させます。既にある頂点をずらすよりは、今まで紙が無かったところに新しく頂点を作る方が、周りへの影響は少なそうです。B2を移動させましょう。

22.5°を基調としているので、とりあえず図8の位置で羽の頂点をとり、まとめてみました。もともとB2だった頂点はそのまま残っているので、移動というよりは新しく設定しなおしたことになります。まずは図8aですが、これはあまり伸びた気はしません。A2を基点として上へ折り上げた場合は、図7bのように折った左羽と、高さが等しくなります。しかし仕上げようとすると角度の構成が悪いのか、結局羽らしく仕上げられません。

そこで図8bの位置で頂点を取ると、ようやく大きさも形も羽を仕上げるのに適した力

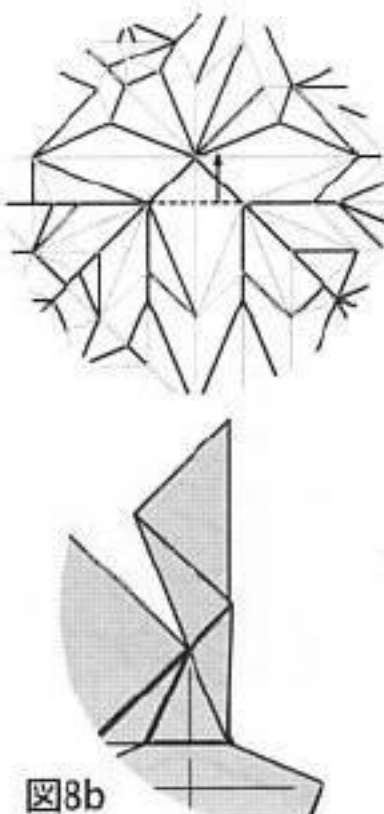


図9 頂点の位置関係

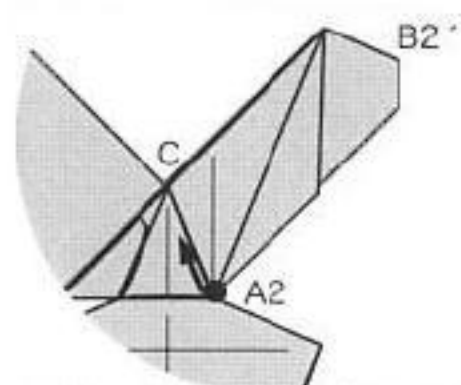


図10a 基本形におけるイメージ

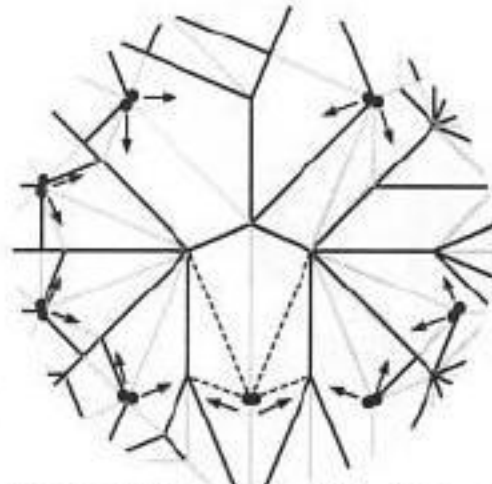


図10b 展開図におけるイメージ

◀図10 始点A2を移動させるために制御しなければならない頂点

○宮本宙也(みやもと・ちゅうや)=サキュバスはキリスト教の悪魔です。ご存じなくても、インターネット等で検索はしないでください。青少年に有害なページしか出てきません。



ドが得られました。

が、右腕になるカドとの間が近すぎます(図9)。左羽との間のおよそ半分しか開いてないのでは、仕上げも何もできません。図8aの位置がせいぜい限界だったのでしょうか。さて、「カドの先端」B2の位置をこれ以上遠ざけることができないとなると、結局、A2の位置をどうにかして変えるしかなさそうです。基本形から見直しです。

4. 始点を移動させる

A2をCに近付けるには？ 背中中のラインに沿って始点を移動させるには、展開図上の各頂点を図10bのように移動させなければなりません。その上で展開図を再構成したいのですが、制御しなければならない点の数がここまで増えると気が遠くなります。この方法しかないのでしょうか？

ここで思い出してもらいたいのが、図5dで示した、カドを長く折りだす処理です。「本来の始点」Aを「カドの先端」Bから遠ざけることで、「見かけの始点」Cに近付けるよりも長くカドを折り下げることができました。このカドにおいても、同じことができるのではないのでしょうか。

今までの展開図では、羽のカドの始

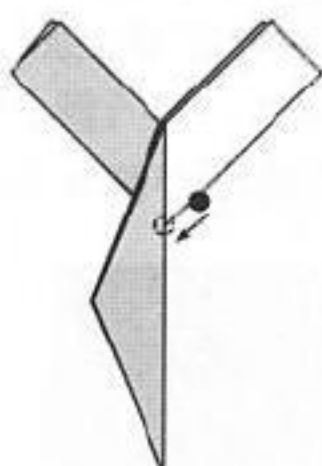


図11a イメージ図

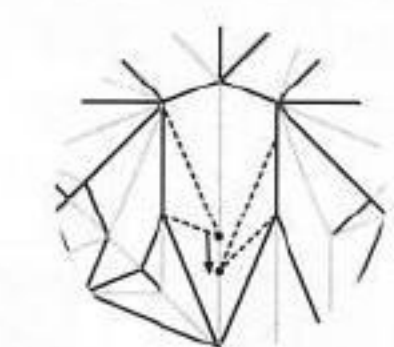


図11b 展開図における操作

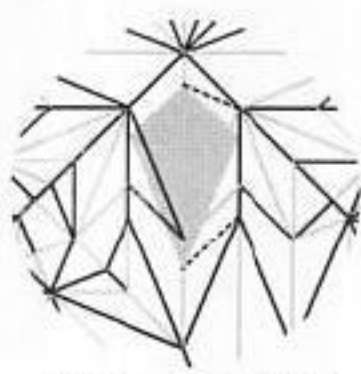


図11c イメージ図

図11 始点A2の移動と展開図上のイメージ

点A2は全て腰のあたりの輪郭に位置しておりました。これをカドの先端から遠ざけて、体の中心線まで移動させてみましょう(図11a)。展開図上での操作は図11bのようになり、図8bのものと同じ形状のカドを出すことができます(図11c)。これなら羽の形状に加工しやすいですね。

この位置に各頂点をとって羽を折りたたむと、図12のようになります。A2'、C、B2' が一直線となり、つまり「カドの加工後」の状態に持っていくことができました。図7bと同じ処理を行えたのです。この時点で $\angle CB2' A2'$ はカドとして成り立たなくなり、新たにできた点B3、A3をもって別のカドとして扱っていきます。

5. サキュバスの完成

文章ではいかにも簡単な方法で解決したように書きましたが、もちろんそのようなことはありません。図11では1箇所しか図に示していませんが、図10bと同様にカドの全周囲において同じような操作を行わなければなりません。図10bに比べれば大分楽なのは明らかですが、紙の周辺をそのままに保ち内部をいじるとするのは骨が折れる作業です。このあたりにも紆余曲折があったのですが、本記事は「右羽のカドをどのようにして伸ばしたか」に関してしか語りません。こ

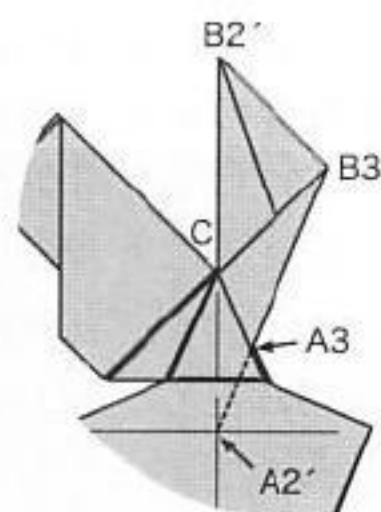


図12 図11に基づいて折りだした羽のカドとそれぞれの点の位置関係

こまで一緒に折り進めて考えて下さった方は、最後の展開図を見る前に自力でまとめてみて下さい。きっと様々なパターンが考えられると思います。そして私の行った処理と比較し、どのように考えてこの展開図に至ったかを推察するとまた他者の思考を取り入れる手助けとなるでしょう。

実際に私自身も、こうして自分の行った試行錯誤のプロセスを文章にまとめることで、新たに気づけたことが沢山あります。今までは言語化しておらず、「なんとなく」や「勘」で済ませ自分でも理解できていなかったものを、ひとつの法則として書き出し知ることができました。実際には本記事で述べたようなわかりやすい経緯を辿って試行錯誤を重ねたわけではなく、順番が前後している部分もありますし、カドの先端や始点の位置関係の考え方なんかはこの記事を書き始めてから思いついたものです。試作を作っているときは本当に勘だけで考えている自覚がなく、読む人に伝えるためにどのように整理し言葉にすればいいのかが随分悩みました。要するに、本記事で述べてきたことは全部嘘です。

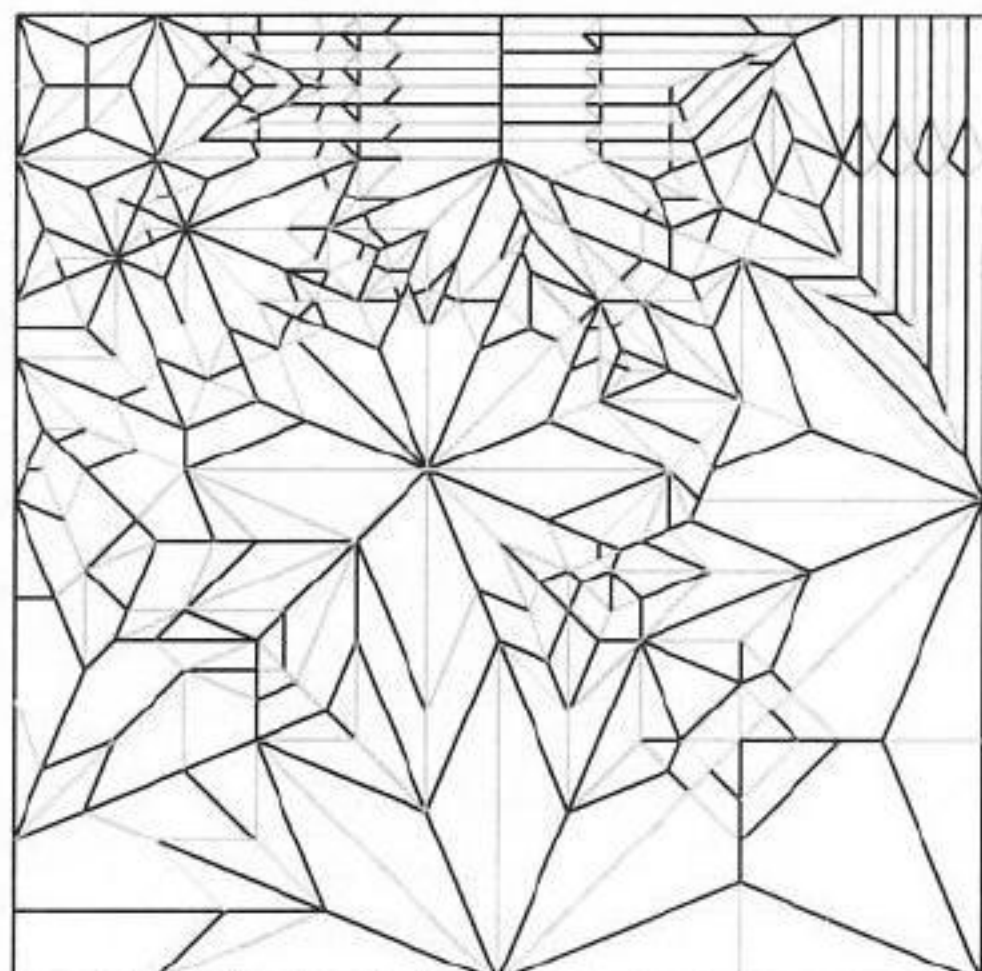


図13 サキュバスの展開図

『千羽鶴折形』再訪

"Senbazuru Orikata" Revisited

岡村昌夫

Okamura Masao

第1回 とりあえず出発 It's Time to Restart

『千羽鶴折形』は不思議な魅力がある本で、折紙史的にはかなり特殊なものでありながら、その「離島リゾート」には世界中の物好き観光客が、常連客になったり、何年かぶりに懐かしくなっておとずれたり、行ったことがなくてもいつかは遊びに行きたいと思っていたりする。私は、島の中の見べき物は見たように思っているのですが、その周辺の小島で何か起こったという情報でもない限り、本島へ渡る余裕を無くしていたのだが、ガイドを頼むという要請が時たまあって、島の歴史を知る若者が少なく、また公式ガイドブックらしきものを見て迷路に案内されても気が付かずに歩き回っている人の多い現状は、気になっていた。最近行ったことがないが、変な近道やパクリ解説などは無視して、大手を振って大通りを歩けるような道しるべを1本立てておくのも、後世のためかとも思う。別に新発見の隠れ里行きのツアーを組むつもりは無く、既に踏査して、地図にも書かれている道の案内である。それでもたまには誰も書かなかった裏道などを通る場合があるかも知れないので、隔号だが、しばらくの間のお付き合いを是非お願いしたいものである。

題名 昨年、六本木のサントリー美術館で開催された或る展覧会に、『千羽鶴雛形』の名で出ていたのを見た。まだこの程度の認識なのかと驚いた。この例は、担当の学芸員の資質の問題だけなのかも知れないが、念の為にそこから始めよう。

この本の序文は「千羽鶴折形序」となっていて「せんはつるおりかたのはしかき」という振り仮名が付いている。表紙の題箋(だいせん=貼り外題)は「秘伝千羽鶴折形 完」となっていたのだが、剥

がれて失われている例が多く、後人の手書きによる「書き題箋」が貼られていることがある。その場合は序文に明記されている題名で「千羽鶴折形」と書くのが常識だが、中には「折形」という語になじみのない担当者がいて、うっかり「千羽鶴雛形」と書いてしまう場合もあったと思われる。「書き題箋」はあてにならないのである。

江戸時代からずっと、20年ほど前までは「千羽鶴折形」で通っていた。例えば『国書総目録』(岩波書店刊)でも「秘伝千羽鶴折形」は「千羽鶴折形」の項の解説中に別称として掲載されているだけであった。日本折紙協会が「復刻と解説」(1991)を出したときに、原題箋が初版本も求板本も同一である事を確認して「秘伝千羽鶴折形」を正式名としたのだが、それまでは、求板本になって「秘伝」が新たに付け加えられたという説が不確かなまま書かれていたのだった。この「秘伝」にはほとんど意味が無い。当時この語を冠にする書名は数えきれないほどあって、一種の流行の宣伝用語だった。

更になお、念の為に二点書き添えておこう。

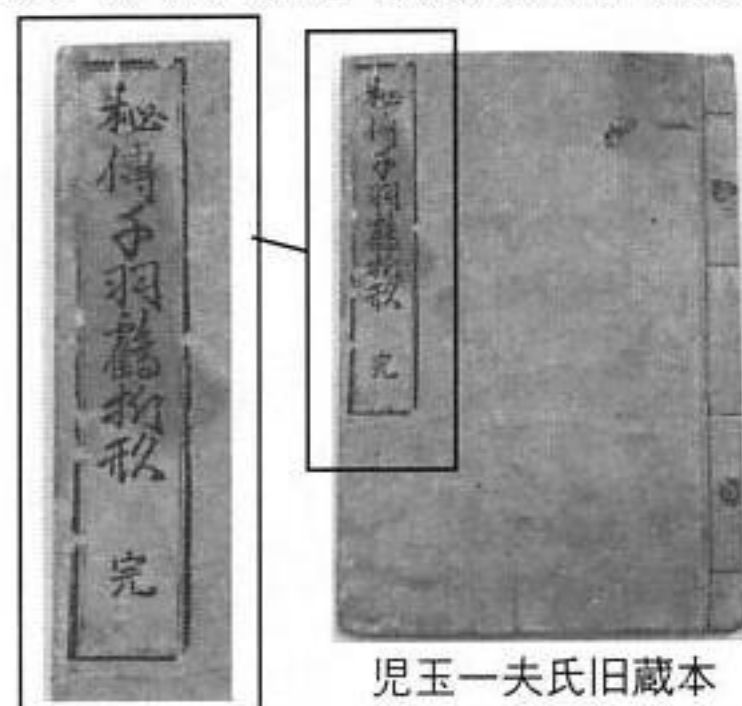
かつては「折形」を「おりがた」と濁って読む人が多かった。一般に、この語は「おりかた」と澄んで読むべきだと荒木真喜雄氏が力説されている。礼法研究家の故山根章弘氏の著書でも「おりかた」だったが、その後継者の山根一城氏が「おりがた」としているの、直接質問した事があった。「父も以前はオリカタでしたが、晩年は濁るようになりました。理由はわかりません。」というお答えだったが、「ガ」がいわゆる「鼻濁音」ならともかく、「ゲャ」だと言われたので、それは全く国語学的にも有り得ないと申しておいた。そ

のせいか最近「おりかた」という説もある、と注記しておられる。

時に「折かた」と書かれていることはあるが、「折がた」と書いた例は見た事がない。それと「折方」と誤記する例もあるので、「か」は清音だったと私は思っている。濁音で読むという根拠も見つからない。

もう一点は、「伝」の字である。原題箋には「傳」という旧字体になっているが、「伝」はその常用字体だから、「傳」は(「フ」と読む)別字だが、「傳」は「伝」と同字である。旧字体でないと気に入らない人は、「鶴」も当時の常用字体で書くべきである。「雨かんむり」の「雨づる」と呼ばれる字体で、当時はそれが普通だった。また「形」の字もツクリを変えて「久」のように書く場合があった。江戸時代には、「正しい字体」を一つに定めるような役所が無く、いちいちバツ(ペケ)を付ける小学校の先生もいなかったの、人々はいろいろな字体を自由に使っていた。もちろん昔も誤字を書く人は多かったが、あまり「めくじら」を立てる人もいなかった。

魯綯『久波奈名所図会』は桑名長円寺の義道の著作物だが、その「長円寺」の項の記事によると、同寺に「魯綯菴(=庵)」という額があって、それは清国人費晴湖が乾隆59



児玉一夫氏旧蔵本

○岡村昌夫（おかむら・まさお）＝1934年東京生まれ。折り紙の歴史研究家。日本折り紙学会顧問。折り紙以外の主な趣味は能・歌舞伎を観ること。



年5月に書いたものと記録されている。この本は桑名地元の研究者たちによって1977年に複製が刊行されているが、この部分の注に「この木額によって義道の雅号は生まれたらしい。」と書いてあるので、私もそれを鵜呑みにしていたが、とんだ間違いである事はすぐに判った。「乾隆59年」という清国の年号は、1794年に当たり、義道が35歳の年だから、その年に書かれた額に基づいて「魯縞庵」という号を付けていたのでは遅すぎるのである。

1790年10月、大坂の町人で著名な「博物学者」木村兼葭堂（けんかどう）が訳有って伊勢の川尻村（現四日市市内）に移住してきた事を知った義道は、その1ヶ月後に半紙200枚を手みやげにして兼葭堂を初訪問した。来客の多い家で、受付係がその日の客の名を紙片に書いて整理しておいて、後で主人が日記に記録したのだが、その日記には「長円寺露紅来」と書かれている（『兼葭堂日記』）。僧侶の立場でなく、文人としての訪問だったから「ろこう」と名乗ったはずだが、初対面の玄関番が「露紅」と書いてしまったのだ。この年義道は32歳だった。すでに「魯縞」という号を名乗っていたことの証拠になるだろう。彼の文人生活は早く始まっていたから、雅号ももっと若いときに付けたものと思う。

さて、「三国志」で、赤壁の戦いの直前、孔明が孫権に対して、曹操軍を撃破する為に手を組もうと説得したとき、遠来の曹操軍は疲弊しているので今なら討てる、「これは俗に言う、いかな強弓も末ともなれば薄絹一枚も射通すことはできぬと申すものでござります。」（立間祥介訳）という有名なセリフがあるが、この「薄衣一枚」の部分の原文が「魯縞」

なのである。魯の国で生産される絹織物は極めて薄いものという。「彊弩之末勢、不能穿魯縞」（彊弩の末勢、魯縞を穿つあたわず）という古いことわざがあった。

もし清国からの亡命者だった長円寺の客人が、自分の仮住まいを「魯縞庵」と称して額を書いたのだとすると、本国の追及もここまでは届かないという意味になるが、義道の雅号を「魯縞」と知って共感して書いたと見るべきだろう。时期的に、雅号の方が早く存在していたと思われるからである。義道自身が選んだ号だとすると、この人物を知る上での大きな手掛かりになるだろう。折紙名人で好人物のお坊さんと人は見るかも知れないが、実はしたたかな強さを秘めた、複雑な魅力のあった人なのだろう。

なお、以上の文中に書いた義道の年齢は、桑名市立美術館（後に博物館）の初代館長になった故平岡潤氏が、義

道は天保5年（1834）の元旦に75歳で亡くなったと『桑名市史』の中に書いているからなのだが、実はその根拠が判らなくなっているのである。長円寺のご住職に直接お聞きしたところでは、お寺の記録でも、天保5年の元旦が命日であることは確かだが、享年は判らないという。しかし、平岡さんが書いたのだから、何か典拠があったに違いない、と地元の研究者たちは信じている。それほど信頼の厚い氏に関しては、この連載中にまた登場していただくことになるだろうが、ここで、その75歳説によると、義道の最初の著『古語園』は19歳での作ということになり、これは不自然とは思えないので、私もその説によっている次第である。

そうだとすると、『秘伝千羽鶴折形』が出版された寛政9年（1797）には、38歳だったということになる。編著者の秋里籬島は、そのとき既に60歳を超えた著名なベストセラー作家だった。



『久波奈名所図会』桑名の案内記。義道著。挿絵は工藤麟溪。1802年に出来上がり、1804年に京都吉野屋為八で出版されることになったが、おそらく版元倒産のため、義道自筆の完成原稿のままで残されていた。奇跡的に戦災を免れ、1977年、久波奈古典籍刊行会により、初めて出版された。

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

羽鳥公士郎 Hatori Koshiro

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/>にアクセスしてください。

20 冊目 『The Kindergarten Guide Vol. 2: The Occupations

マリア・クラウス＝ベルテ&ジョン・クラウス著

"The Kindergarten Guide Vol. 2: The Occupations" by Maria Kraus-Boelte & John Kraus

「幼稚園(Kindergarten)」という言葉を作ったのは、19世紀ドイツの教育家フリードリッヒ・フレーベルです。フレーベルの教育法には、「恩物」と呼ばれる遊具と「手技」と呼ばれる遊戯が含まれ、手技の1つが折り紙です。

今回紹介する『The Kindergarten Guide Vol. 2: The Occupations』は、11の手技を解説したものです。恩物を紹介する『Vol. 1 The Gifts』と合わせると800ページ以上になり、恩物と手技についてのもっとも包括的な解説書と言ってよいでしょう。7番目の手技である折り紙の部分だけでも50ページにわたっています。

この本は、もともと1877年にアメリカで出版され、Froebel Foundation USAが復刻版を限定出版しました。マリア・クラウス＝ベルテは、フレーベルの未亡人ルイーズの指導を受け、ロンドンの幼稚園で教えた後、夫のジョン・クラウスとともにニューヨークに幼稚園を開設しました。裏表紙の紹介文によると、ルイーズ・フレーベルはクラウス＝ベルテのことを「フレーベルの精神上的の娘」と呼んでおり、この本は

19世紀末の幼稚園運動のバイブルだったということです。

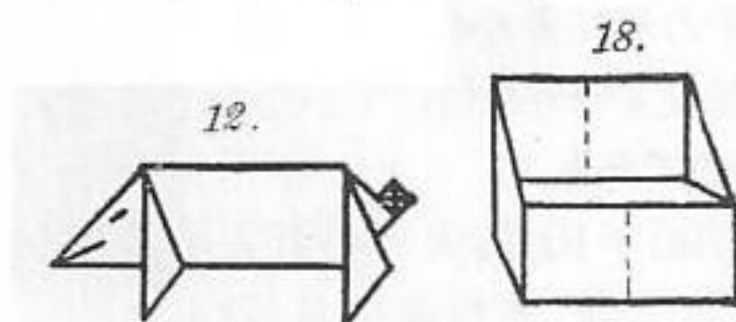
フレーベルの教育法では、子供の自発的な活動を通して、創造性を養うと

ともに数学的な感覚を習得させることに主眼がおかれます。なかでも折り紙は、非常に単純なことから始めて、論理的に複雑さを増してゆき、最後にはほとんど芸術と言える地点にまで到達すると述べられています。クラウス＝ベルテは、折り紙は「もっとも包括的な手技の1つ」であり、すべての造形にとっての準備と言ってもよいと書いています。

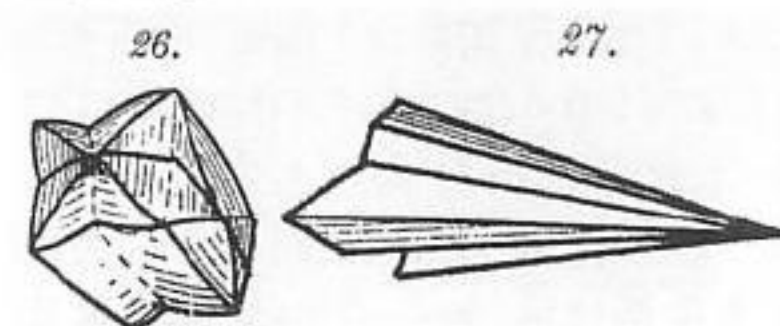
フレーベルの恩物と手技は、生活の形式、認識の形式、美の形式の3つに分けられます。生活の形式は、日常的なものの形を再現するもので、いわゆる伝承折り紙のほとんどは生活の形式になります。この本には、当時の欧米で伝承されていた作品が数多く掲載されています。といっても、現在のような折り図はなく、折り方はすべて言葉で書かれており、完成図のみが記載されています。紙を2つに折って「本」や「テント」というものまで含めると、作品の数は100近くになります。

それらの作品を眺めると、日本の折り紙を取り入れた形跡がまったく見られないことに気がつきます。「パハリータ」はありますが、折り鶴はありません。また、「奴さん」とよく似た作品がいくつかあるのに、「奴さん」も「薦僧」もありません。クラウス＝ベルテは、折り紙は古くから「すべての文明国」で行われてきたと書いていますが、この本が書かれたのは明治時代の始めですから、それに日本は含まれていないはずで、この本に記録されている折り紙作品は、すべてヨーロッパで生まれた伝承作品と考えてよいでしょう。

生活の形式の折り紙は、いくつかの系列に分けられています。最初の系列は、正方形を縦横に半分に折ってゆくもので、「本」と「テント」に始まり、「ブタ」や「家」などを經由して、「ソファ」(現在では水平な部分を2つに折って「ピアノ」や「オルガン」と言われています)で終わります。



2つ目の系列では、対角線の折り目が導入されます。正方形を三角に半分に折った「山」に始まり、最終的には「風船」や「矢」などを作ります。「矢」は飛ばして遊ぶものとされており、折り紙飛行機の先祖と言うべきものです。当時はまだ飛行機が発明されていませんから、飛行機が発明される前に折り紙飛行機が発明されていたことになります。



3番目の系列は、座布団折りによるものです。座布団折りしたものを裏返して、もう一度座布団折りしたものを、この本では「single ground-form」と呼んでいます。そこから、「塩入れ」(現在では「パッケンチョ」と呼ばれることが多いようです)、「鳥」(スペイン語では「パハリータ」、フランス語では「ココット」)、「風車」、「二艘舟」など、現在の日本でもおなじみの作品が作

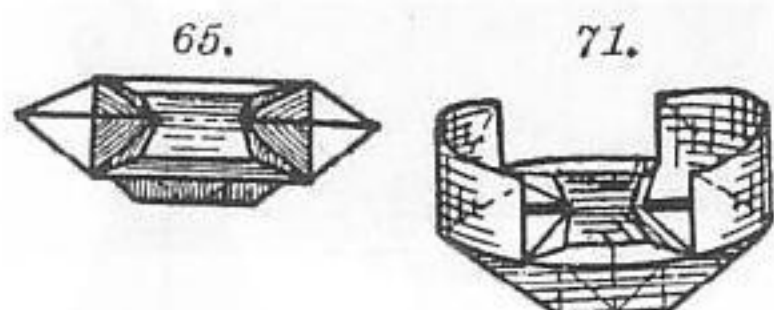


○羽鳥公士郎(はとりこうしろう)=図書館担当。主に図書の管理・検索システムを構築している。本職はウェブディベロッパ／翻訳家。

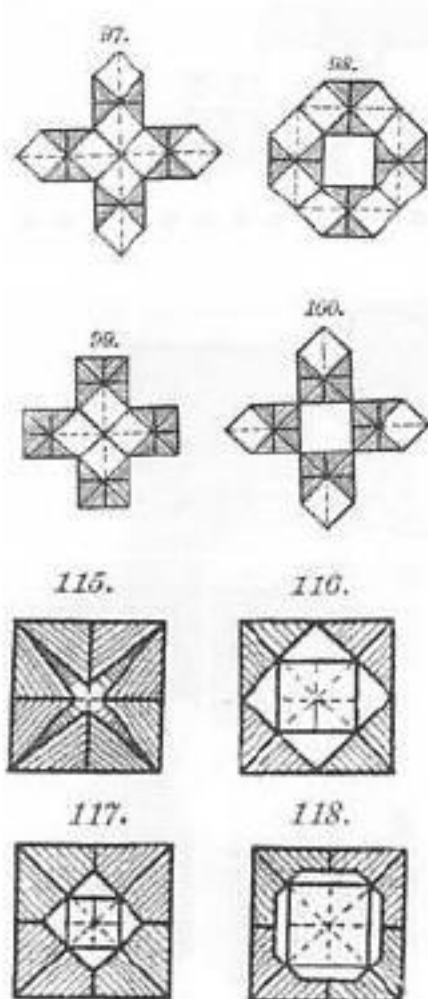


られ、「中国のジャンク船」に至ります。

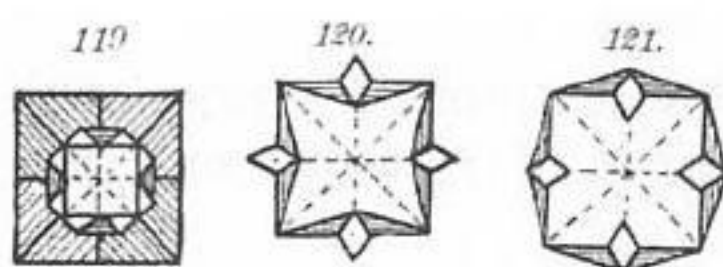
座布団折りを3回繰り返したものは「double ground-form」と呼ばれています。ここから、「奴さん」に似た形の作品がいくつか作られますが、「奴さん」と同じ形はありません。もう1つ注目すべき作品は「ゴンドラ」です。「ゴンドラ」と「中国のジャンク船」は、日本の「宝船」に非常によく似ていますが、舳先や艫の形が異なっています。「ゴンドラ」も「中国のジャンク船」も、上記の作品のほとんどと同様、折り線はすべて45度の倍数に限られています。そのことから、これらは「宝船」と独立に成立したと考えられます。



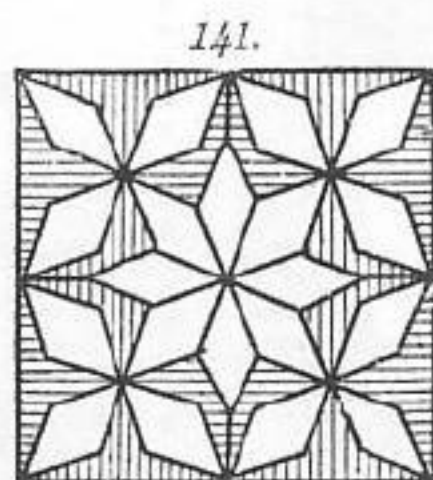
次に、美の形式の折り紙が説明されますが、この本では「対称の形式」と呼ばれています。まず、正方形の



1つの角を中心に合わせて折ったものを4枚並べて、さまざまな模様を作ります。そして、4枚のそれぞれについて折る数を1回ずつ増やし、模様を変えてゆきます。二重座布団折りからは、1枚だけでもさまざまな模様を折る



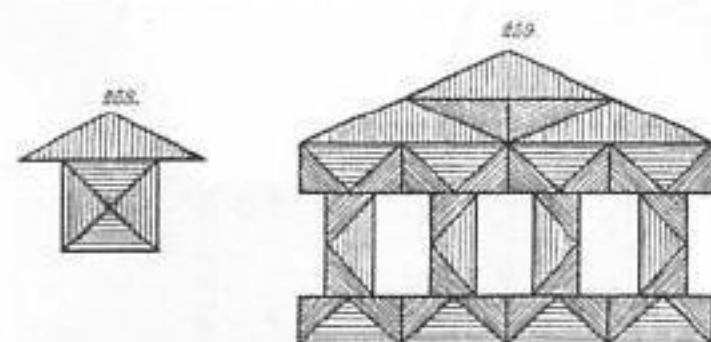
ことができます。現在では「勲章」と呼ばれる形が知られていますが、この本ではそのほかに40近くの折り方が示されています。さらに、それらを何枚か並べて、無数の模様を作っています。単純に並べるだけでなく、ユニット折り紙のように組み合わせているものがあることも注目されます。



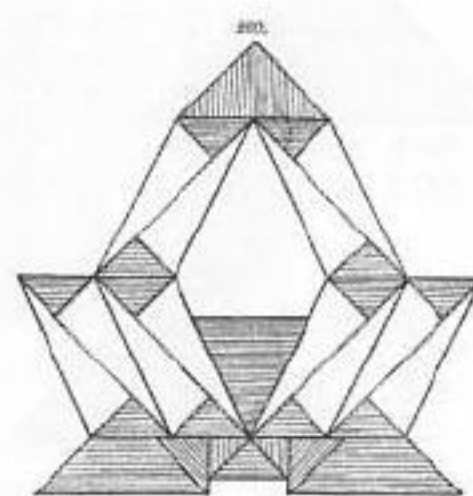
こまではすべて正方形から折っていましたが、長方形から折るものと、正三角形から折るものも、生活の形式と美の形式の両方が紹介されています。これらはそれほど数が多いありませんが、長方形から折る「帽子」や「船」は、ヨーロッパでは現在でもよく知られている作品です。

そのあと10ページほどは、認識の形式の折り紙にあてられています。日本の幼稚園では、このような折り紙が教えられたことはほとんどないようですが、それは不思議なことです。折り紙を使えば、点や直線、角度や面積といった概念を直感的に教えることができます。また、三角形、四角形、五角形や正方形、長方形、台形、平行四辺形なども簡単に作ることができます。この本では、さらに、正三角形、正六角形、正八角形の作図も紹介しています。

最後に、認識の形式で作った折り紙をいくつも並べて、さまざまな形や模様を作っています。これは、抽象的な模様であれば美の形式、具象的な形であれば生活の形式となるのでしょうか、大切なことは、子供が自分自身の形を作ることによって、創造性や自発性を養うことが目的だということです。現在の幼稚園や保育園では、先生の教える通りに折って、あとはせいぜい壁面に飾るくらいのことしか行われていないようですが、それでは、



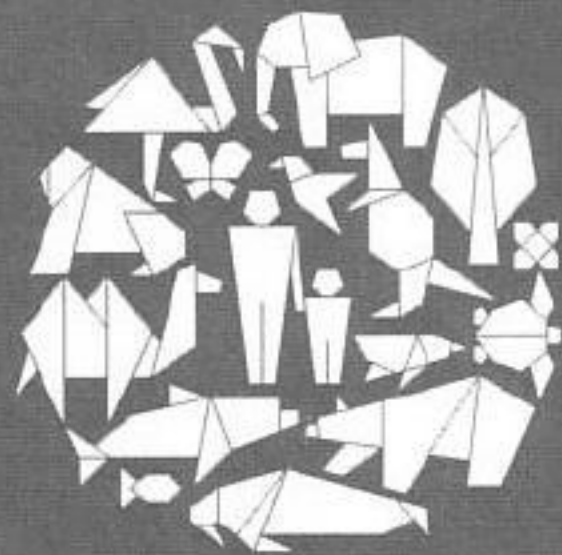
折り紙の可能性の一部しか利用していないことになります。



この本は、少なくとも2つのことを教えてください。まず、折り紙は日本だけのものではなく、ヨーロッパにも折り紙の豊かな伝統があったこと、そして、幼児教育において、折り紙は模倣にとどまるものではなく、ほかのどの恩物や手技にも劣らない可能性があるということです。

この復刻版の巻末には、1890年代の幼稚園用品のカatalogも収録されており、これも非常に興味深い。当時すでに、現在と同じような折り紙用紙が販売されていたことが分かります。

国連地球生きもの会議 おりがみプロジェクト 写真募集



COP10おりがみプロジェクトの件については「折紙三昧」で西川誠司氏が述べているのでここでは省略しますが、パートナー団体として参加しているJOASからもプロジェクトの呼びかけに応えようと読者の皆さんにご案内しています。

10年後の未来に向けたメッセージを書いた作品を、自分の胸あたりに持っていたき、写真を撮って投稿してください。

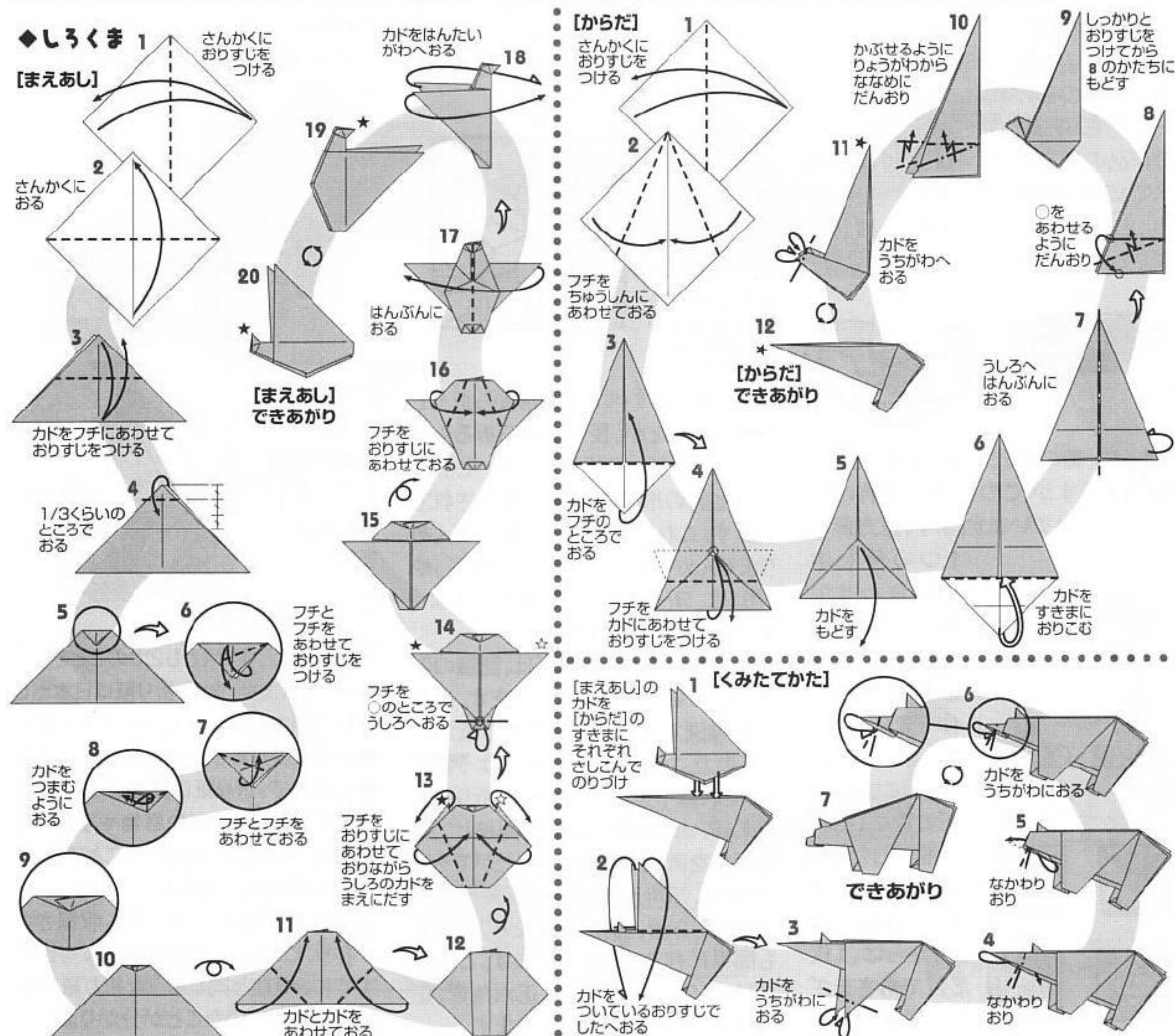
メッセージの内容は自由です。自分に向けたメッセージ、地球に向けたメッセージなど、10年後のあなたの出会いのためのメッセージです。

投稿はCOP10プロジェクトのウェブサイトから投稿してください。ギャラリーに掲載されます。

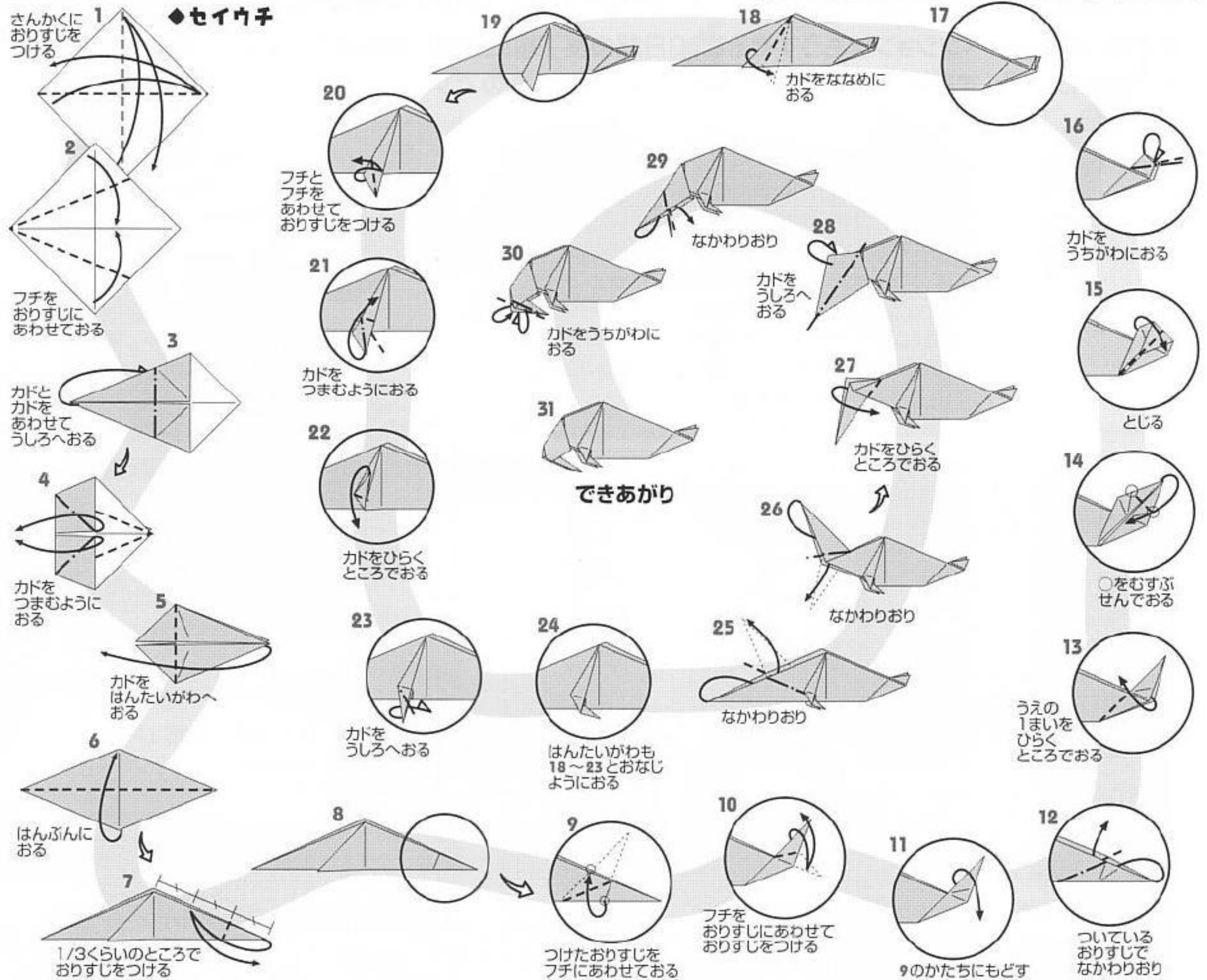
ロゴで表現されている動物の折り方は環境省からの依頼で、おりがみはうすの山

口真氏が創作しました。「通常だと先に作品があって、それを使ってデザインという形が普通であるのだが、今回の場合はロゴが先にあって、そのロゴに合わせた作品を作るといった、変則的な依頼であった。」(山口氏)

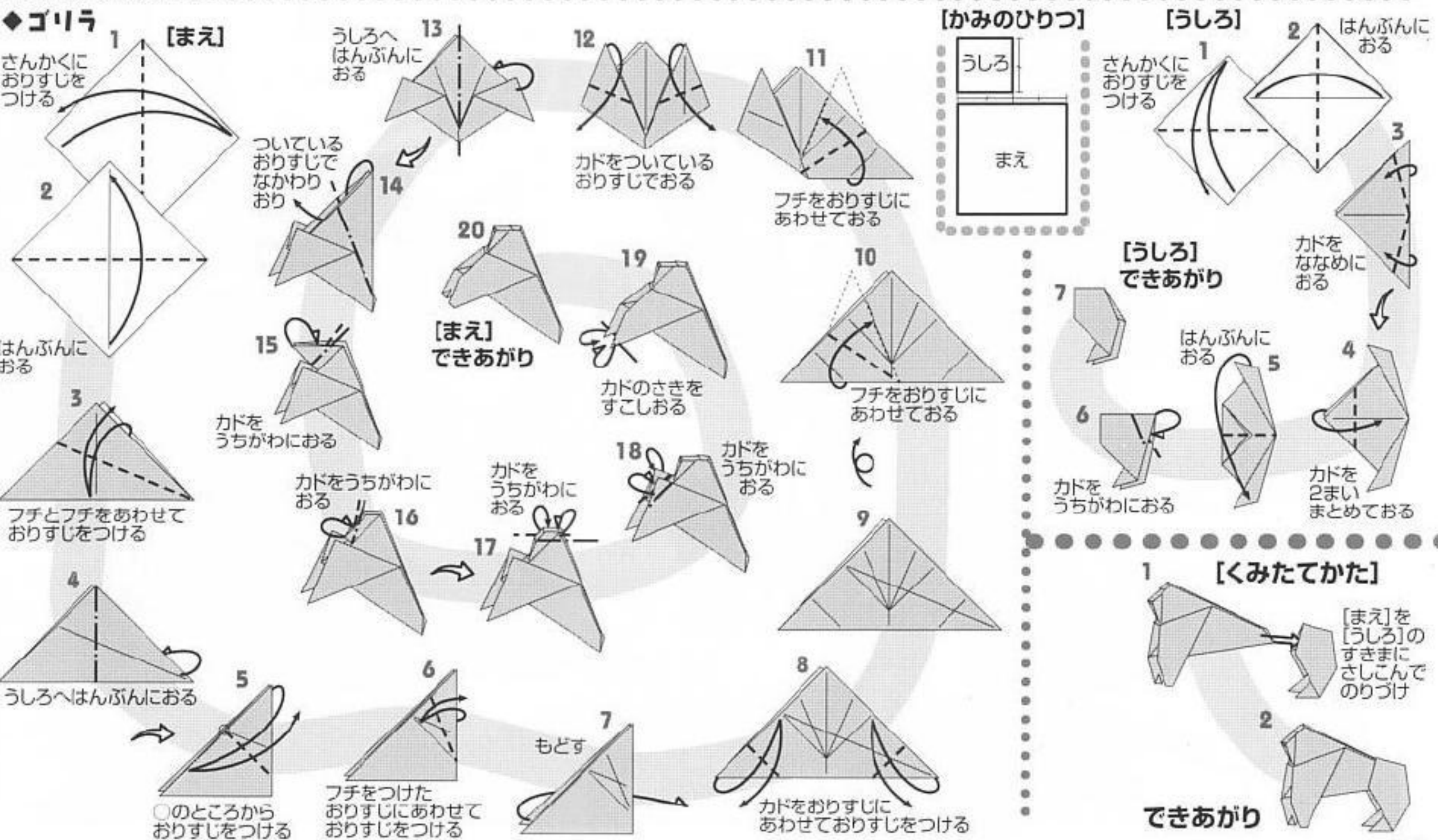
そこで、依頼されて作った作品の中からいくつかの折り図を紹介するので、多くの方の参加をお待ちしています。



◆セイウチ



◆ゴリラ

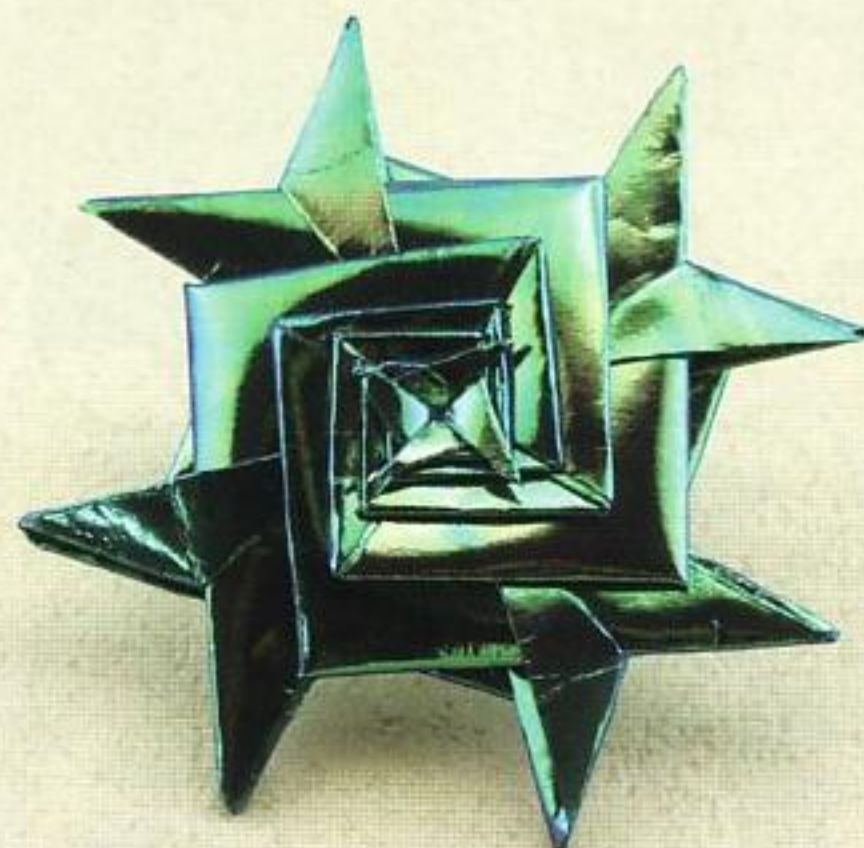


夏本番、東京コンベンションはもうすぐそこ。3日間の長丁場に濃厚に詰め込まれたイベントを存分に味わい尽くすため、気力体力を充実させて臨みたいものです。

「ハイパー手裏剣」作：川崎敏和 (P.4)

Hyper Shuriken (A Ninja Throwing Knife):
Kawasaki Toshikazu (P.4)

■コンパクトなボディに折り紙用紙4枚分の重量感、これはさすがに破壊力抜群!? 貝殻のように渦巻きに折る工程が頑丈な固定構造となり、文字通り「高密度化」に一役買っています。厚みのあるホイル紙を使えばさらに危険そうなイメージが倍増、くれぐれも投げる方向には要注意!



「かんたんポチ袋」作：やまぐち真 (P.8)

A Small Envelope (for Wishes):
Yamaguchi Makoto (P.8)

■覚えやすく、普通の折り紙用紙ですぐにつくることができて様々な場面で活躍します。さらに、同じ折り方で、本来「包まれるべきもの」である紙幣も包みにしてしまう逆転の発想も折り図ページで紹介されています。



「サキュバス」作：宮本宙也 (P.11)

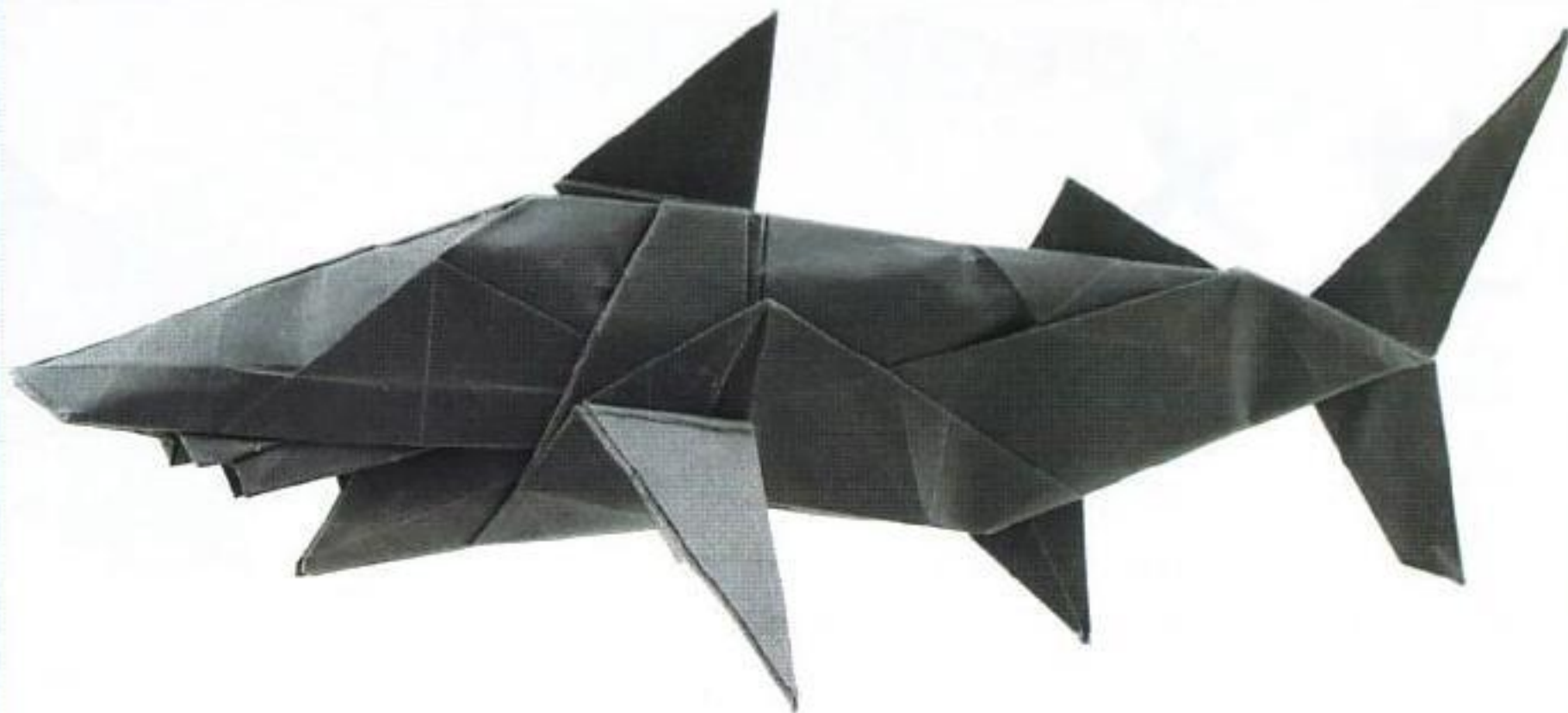
Succubus: Miyamoto Chuya (P.11)

■裸婦像は「余計な折り線」を許容する余地がないため非常に難しく、だからこそ作家たちを惹きつけるテーマであり続けています。本作のようにポーズを工夫することも重要なアプローチ。臀部の量感をしっかりと表現しながらも大腿部を筒状にする合わせ目を見えにくくしてしまうなど、魅力的な工夫が満載です。



「サメ」作：宮島 登 (P.22)
Shark: Miyajima Noboru
(P.22)

■軟骨魚類の滑らかな全身デザインを折り紙で表現すべく、これまでもさまざまな挑戦が繰り返されてきました。「余計な線との戦い」という意味では、裸婦像に近い課題をかかえていると言えるでしょう。「どうしても避けられない線」であるならば、それをどのように配置し、デザインとして活用してしまうか。宮島氏のセンスをご覧ください。



Exhibits from the 2010
OrigamiUSA Convention

Origami Design
Challenge



Robert J. Lang

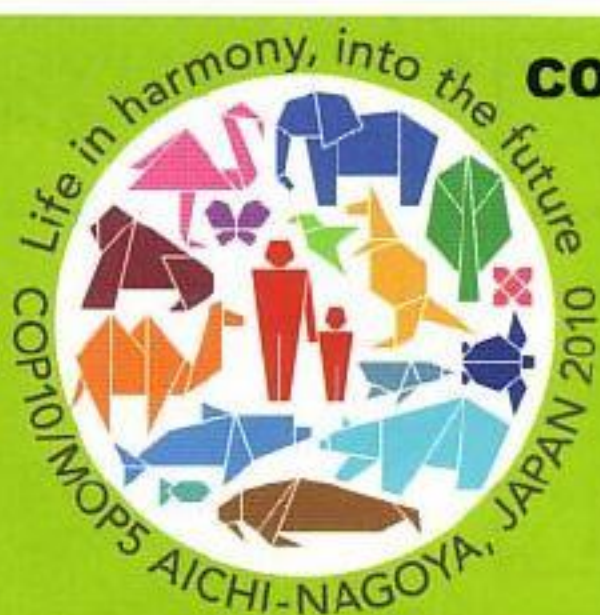


Morisue Kei

今年のテーマは「車」、原則として1枚の正方形から折ることが条件。毎回難度の高いテーマが採り上げられますがそれもなんのその、世界のマニアが取り組むとこんなことになります。車体の立体感と車輪の表現探索に苦心の跡がうかがわれる作品群。



Brian Chan



**COP10 おりがみプロジェクト
in OUSA Convention**

ロゴマークが発表された時点では、実はデザイン先行だったキャラクター群。山口氏の手によって現実の折紙作品となり、NYでも多くの参加者に折っていただきました。



笑顔が素敵! OUSA Conventionでおなじみの皆さん



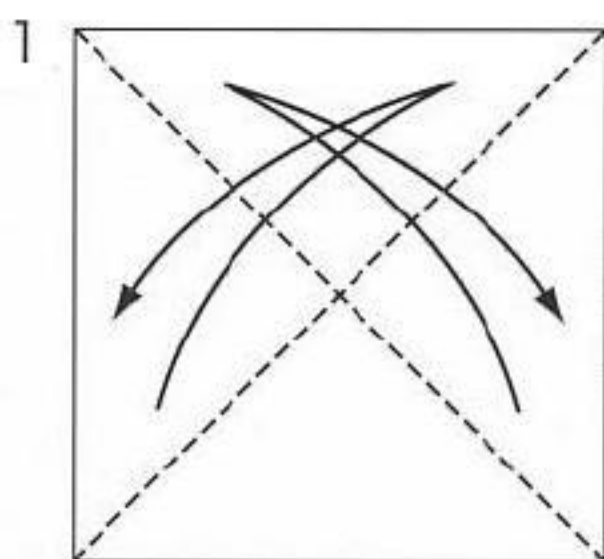
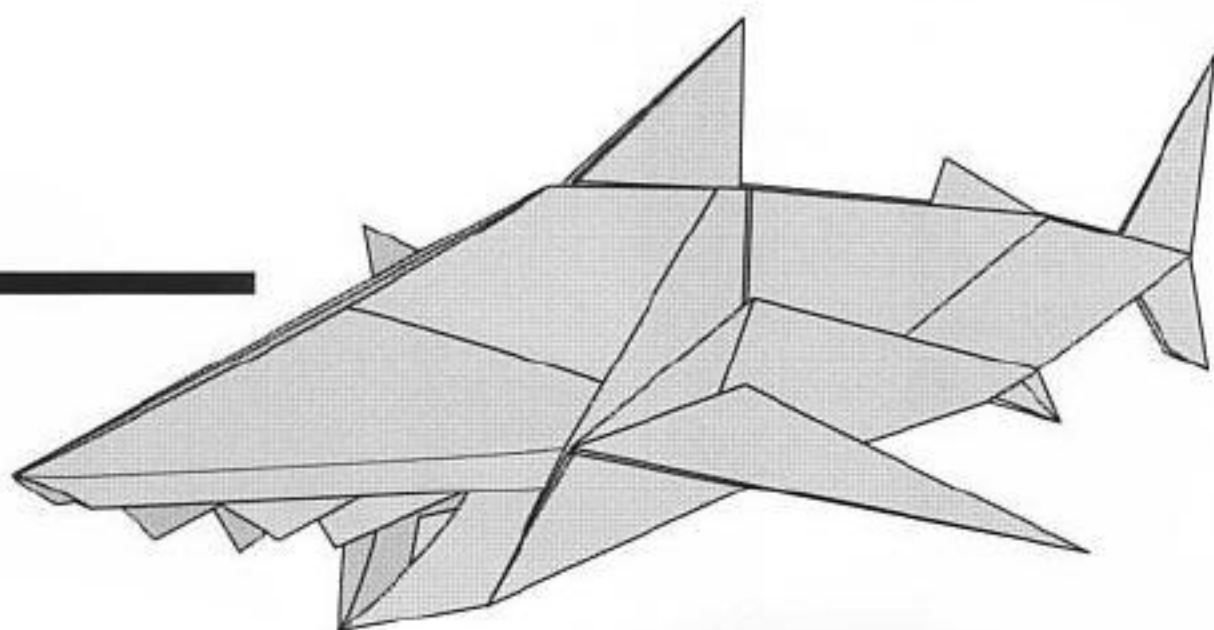
サメ

SHARK

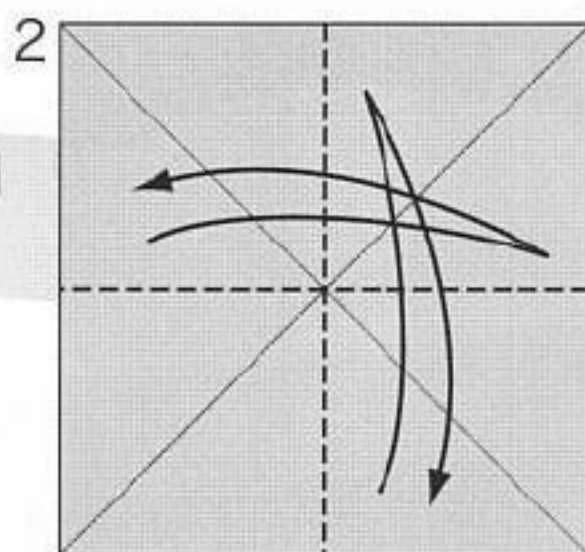
作／図 宮島 登

Model & Diagrams by Miyajima Noboru

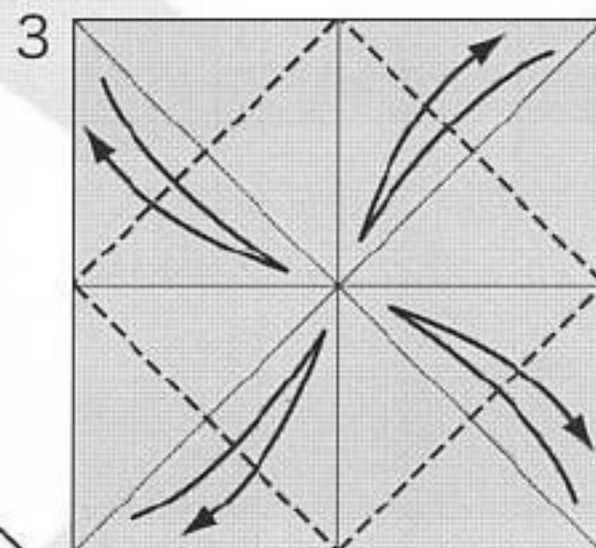
創作／2007年2月 作図／2009年1月



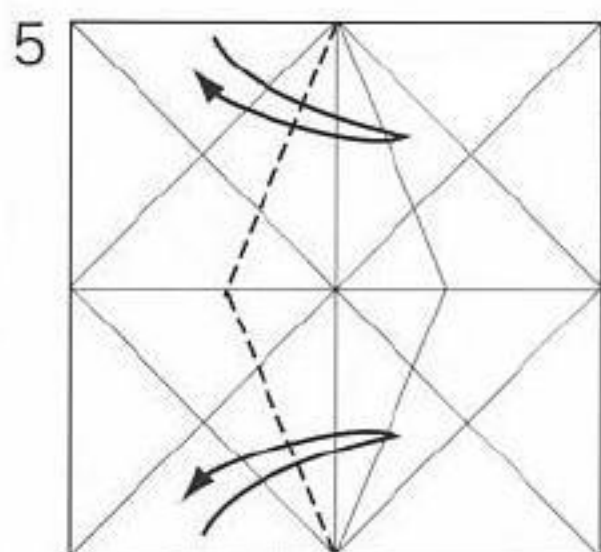
対角線で折り筋をつける
(2箇所)



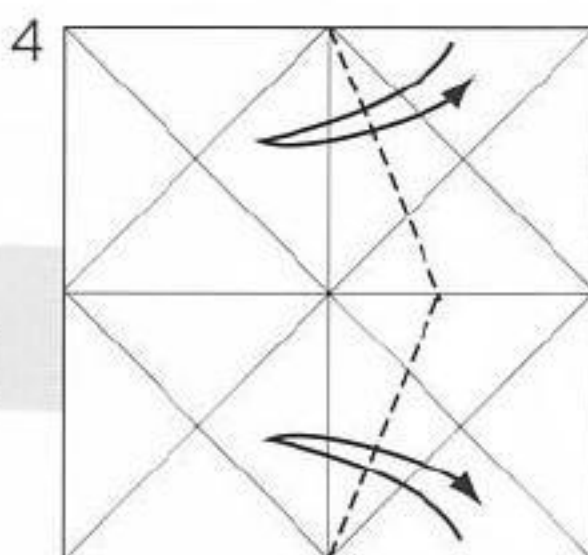
フチを合わせて折り筋をつける
(2箇所)



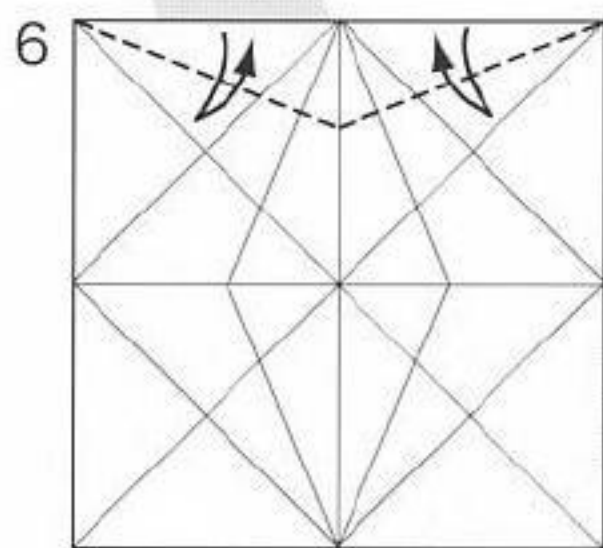
カドを中心に合わせて折り筋をつける
(4箇所)



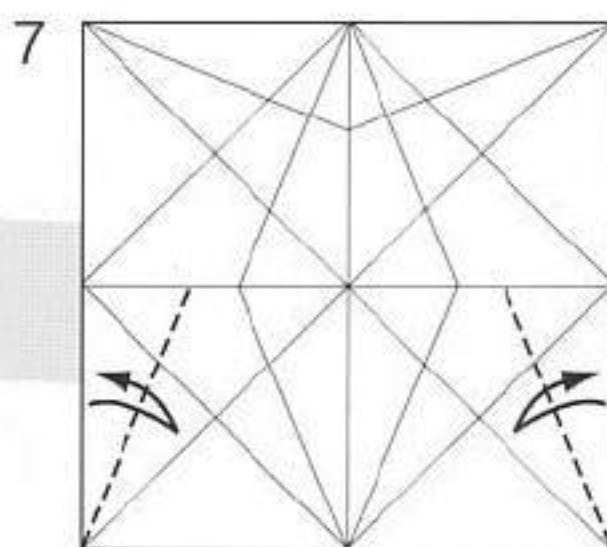
折り筋をつける(2箇所)



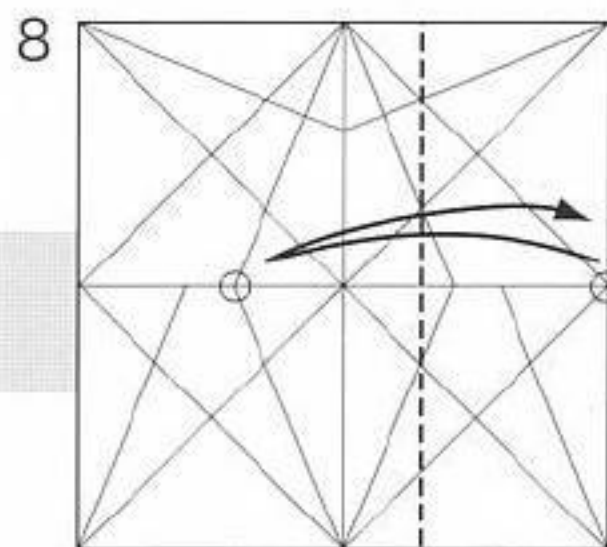
折り筋をつける(2箇所)



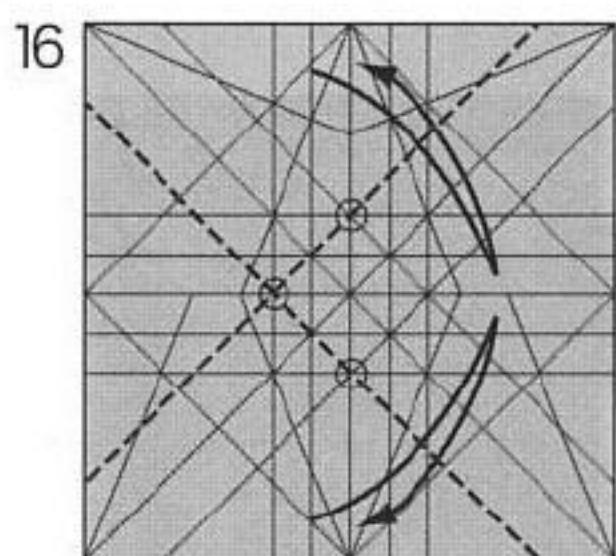
折り筋をつける(2箇所)



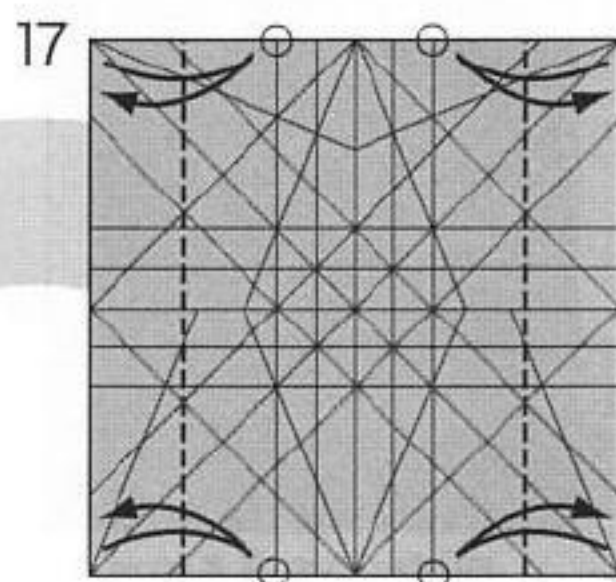
折り筋をつける(2箇所)



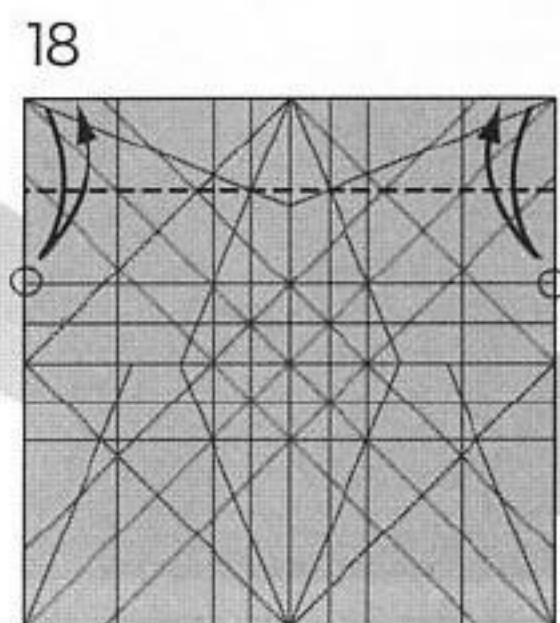
○を合わせて折り筋をつける



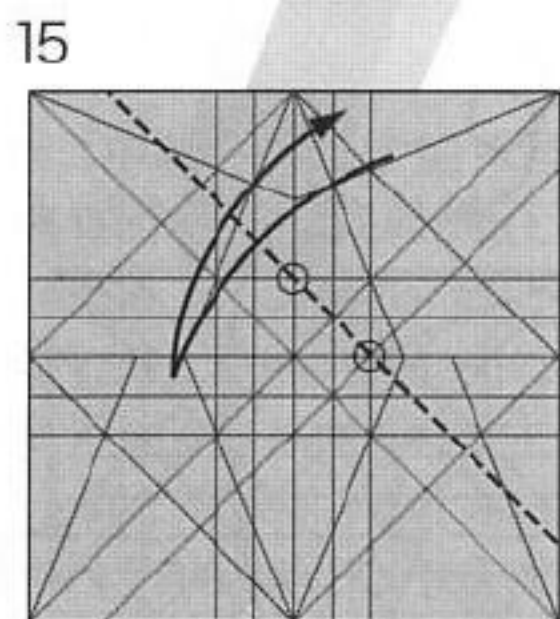
同様に○を通る線で折り筋をつける(2箇所)



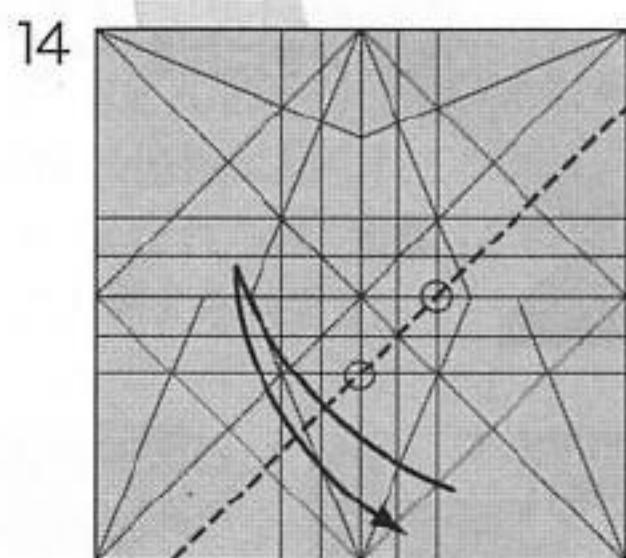
カドを○に合わせて折り筋をつける(2箇所)



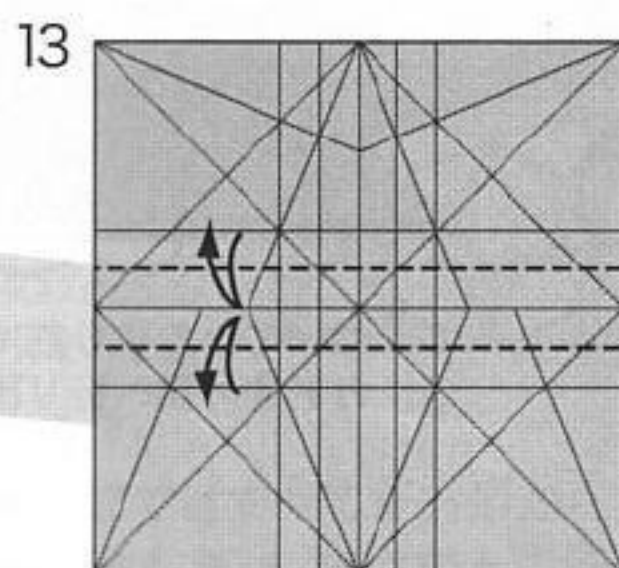
カドを○に合わせて折り筋をつける



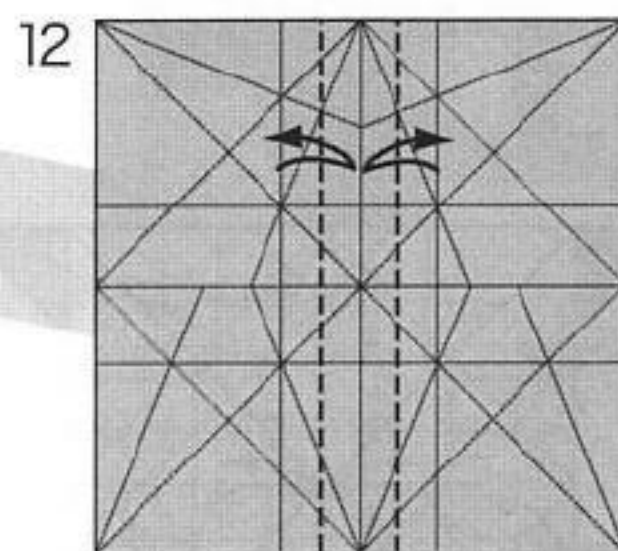
○を通る線で折り筋をつける



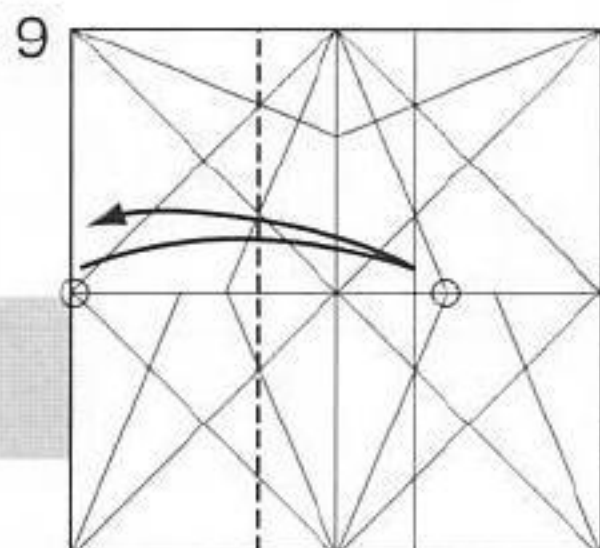
○を通る線で折り筋をつける



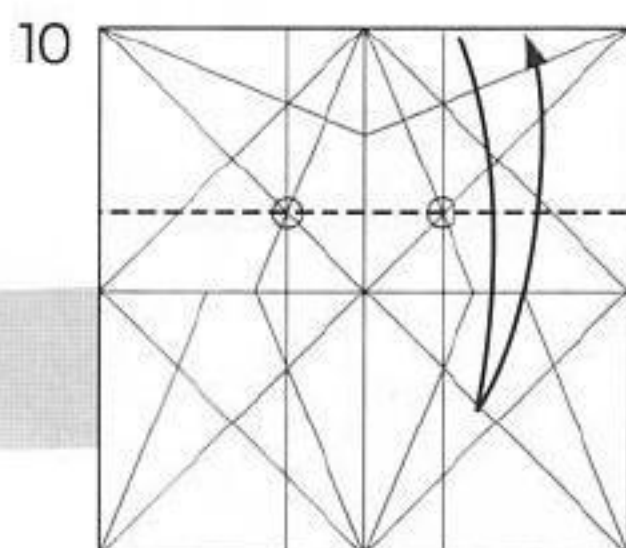
折り筋をつける(2箇所)



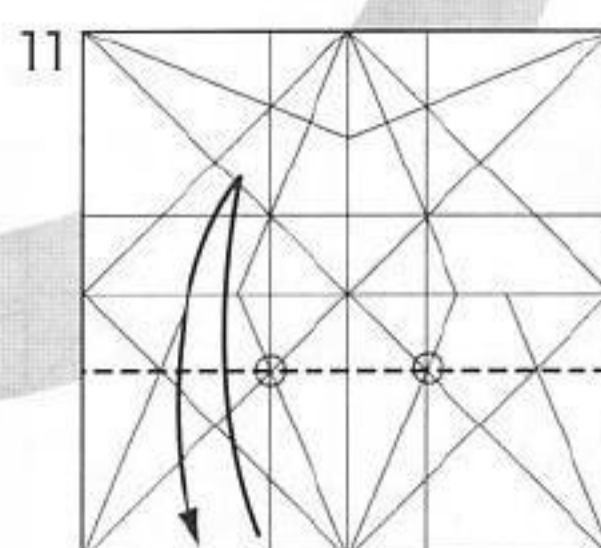
折り筋をつける(2箇所)



○を合わせて折り筋をつける

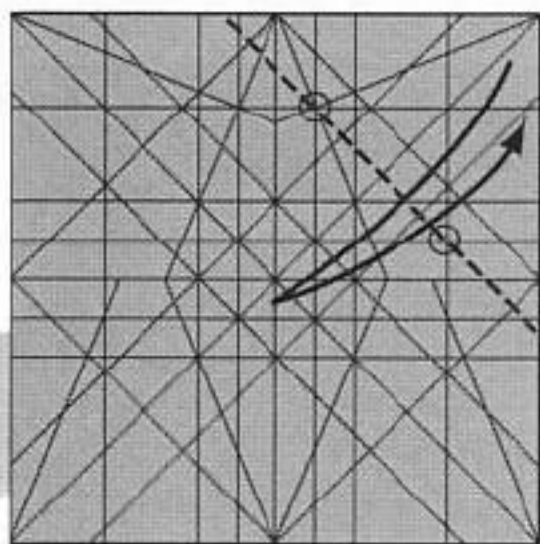


○を通る線で折り筋をつける



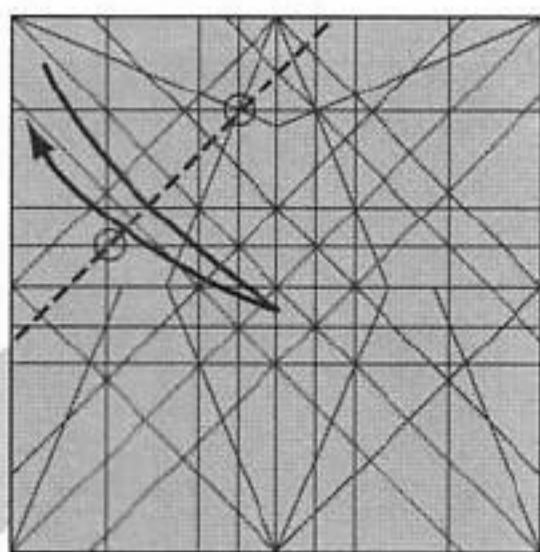
○を通る線で折り筋をつける

19



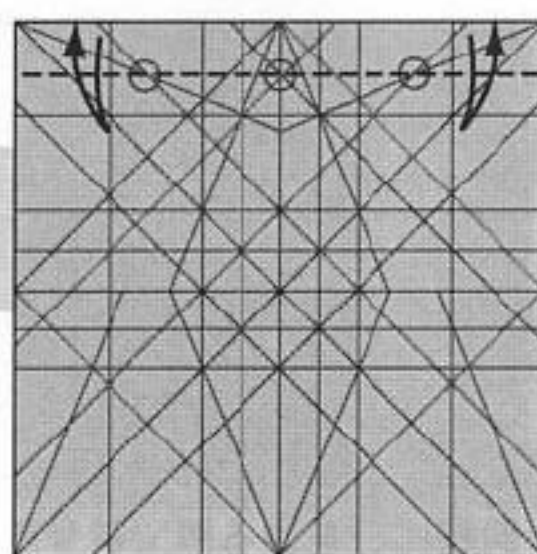
○を通る線で折り筋をつける

20



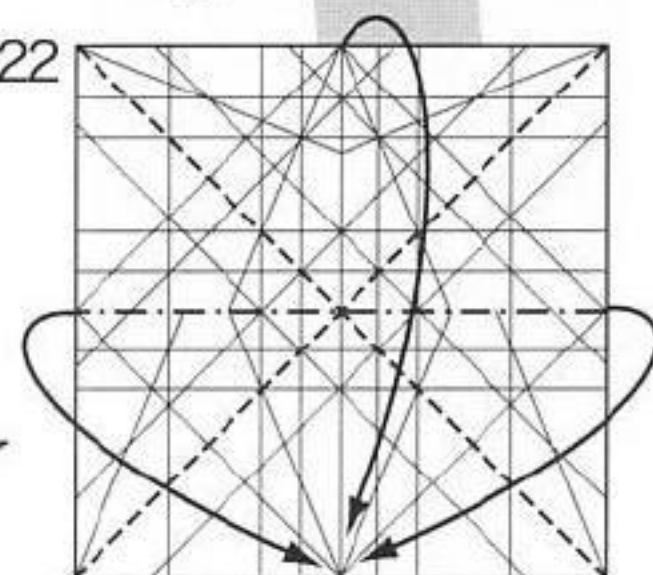
同様に○を通る線で折り筋をつける

21

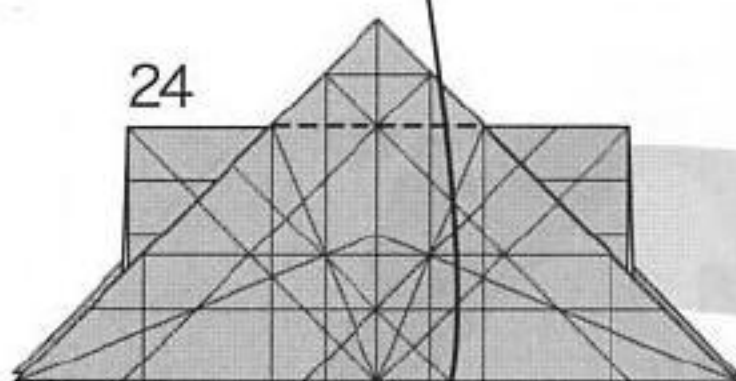


○を通る線で折り筋をつける

22

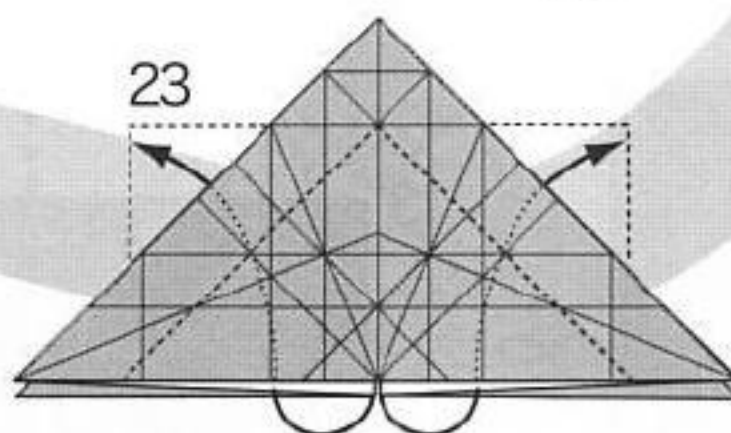
風船の基本形にまとめる
(紙の向きに注意)

24

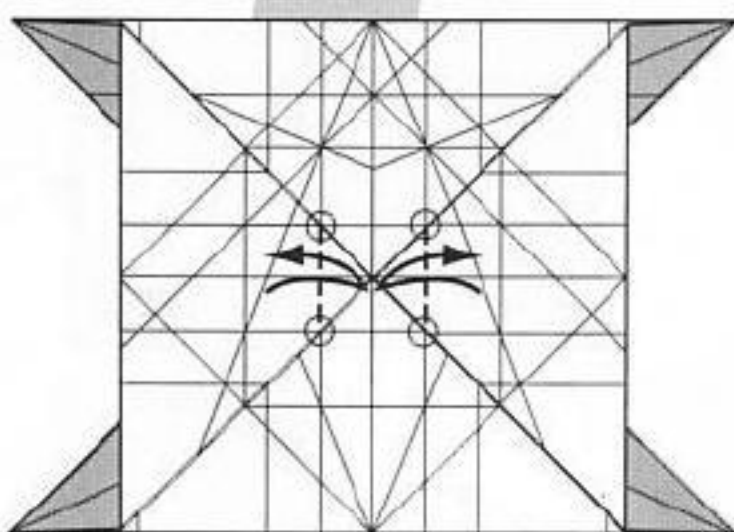


フチを折り上げる

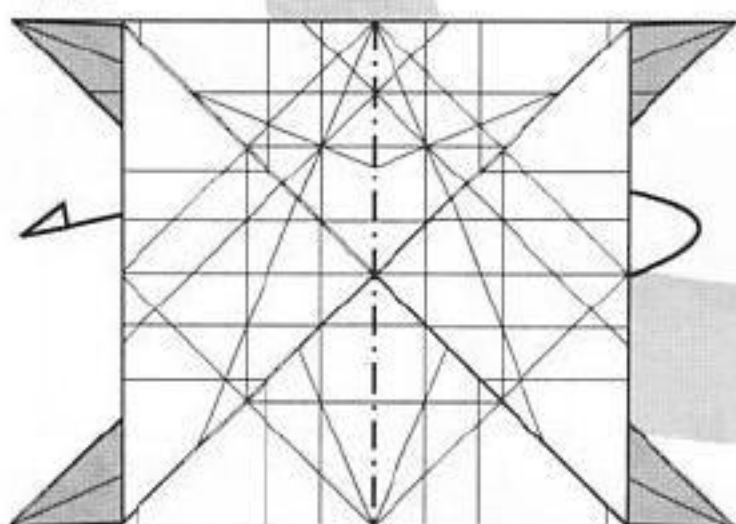
23

ついている折り筋で中わり折りして
カドを外側へ折り出す(2箇所)

25

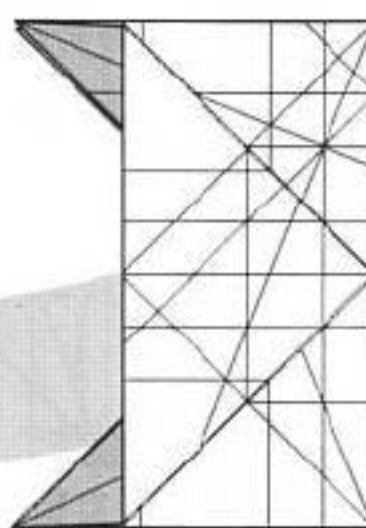
○を通る線で一番上の1枚
だけ折り筋をつける(2箇所)

26

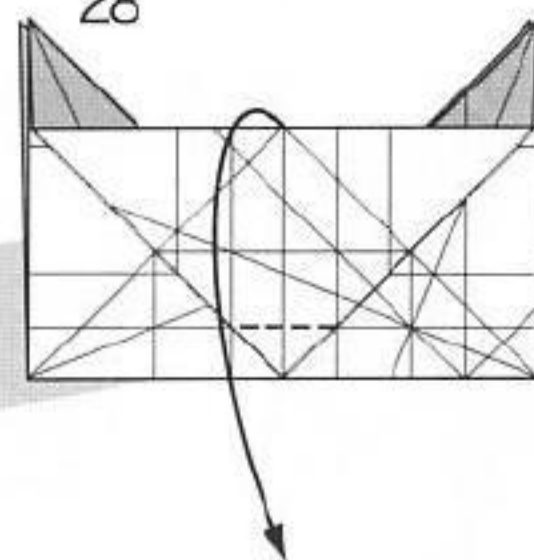


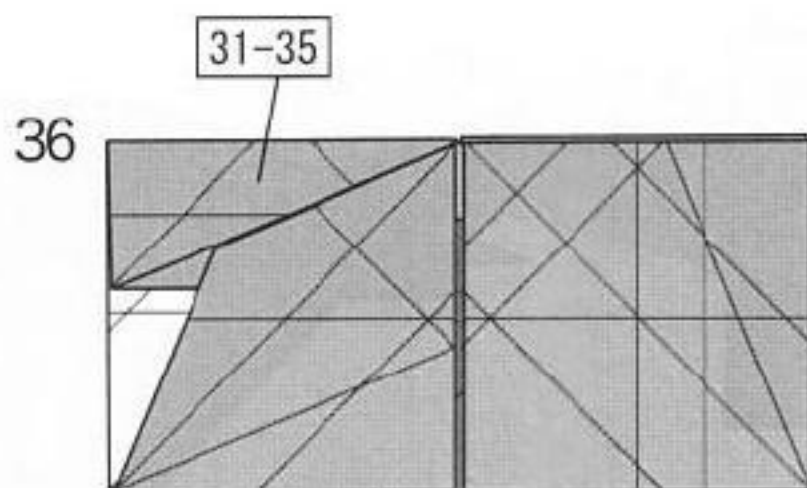
中心線で山折り

27

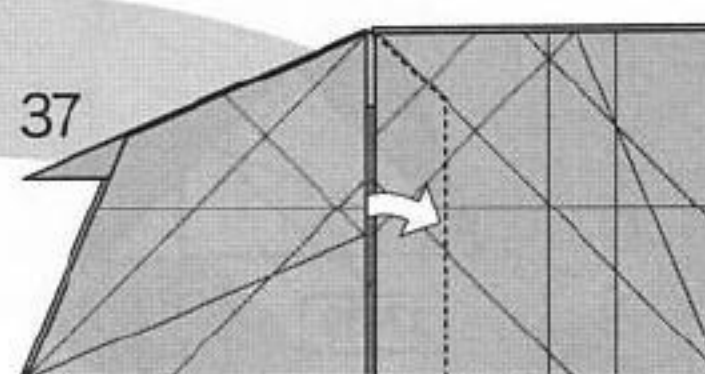


28

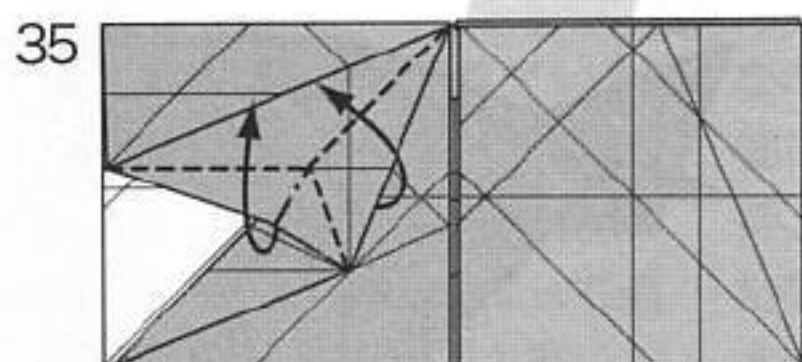
ついている折り筋でフチを
折り下げる(立体的になる)



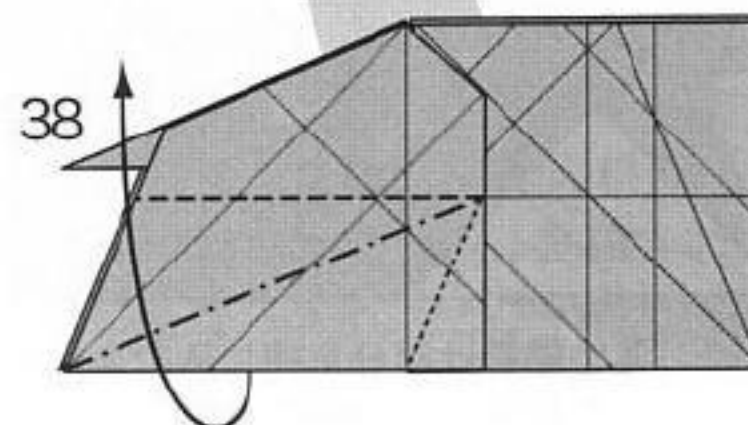
反対側も同様に折る (31-35)



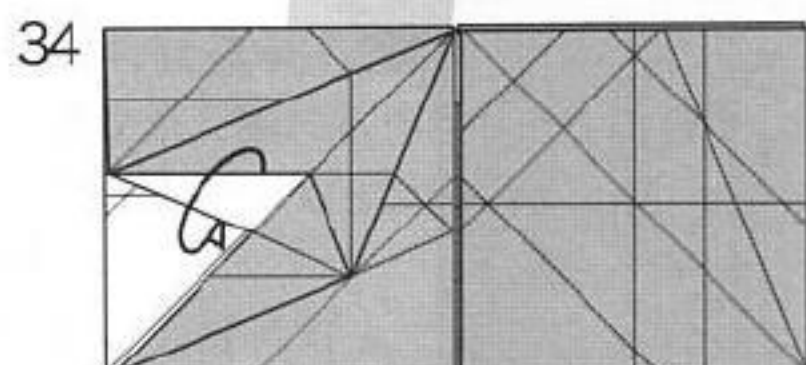
内側の紙を引き出す



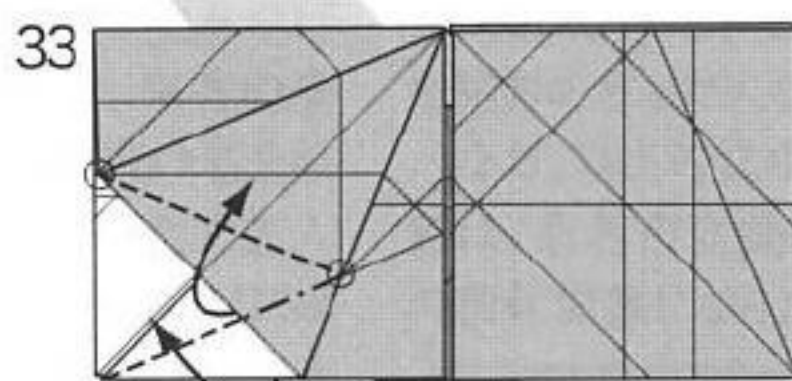
フチを合わせて折り上げる



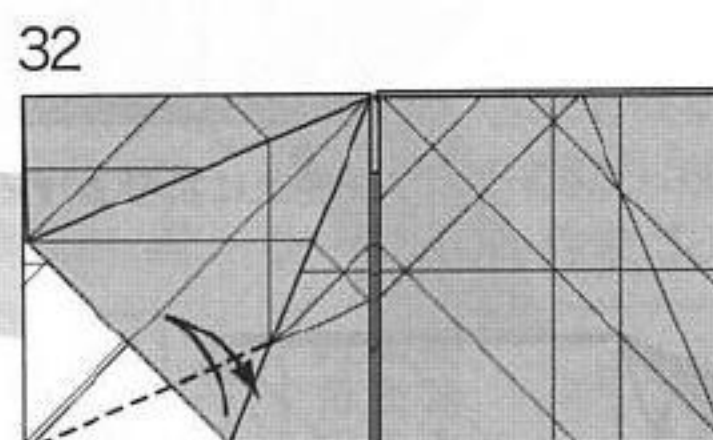
ついている折り筋で引き寄せる
ようにフチを折り上げる



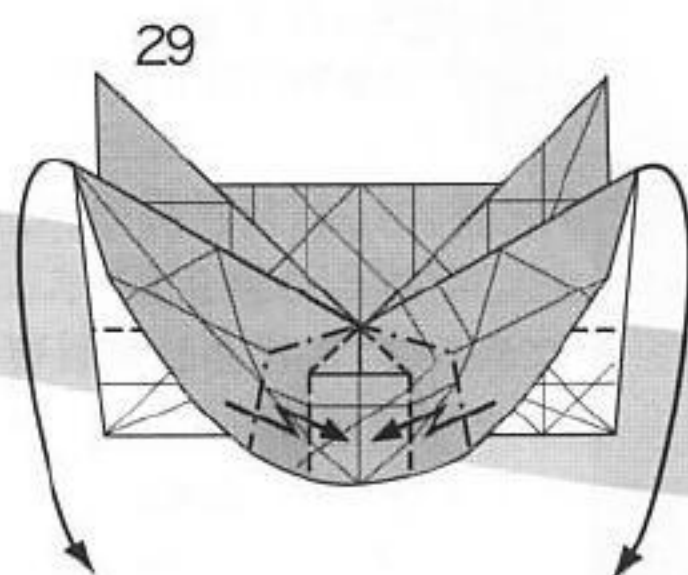
フチを裏へ折り返す



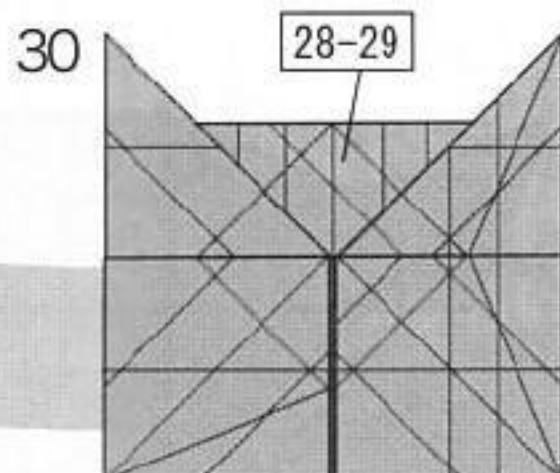
○を結ぶ線でフチを折り上げる



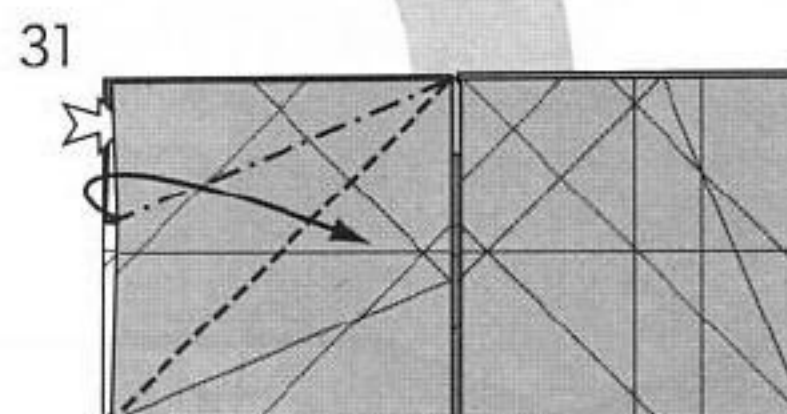
フチを合わせて折り筋をつける



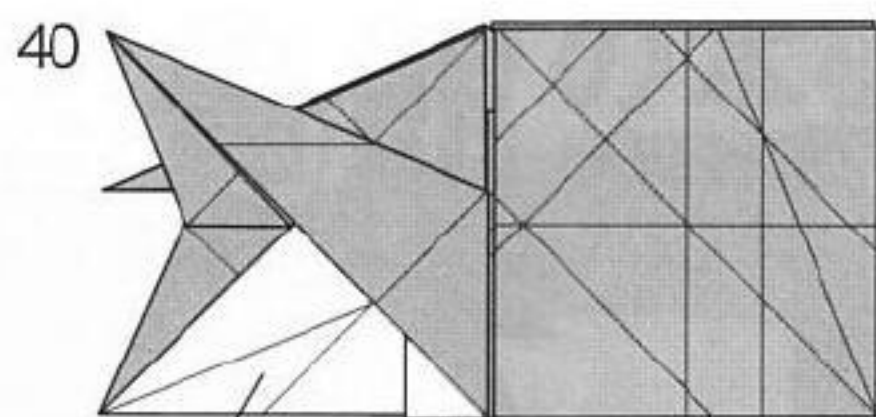
中心に寄せるように左右を
段折りする



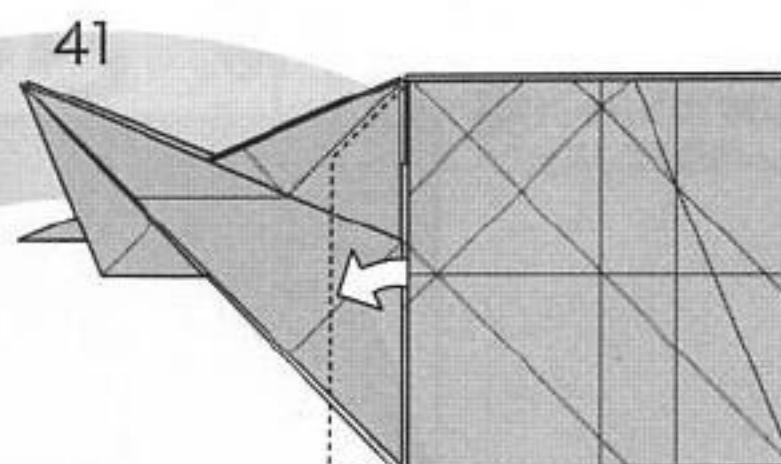
反対側も同様に折る
(28-29)



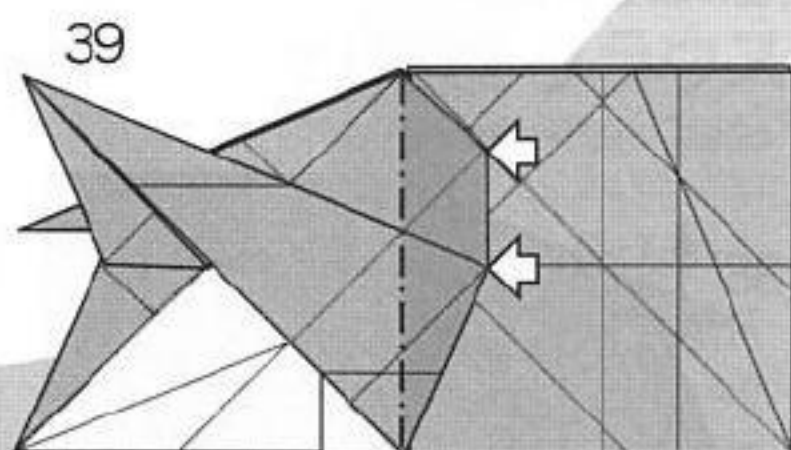
(左右の向きに注意)
内側を広げてつぶすように折る



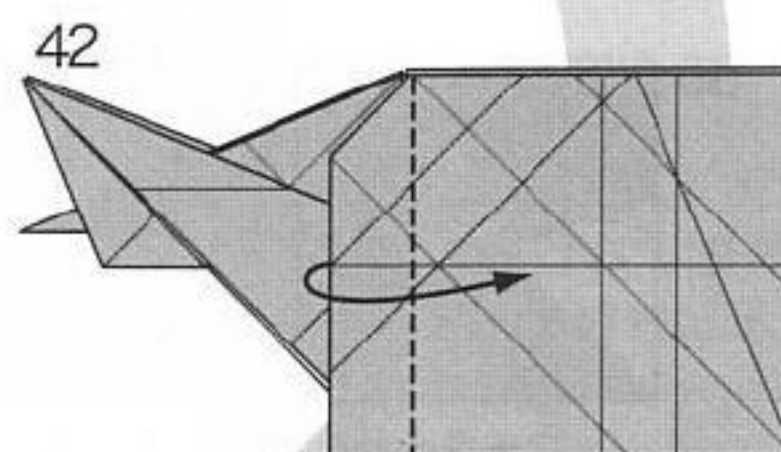
37-39 反対側も同様に折る
(37-39)



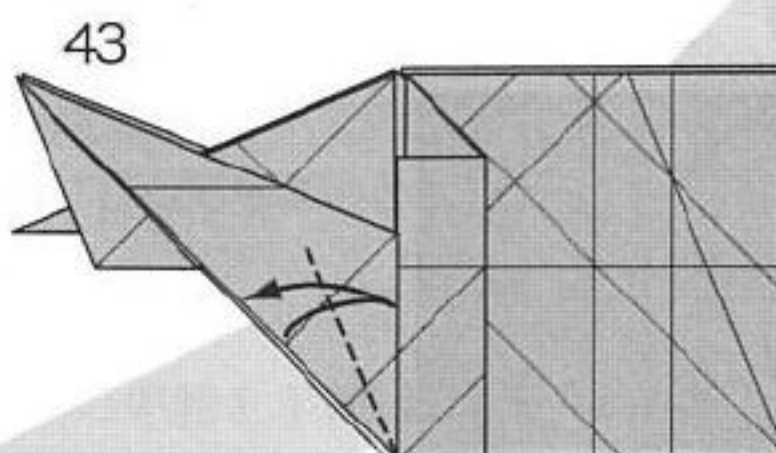
内側の紙を引き出す



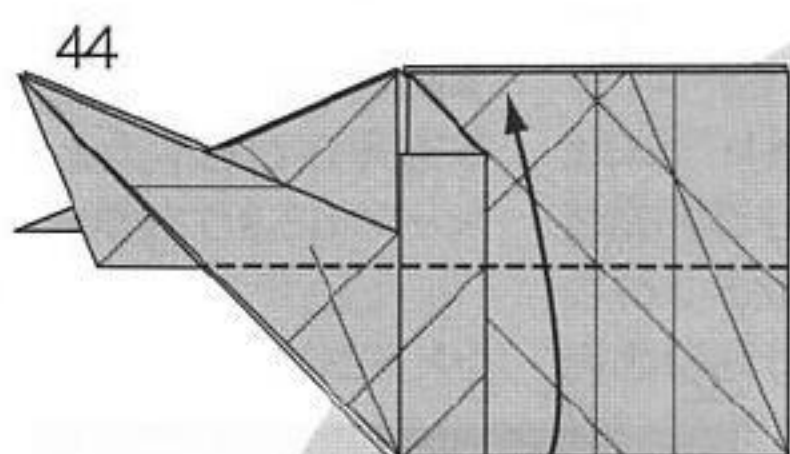
濃い網掛け部分を押し込むように
しずめ折り (Closed Sink)



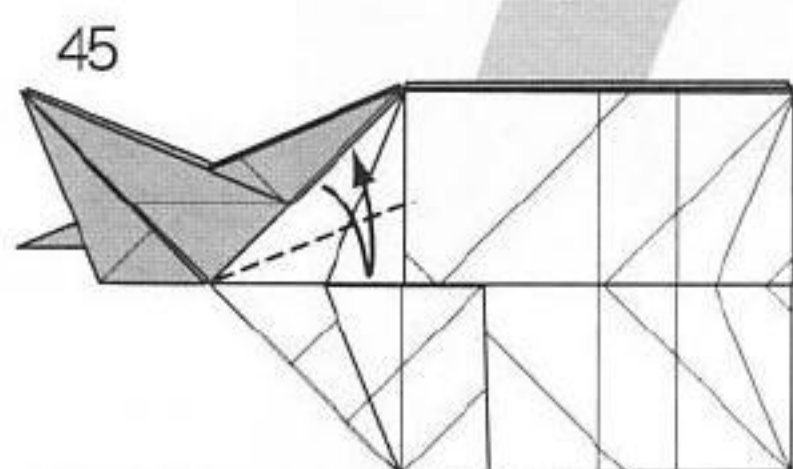
引き出したフチを
右側へたおす



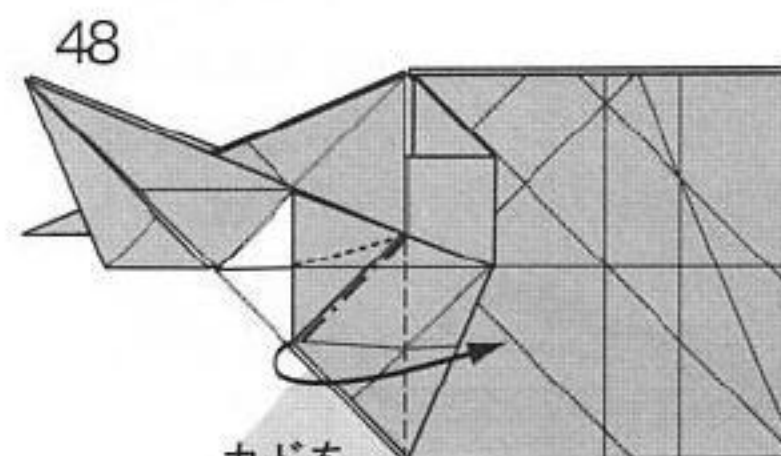
フチを合わせて
途中まで折り筋を
つける



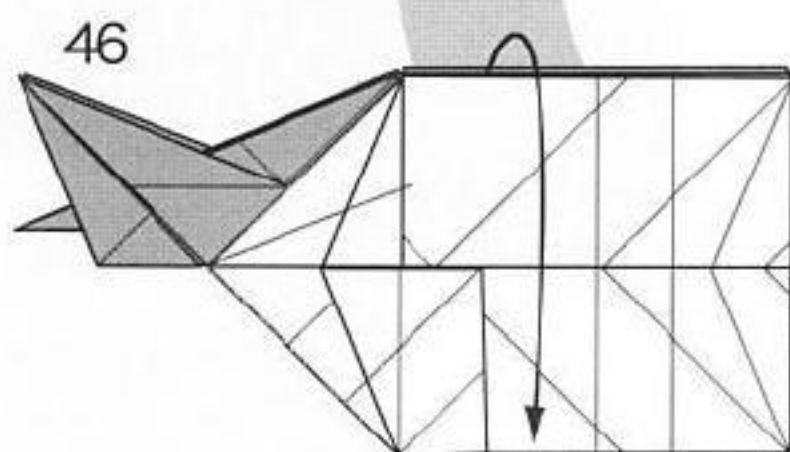
フチを上折り上げる



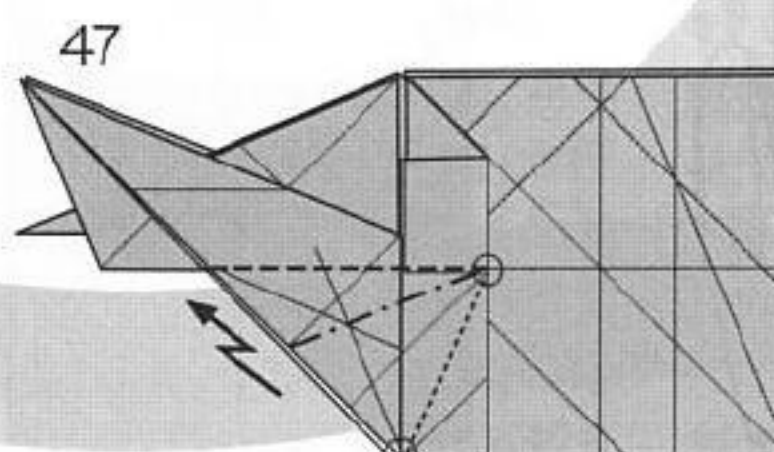
フチを合わせて
途中まで折り筋を
つける



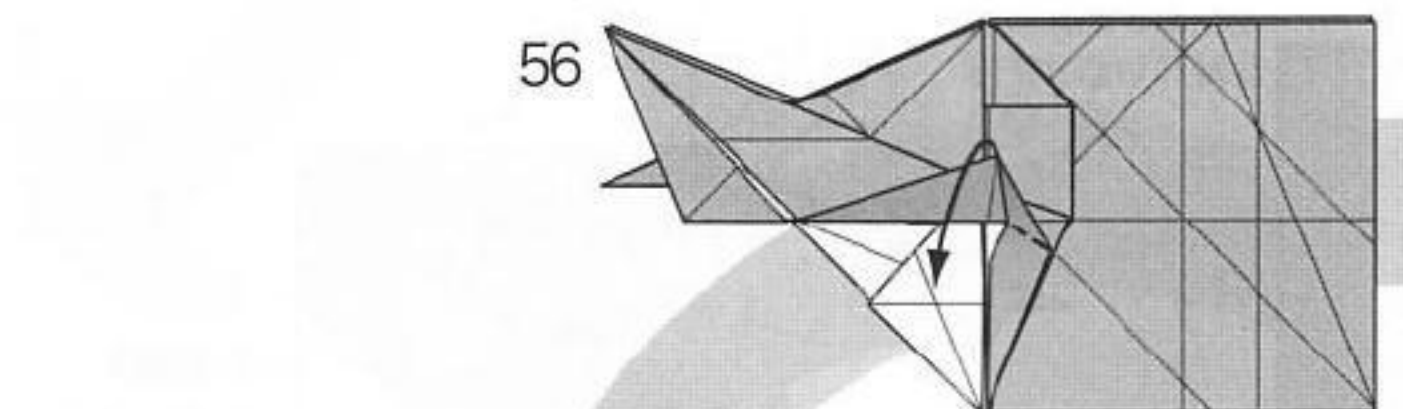
カドを
山折りしながら右側へ
たおす (立体的になる)



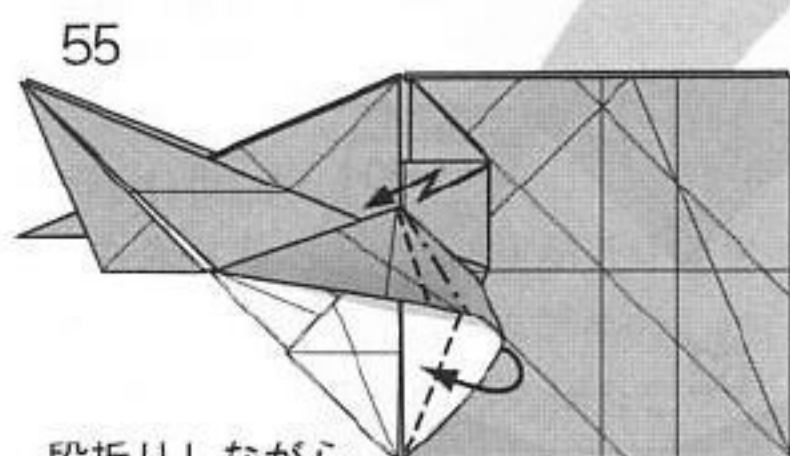
もどす



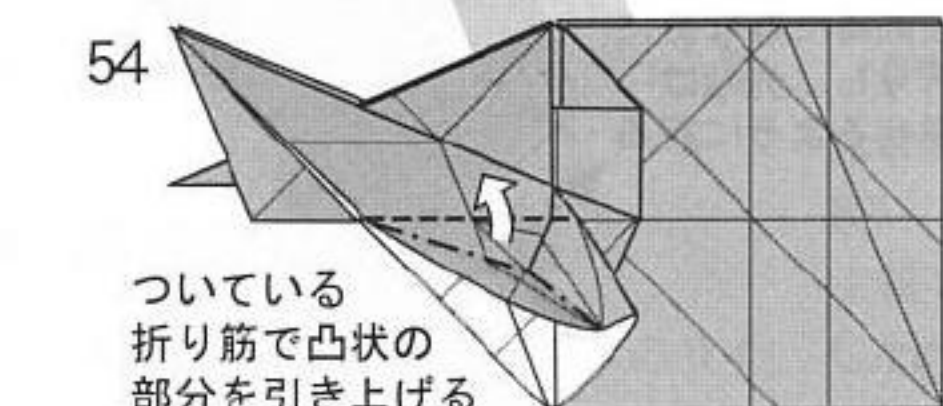
ななめに段折りして
ずらすように折る



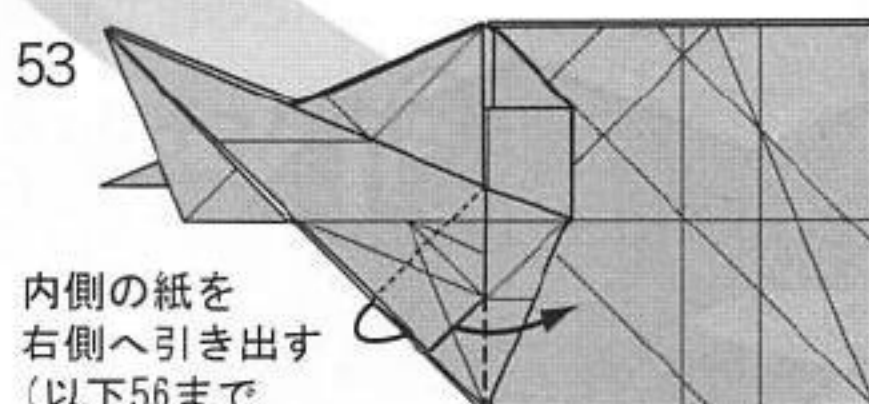
持ち上がっているカドを
折り下げて、平面に畳む



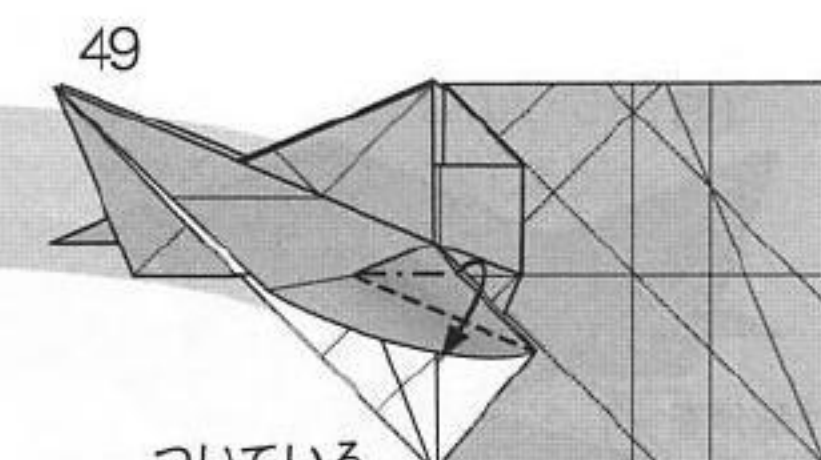
段折りしながら
フチとフチを合わせる



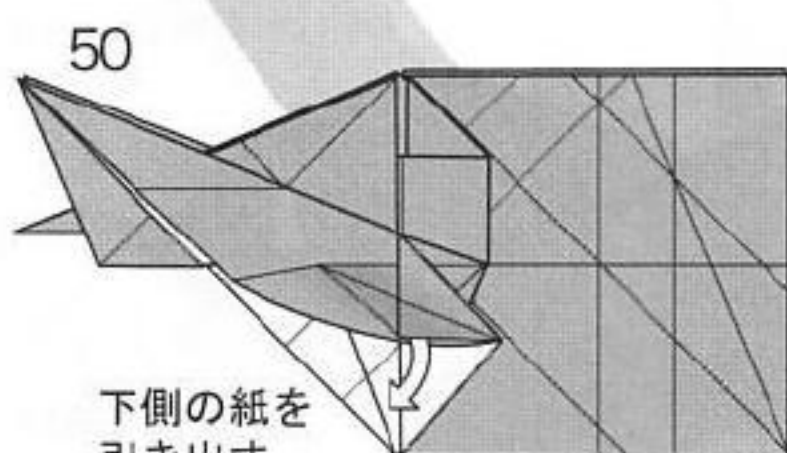
ついている
折り筋で凸状の
部分を引き上げる



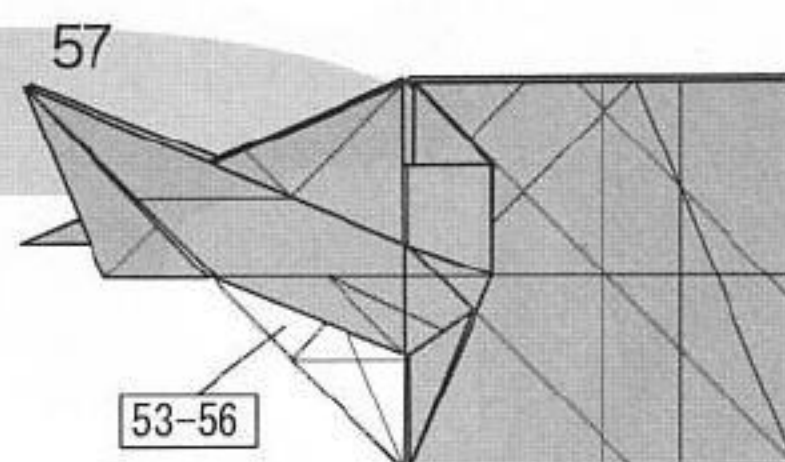
内側の紙を
右側へ引き出す
(以下56まで
立体的になる)



ついている
折り筋で、重なっている
フチを1枚だけ折り下げる

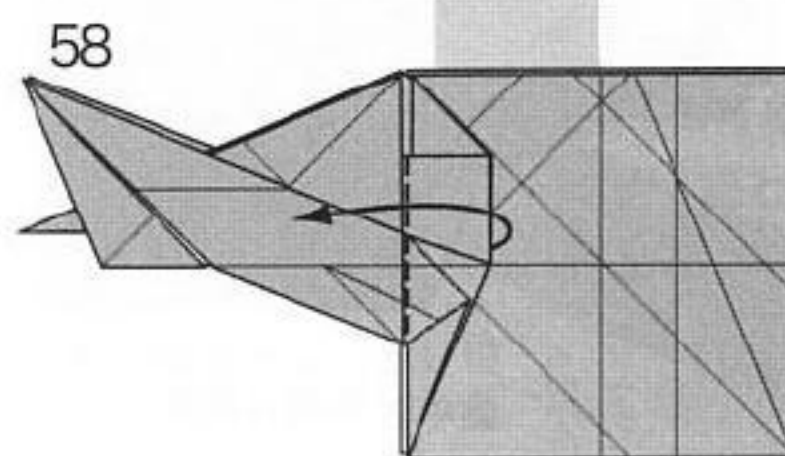


下側の紙を
引き出す

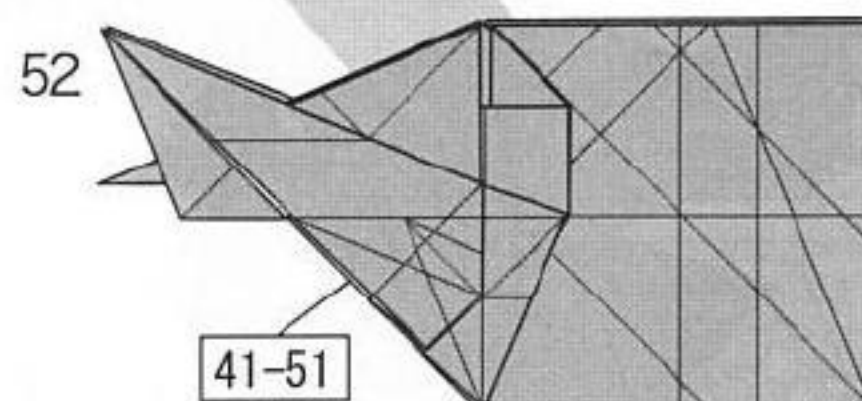


53-56

反対側も同様に折る
(53-56)

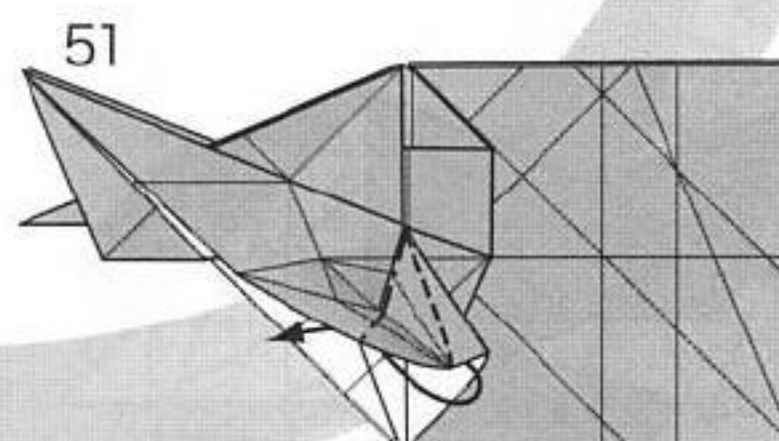


フチを左側へたおす

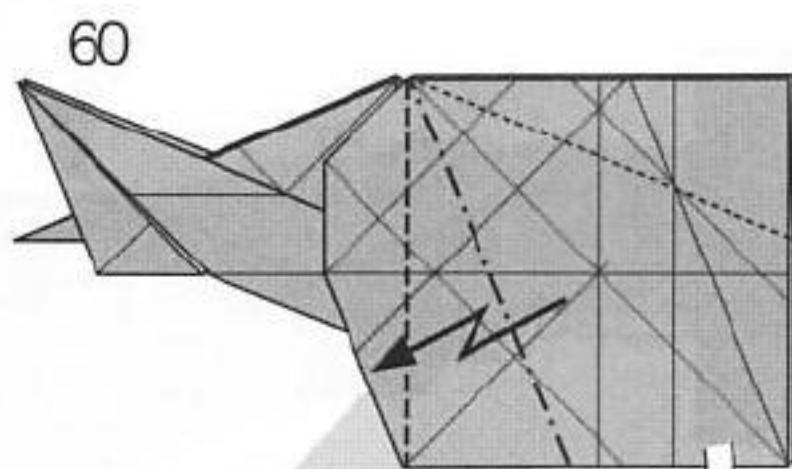


41-51

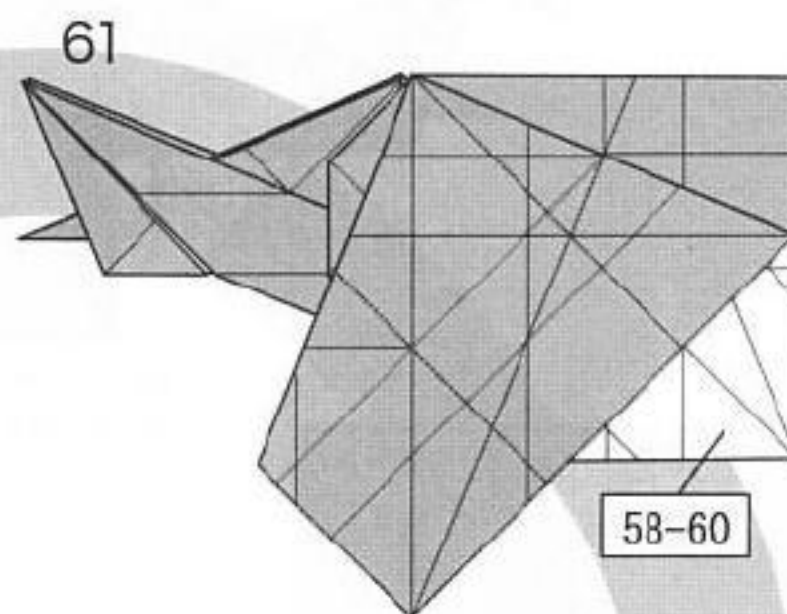
反対側も同様に折る
(41-51)



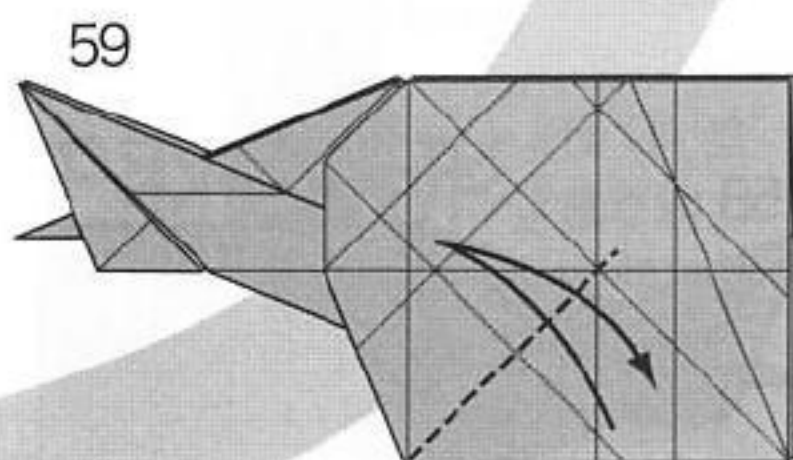
中わり折りをするように、
右側のフチを内側に折り入れて、
平面に畳む



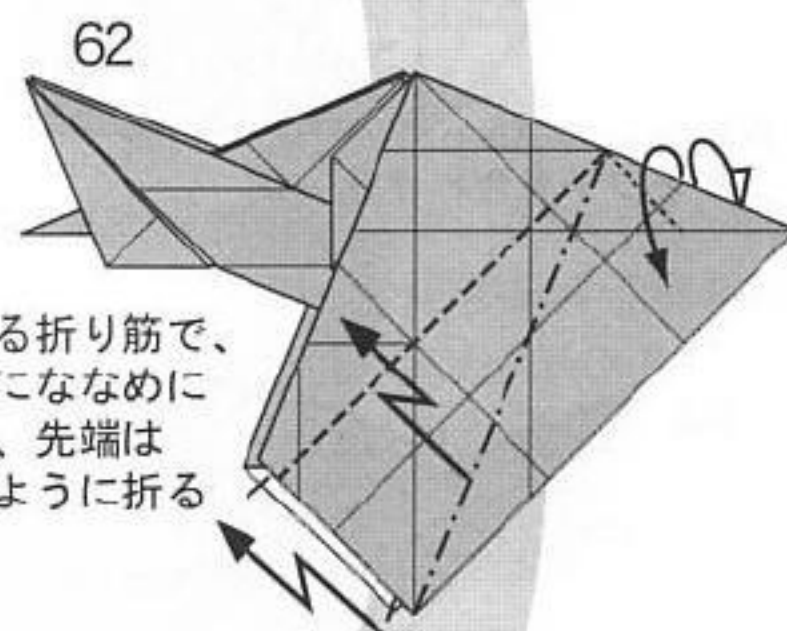
ななめに段折りして
ずらすように折る



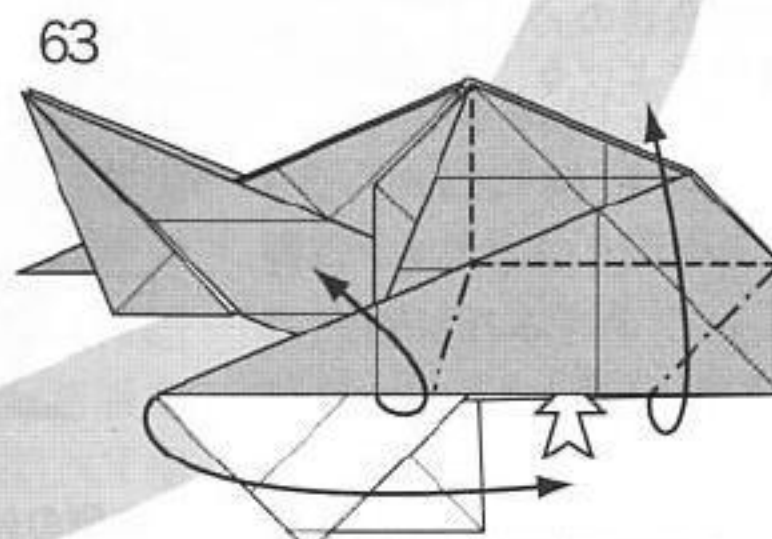
反対側も
同様に折る
(58-60)



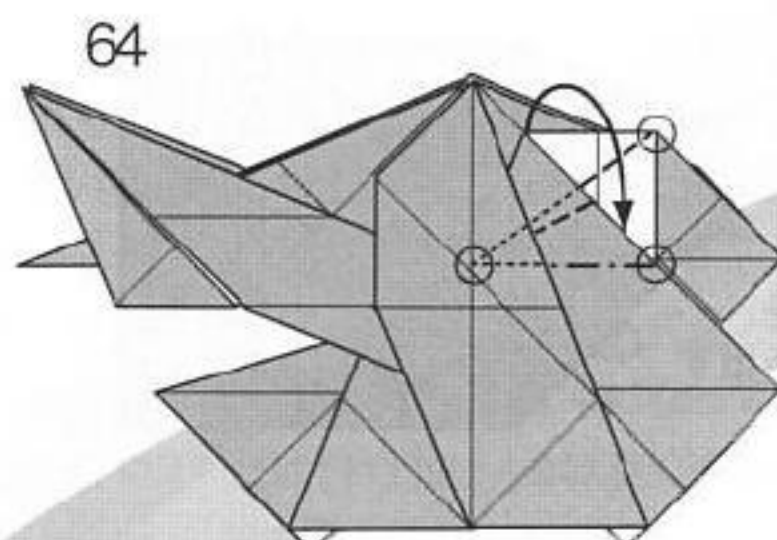
折り筋にフチを合わせて
途中まで折り筋をつける



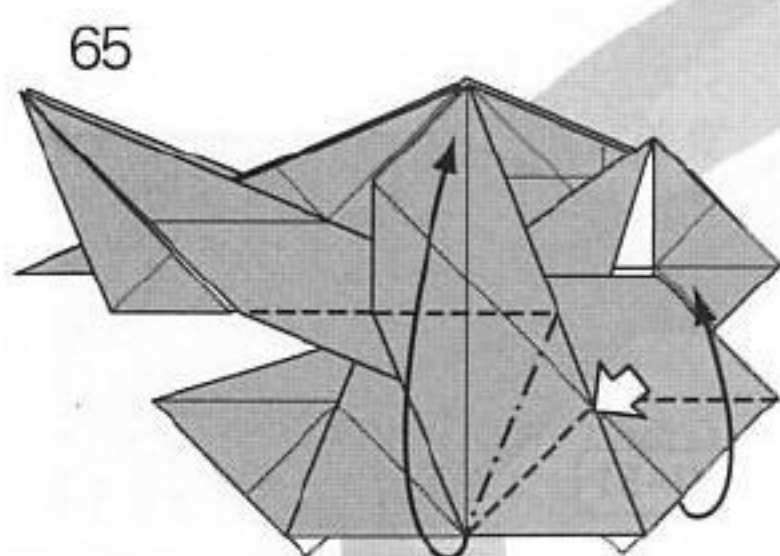
ついている折り筋で、
裏表同時にななめに
段折りし、先端は
かぶせるように折る



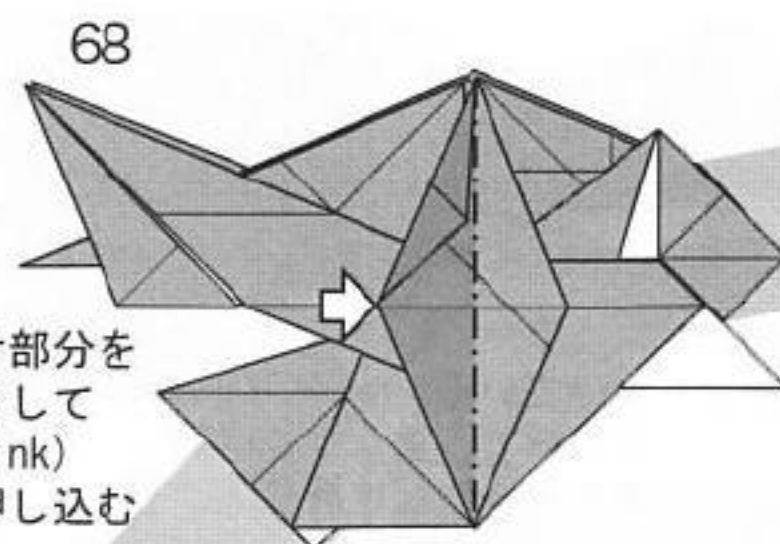
ついている折り筋で、
フチを折り上げながら、
左側のカドを右側へたおす



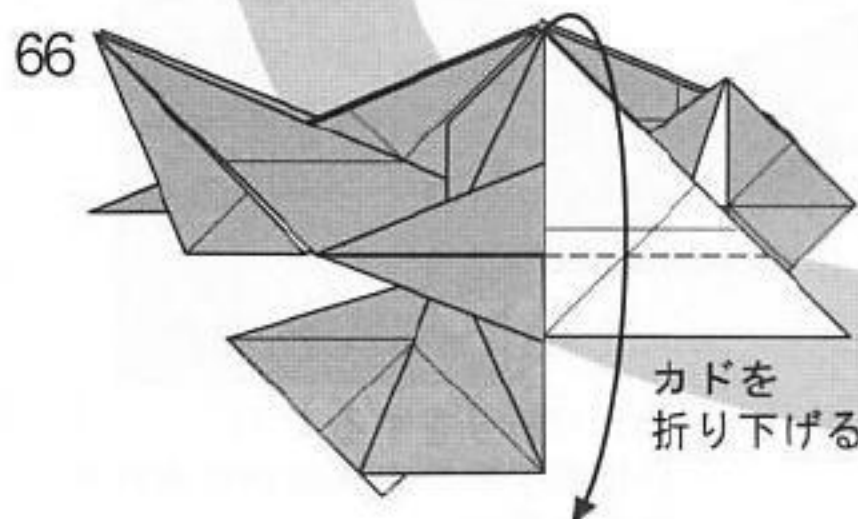
○を結ぶ線で中わり折り



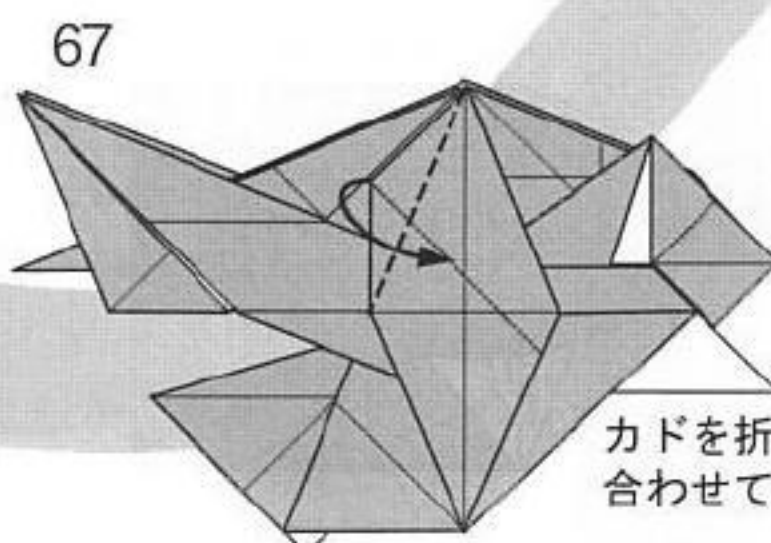
白抜き矢印部分を押し込みながら
フチを折り上げる



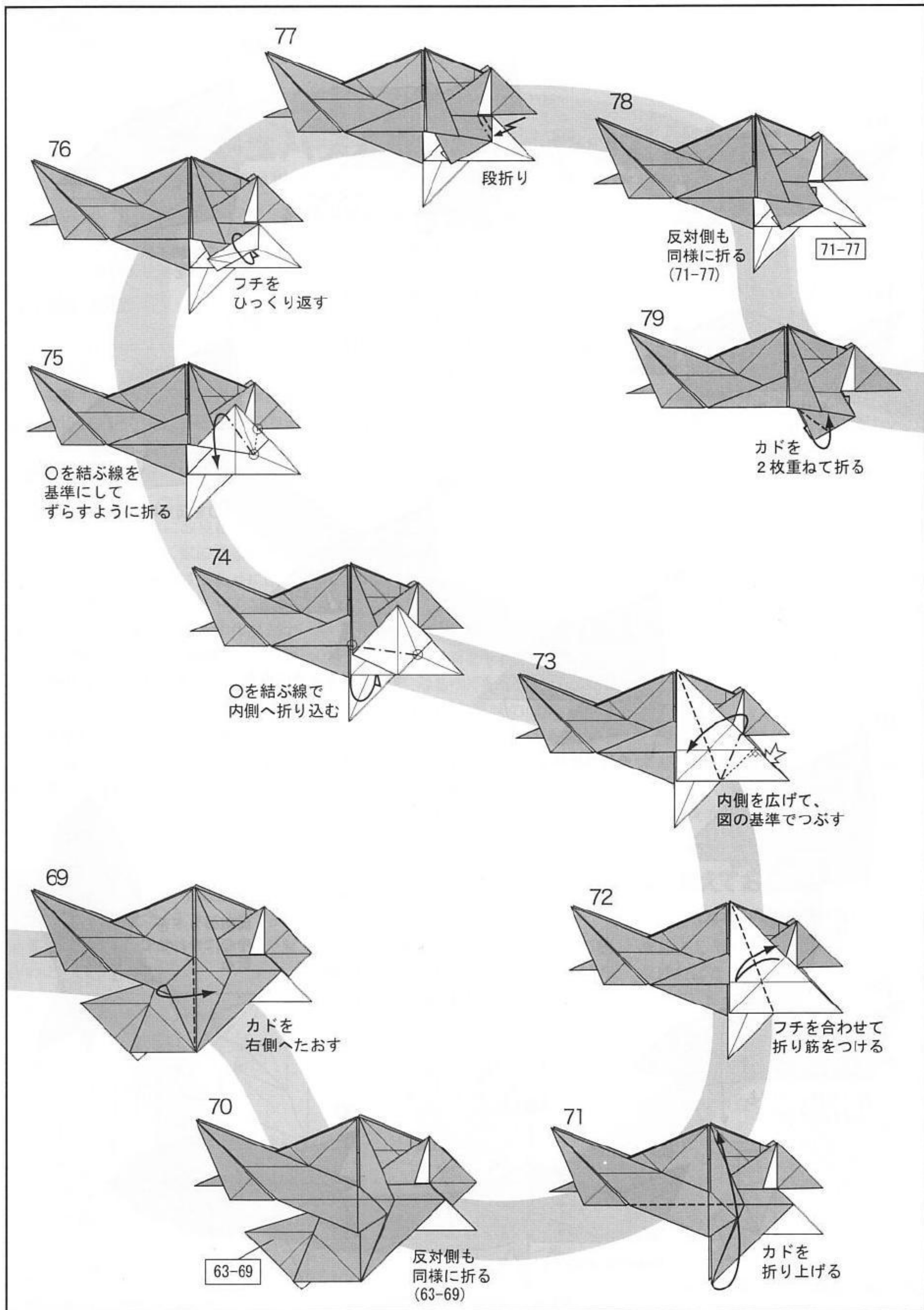
濃い網掛け部分を
しずめ折りして
(Closed Sink)
すぐ下に押し込む

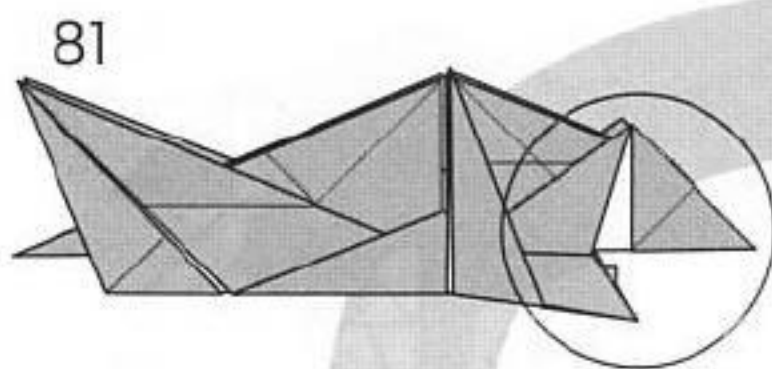


カドを
折り下げる

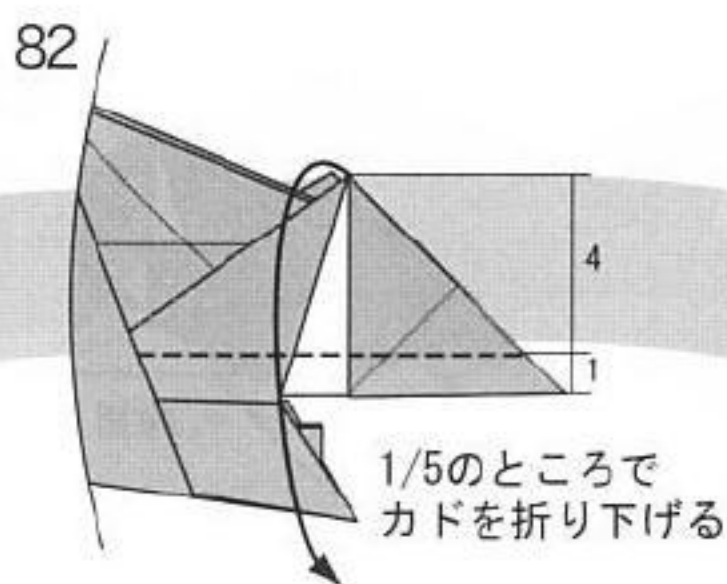


カドを折り筋に
合わせて折る



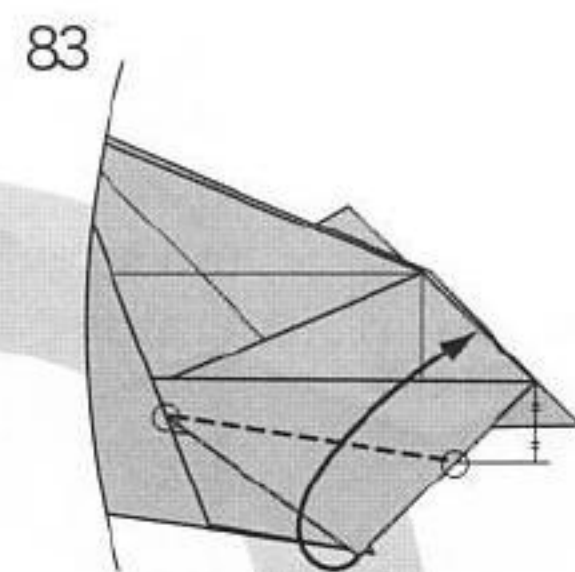


81



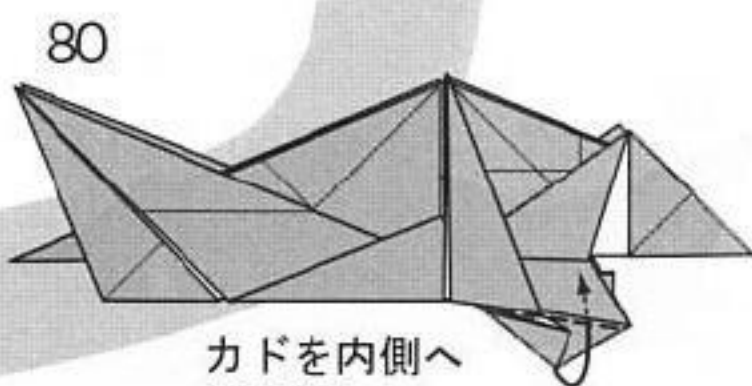
82

1/5のところで
カドを折り下げる



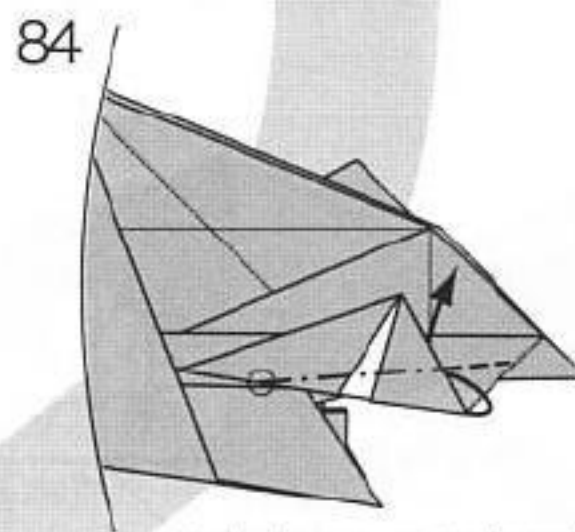
83

○を結ぶ線で
カドを折り上げる



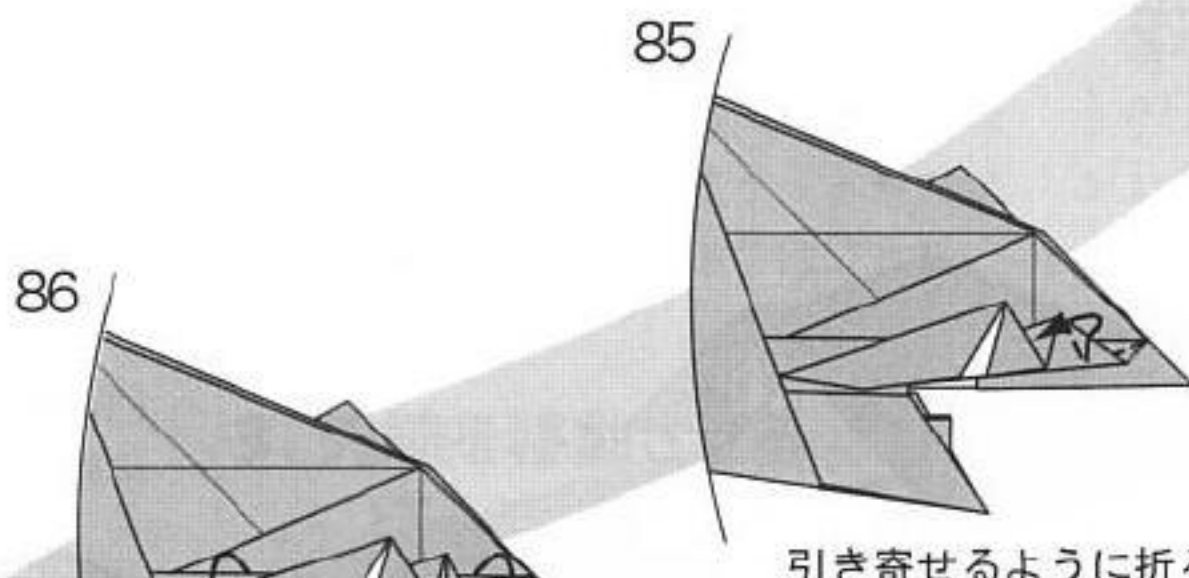
80

カドを内側へ
折り込む



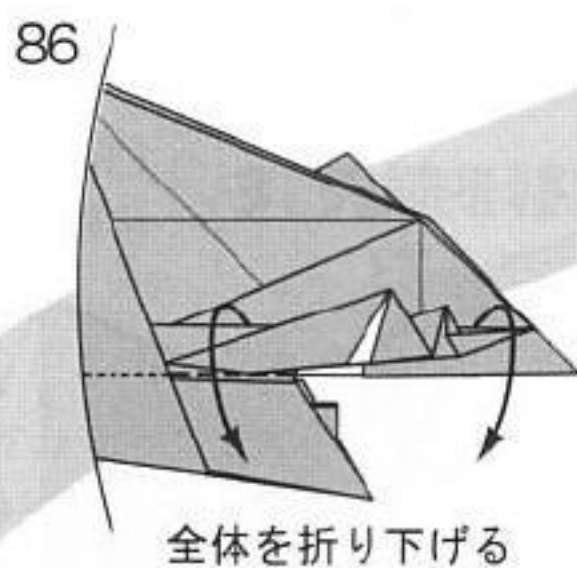
84

○を起点にして中わり折り



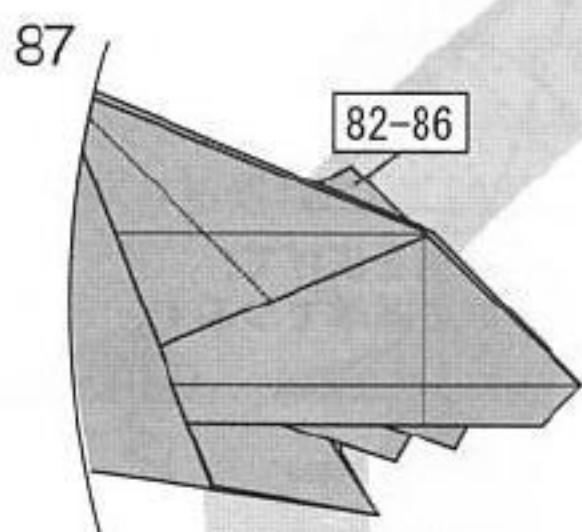
85

引き寄せるように折る



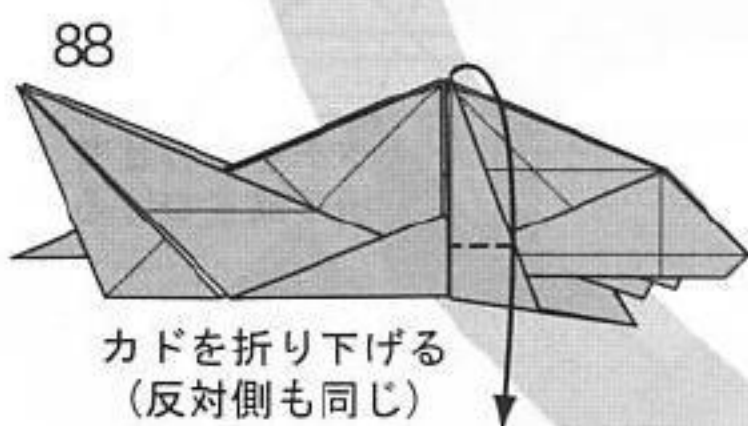
86

全体を折り下げる



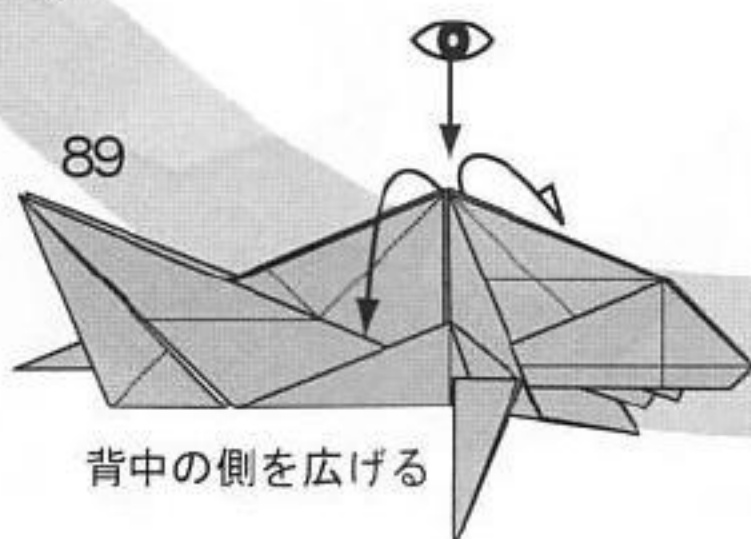
87

反対側も同様に折る
(82-86)



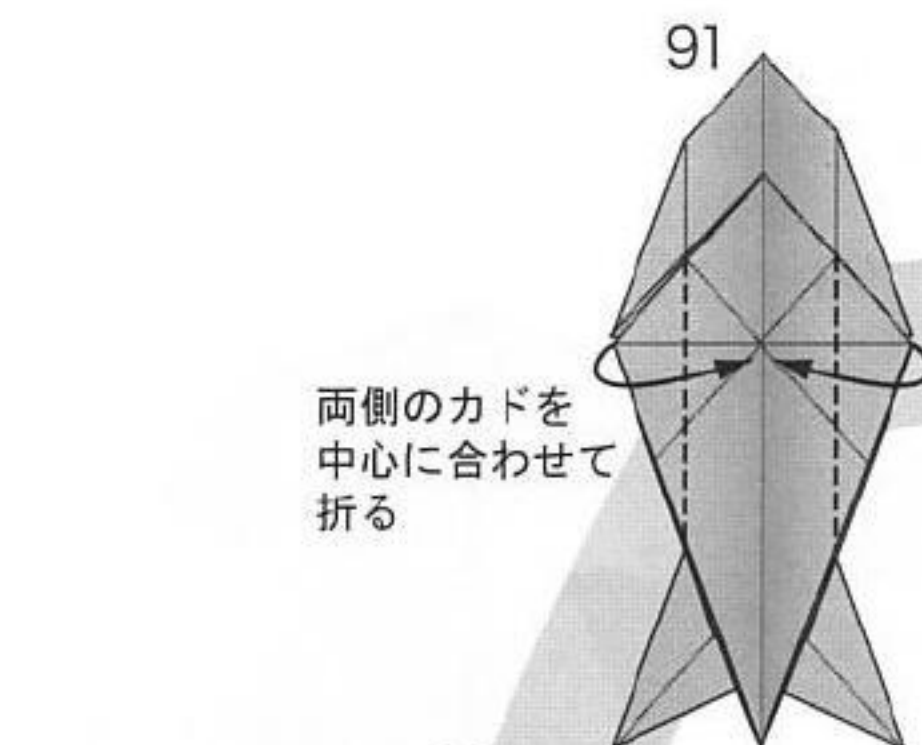
88

カドを折り下げる
(反対側も同じ)



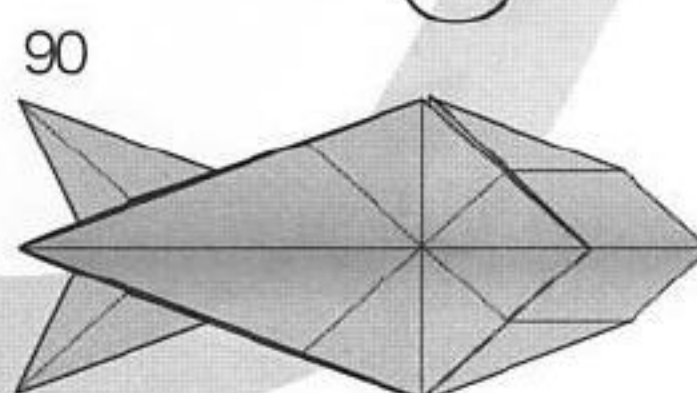
89

背中側の側を広げる

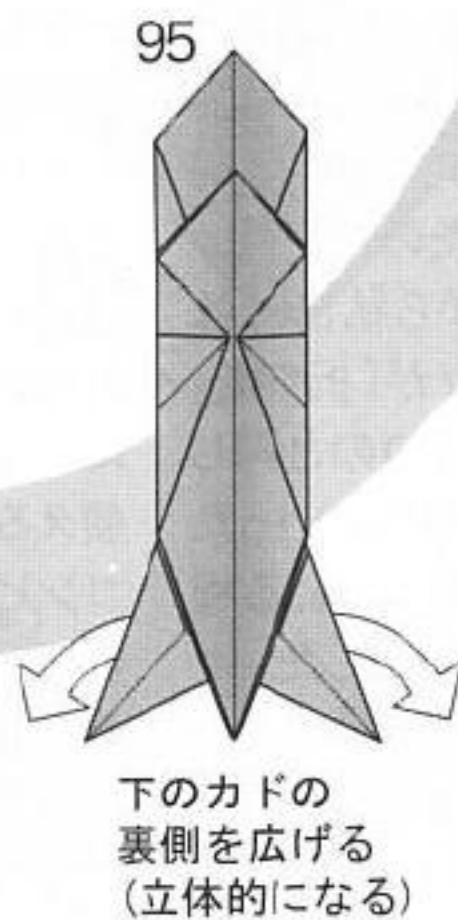
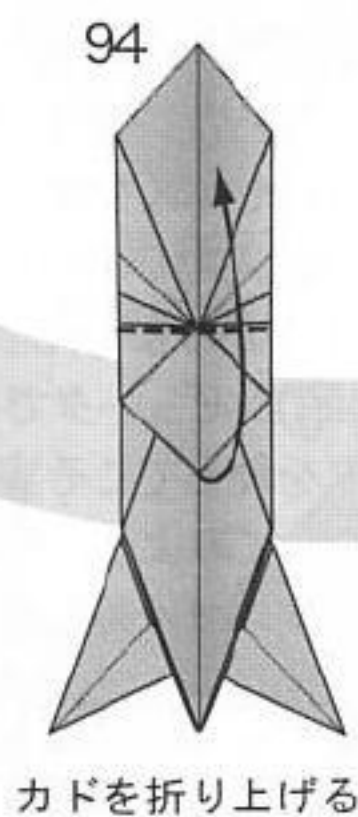
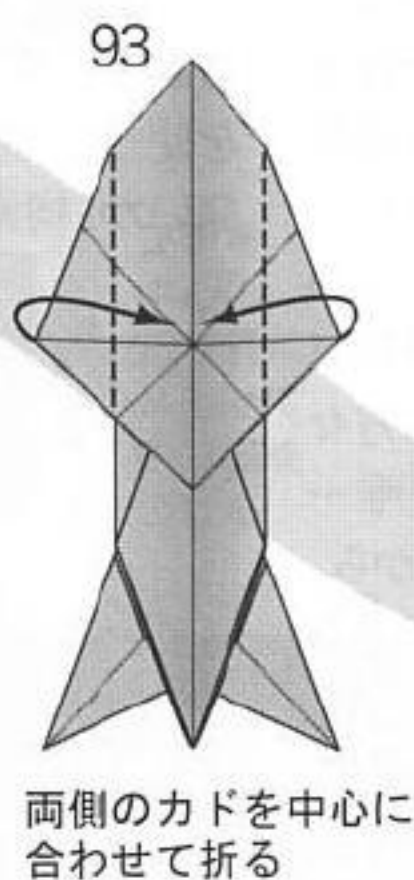
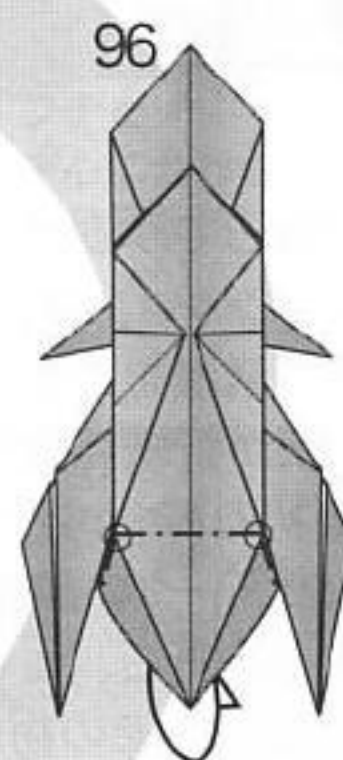
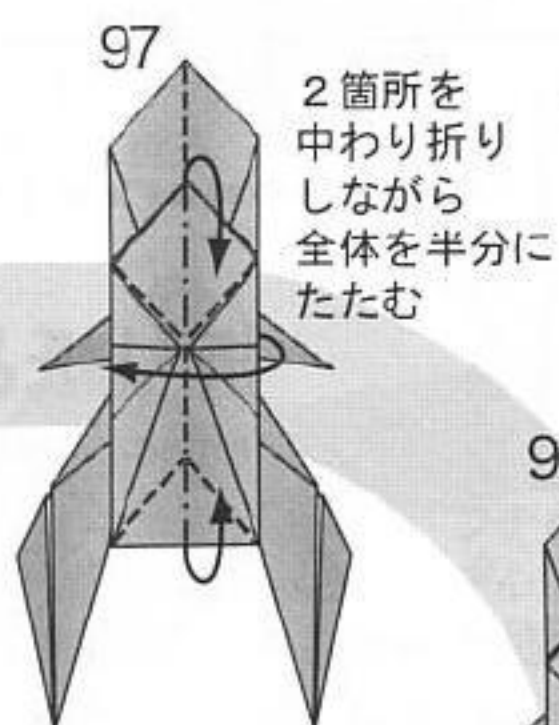
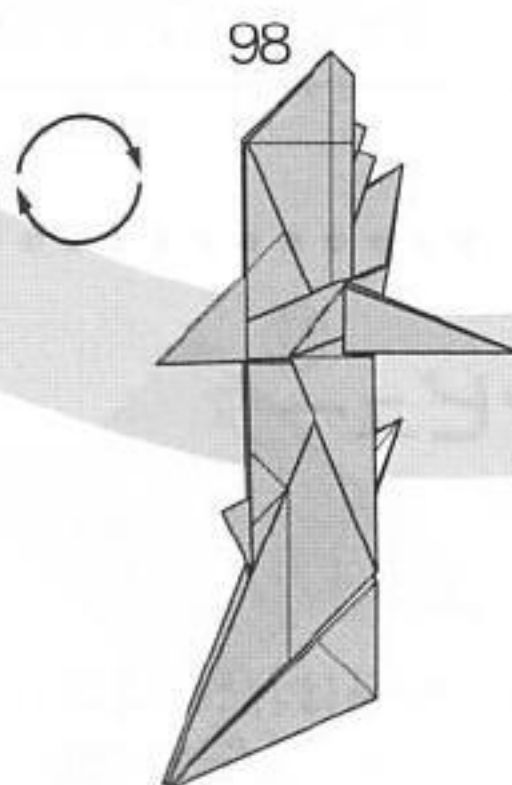
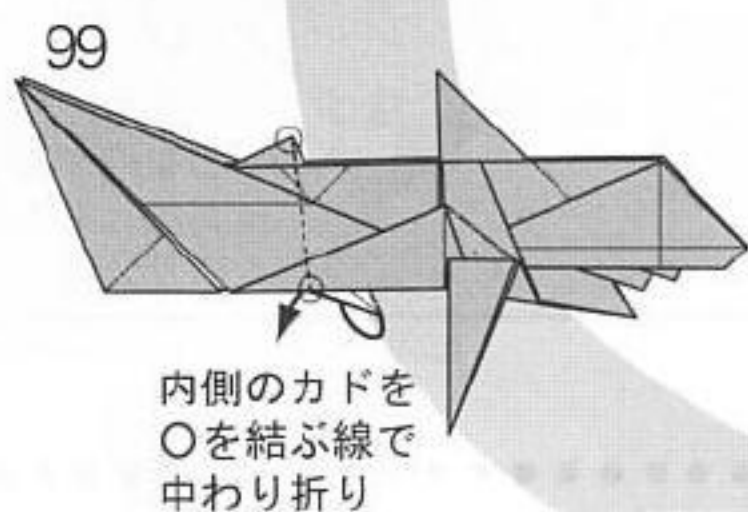
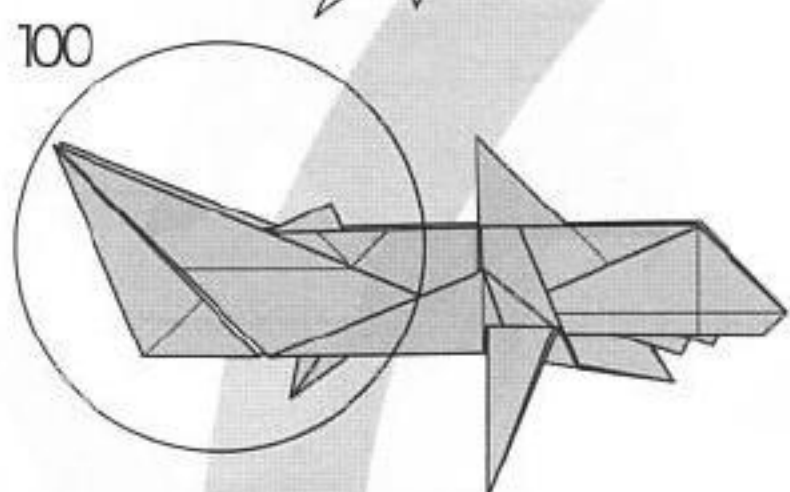
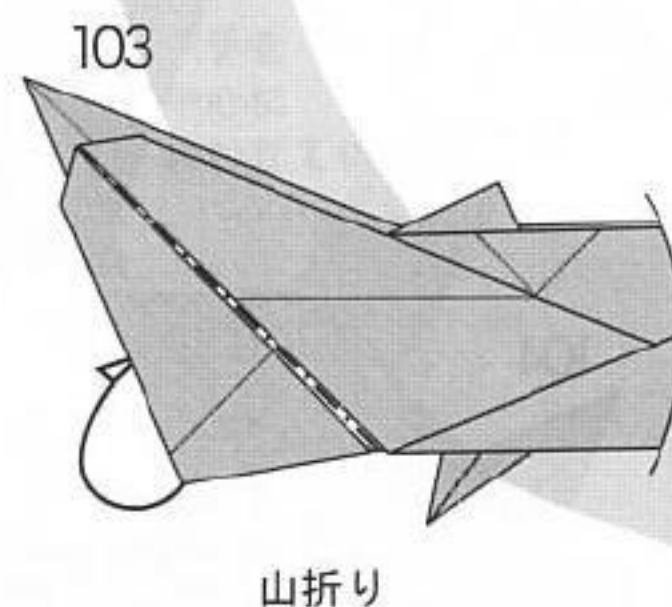
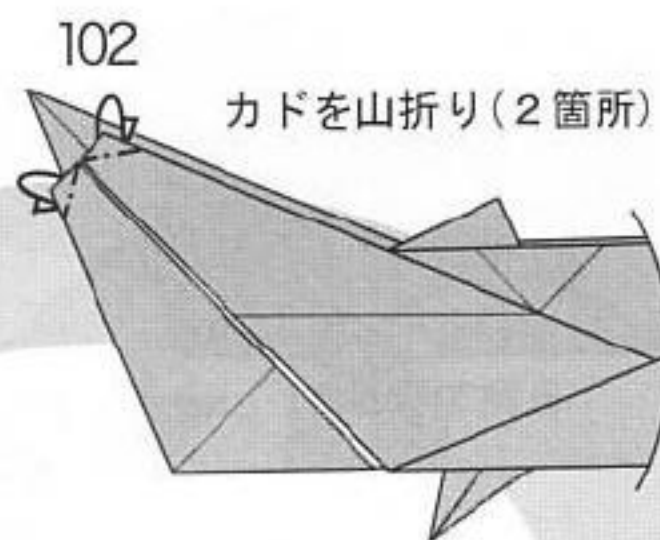
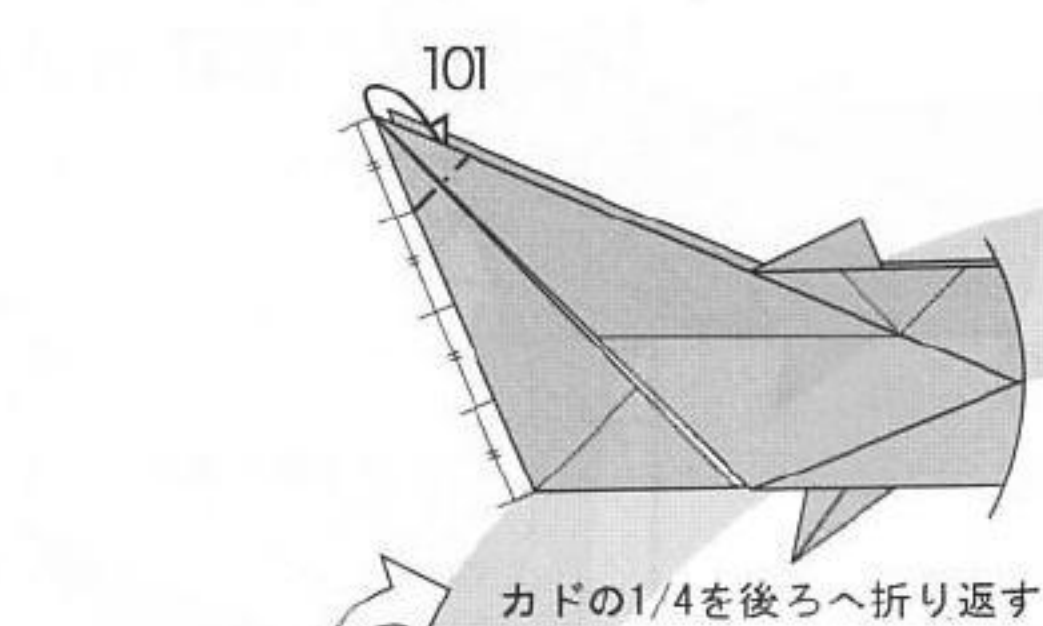


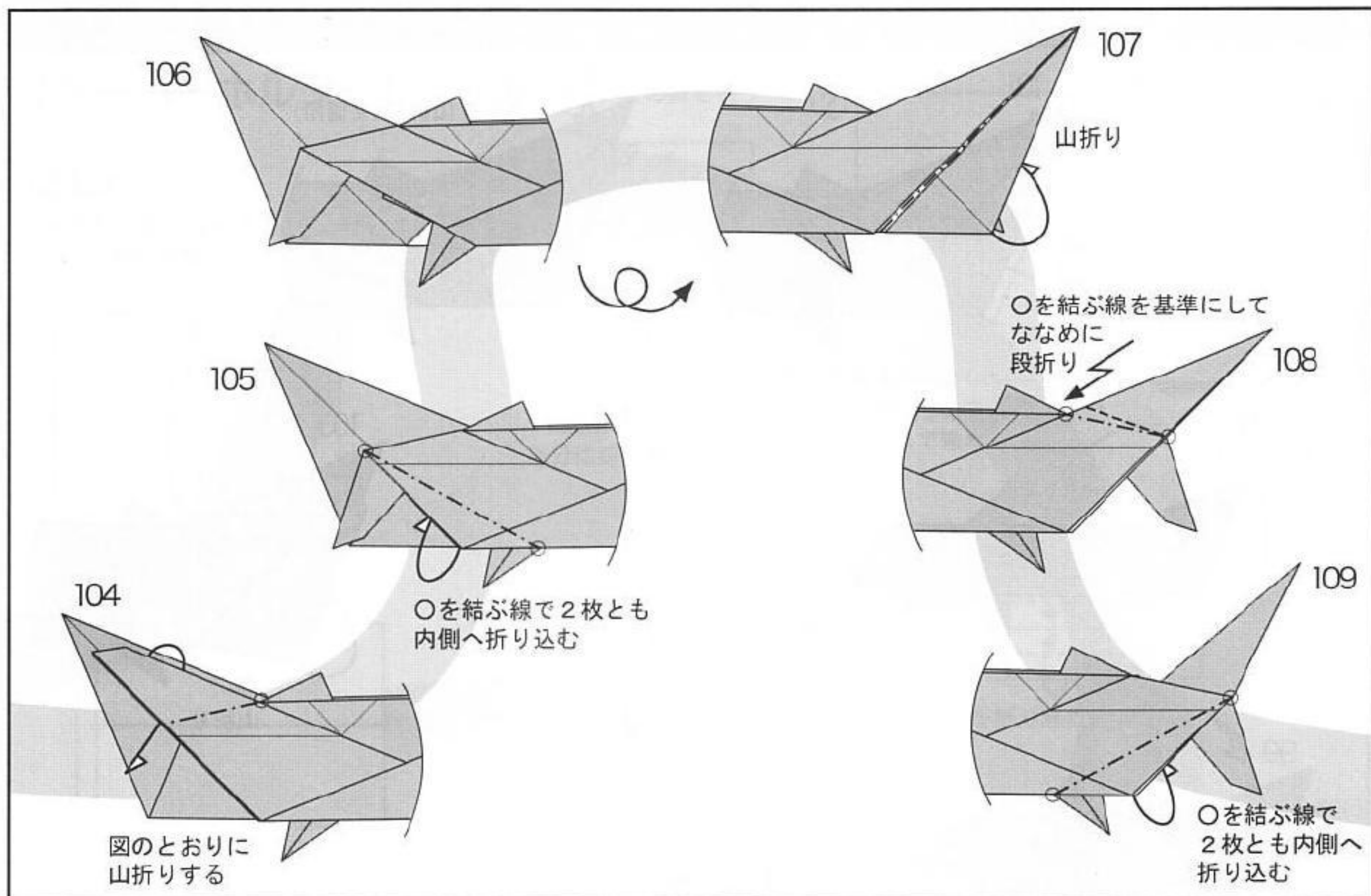
91

両側のカドを
中心に合わせて
折る



90





Orisuzi ("Fold-Creases")

折り紙とコンピュータ

Origami and Computer

三谷 純

Mitani Jun

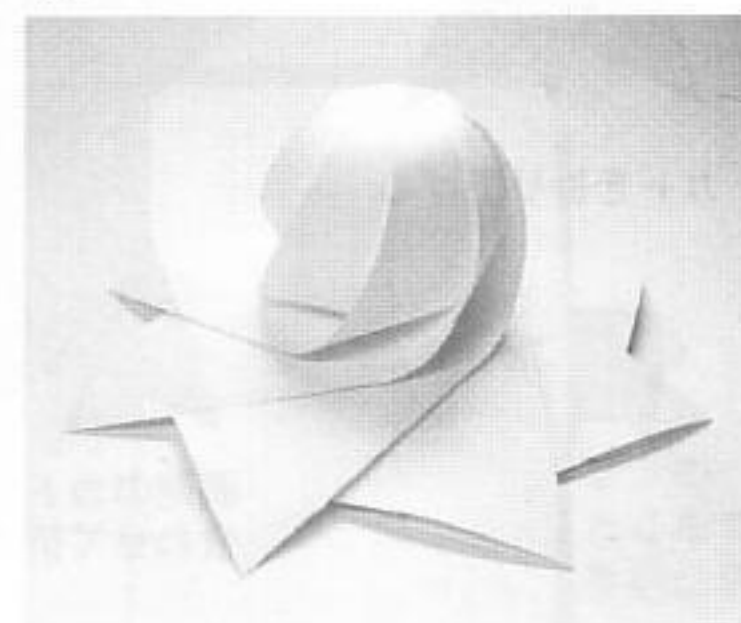
振り返ってみると、今から5年前のコンベンションで、本稿と同じタイトルで講演をさせていただいたのが、私が折紙探偵団と関わりを持つ最初のきっかけとなりました。

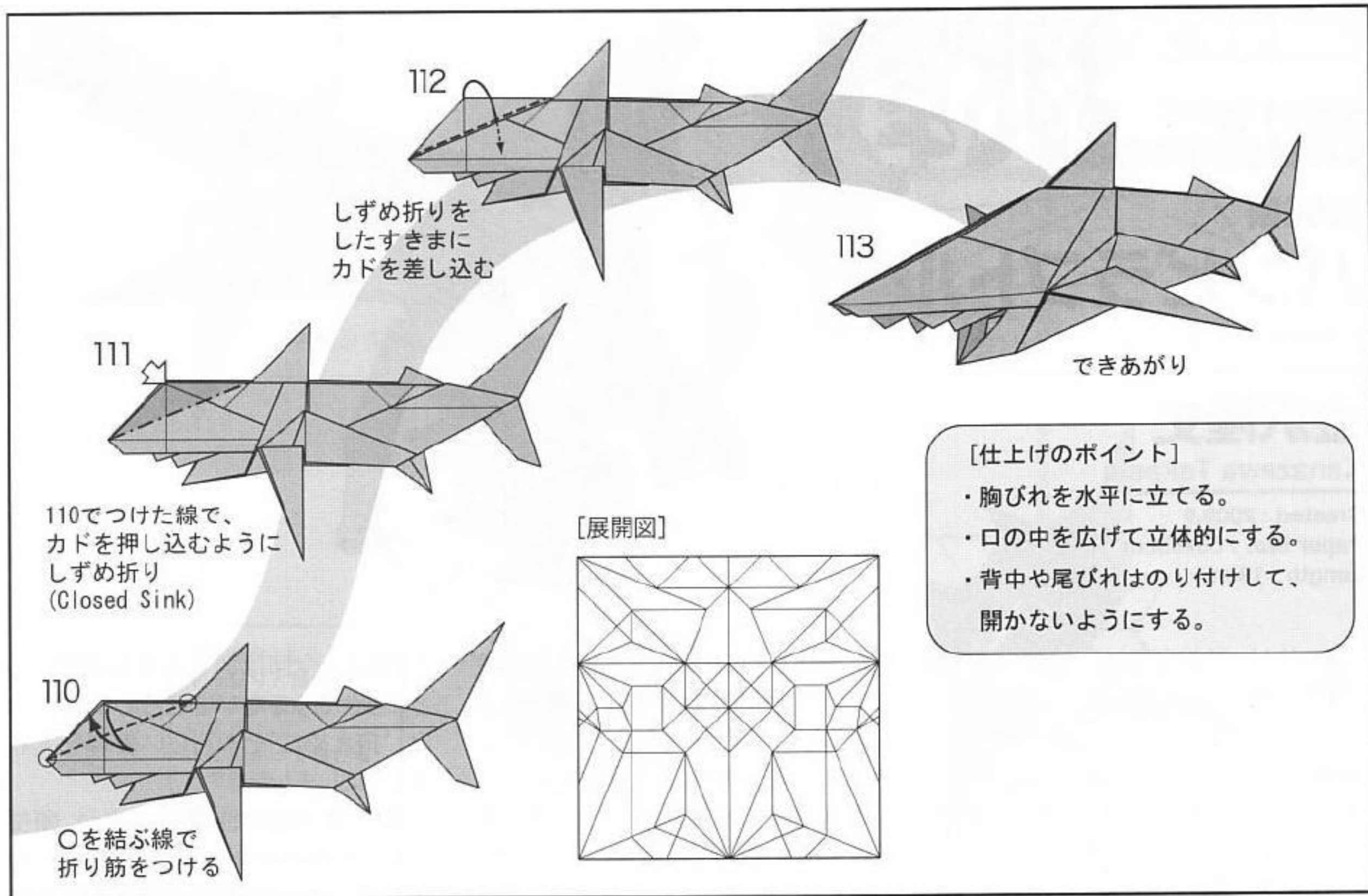
コンピュータの画面上で仮想的な折り紙を折る、ということをしていましたから、その物珍しさから講演の依頼をいただいたのだと思いますが、恥ずかしながら私自身は当時、世間一般の方々が「折り紙」という言葉に対して持つのと同じ程度の知識、つまり鶴や兜といった伝承折りをいくつか知っている程度の知識しかありませんでした。

その後、日本折紙学会の方々と話をしたりする中で、様々な折り紙に触れ、その奥の深さに驚かされ

ました。折り紙の作品は、試行錯誤の後に、いわゆる「見立て」によって創られるものと思っていましたから、創作のための設計技法が存在し、それを駆使して精巧な作品が生み出されるということを知った時には新しい世界を垣間見た気がしました。そこで、私自身も何か新しい折り紙作品をつくりたいと思うようになったのですが、折りの技術もアートのセンスも無い私が長年折り紙に取り組んでいらっしゃる方々にかなうはざありません。私が唯一使える道具はコンピュータでしたから、コンピュータを使ってこそ実現できる作品づくりをしてみようと考えました。幸い、簡単なアルゴリズムで立体的な形を折り紙で作れることに気づき、それをコンピュータで設計できるように

なったため、写真のような作品を多数作れるようになりました。昨年には書籍『ふしぎな 球体・立体 折り紙』(二見書房)を出させていただくこともできました。幸運が続いたのだと思います。今後もコンピュータを使って、何か新しい形を折り出せないか、模索していきたいと思ひます。





折紙三昧 ⑤

Origami-Zanmai (This Origami and That)

思いを形にする

Shaping the Live Ideas

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表

人は昔から“思い”、“祈り”のような無形の感情をものに込めるということをやってきました。彫刻や絵画に宗教的思いを込めたり、プレゼントに感謝や好意の思いを込めたり。ものの大きさや華麗さがその思いの深さに比例するとは、必ずしも人は信じていませんが、形にすることで何らかの証が得られると考えているのは確かです。ものを作るという行為は、少なくともその思いが一定時間持続していることであり、時間というこれまた無形のものを形に変えることを通じてそこにある思いの証を得ます。

どうやら折り紙は、僅かな時間や小さな思いを形に積み上げるための良く出来たツールのようです。病気のお見舞いや母校の勝利を祈って作る千羽鶴は言うに及ばず、ワー

ルドカップの日本チームの勝利を願って、大量の八咫鳥が折られたのも記憶に新しいところでしょう。

さて、もうひとつある種の思いを込めて皆で折り紙を折りましょうというプロジェクトがあります。これは、生物多様性条約の第10回締約国会議(略称:COP10)が名古屋で開催されるのに向け、地球上に多種多様な生物(遺伝情報)が存在することの得難さに思いを馳せて折り紙を折るというもので、国際自然保護連合日本委員会(IUCN-J)が呼びかけているものです(<http://www.cop10-origami.com/>)。そして、このプロジェクトには以下のような内容のメッセージも添えられています。

＊折り紙は伝統文化であると同時に芸術作品でもあります。著作物について

のお取り扱いにはご配慮ください。

＊紙は植物から出来ています。折り紙で楽しむと同時に、紙資源を大切にすることについても考えましょう。
＊世界には教科書やノートさえ手にすることの出来ない国々も沢山あります。私たち日本人が当たり前のように「折り紙」の折り方を学ぶことができる反面、世界にはさまざまな現場があることにも思いを馳せましょう。(原文を若干略しています)

私たちが当たり前に手に入れると思いがちな様々な資源や情報の成り立ちに思いを馳せる、そんな時間を形に残す方法として折り紙はより意味深いメディアになっていると思います。JOASは、このプロジェクトのパートナー団体としてエントリーしています。

展開図折りに 挑戦

Crease Pattern
Challenge!

第66回

バンビラプトル

Bambiraptor

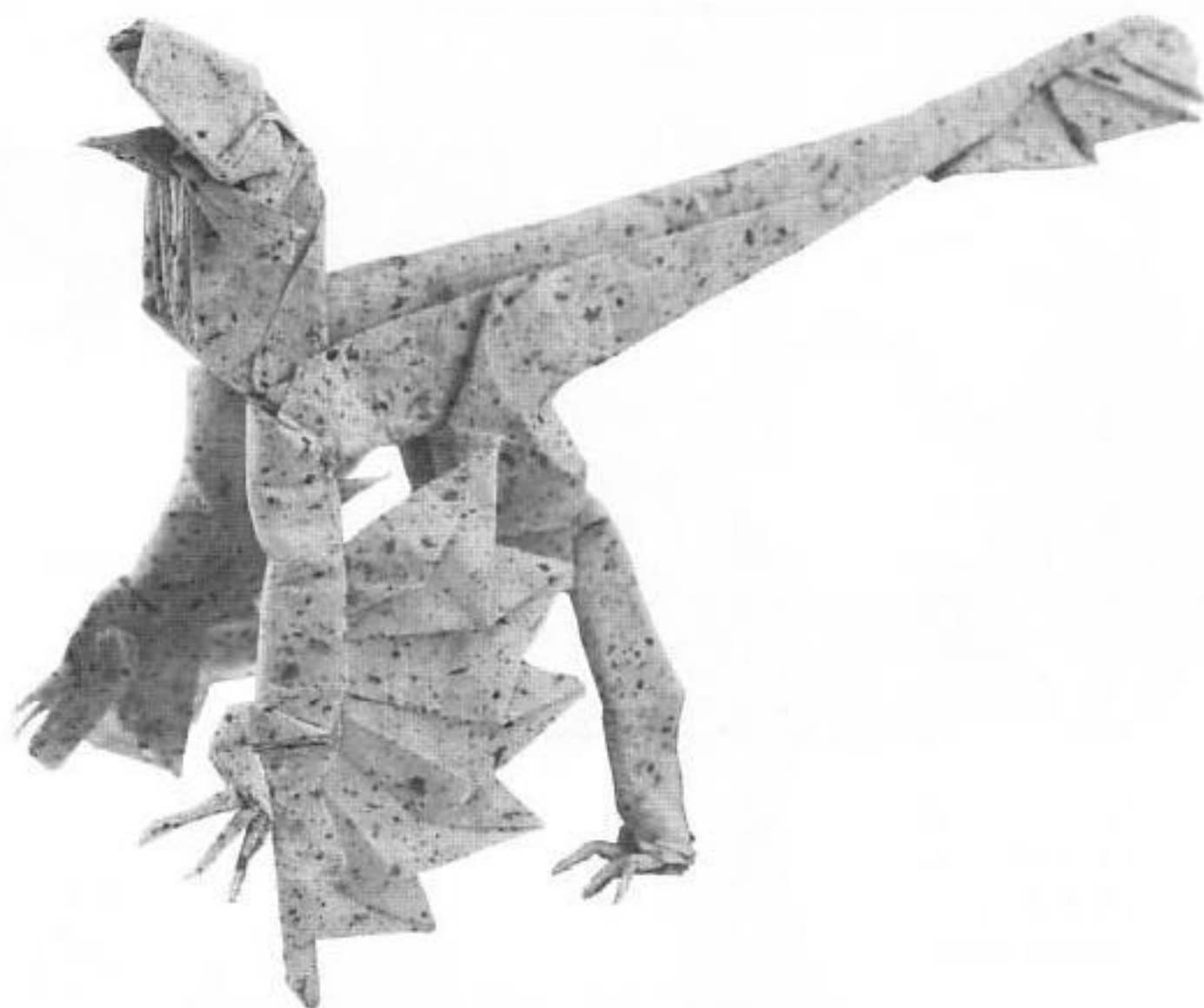
金沢隆史

Kanazawa Takashi

Created : 2009.9

Paper Size : 63x63cm

Length : 19cm



本作は、図鑑を眺めていた時に惹かれて作ったものです。この恐竜について調べていると、別の種類の恐竜ではないかと思えるような再現モデルが見つかりますが、今回は、その中の日経ナショナルジオグラフィック社の図鑑に載っているものと国立科学博物館の再現モデルを基に作りました。羽毛があったとされる説(余談ですが、化石から証拠は見つかって

ないそうですが、羽毛があったとはされているそうです)と前足の指が3本あることの両方が再現されていたので、これらを参考にしました。

本作を作るうえで迷ったのは、「羽毛をどうするか」ということでした。Tessellationでそれっぽい模様を考えて組み込むという案も考えましたが、参考にしたモデルや資料を見る限り、あまり羽毛を目立たせない方がよい

と判断し、今回は羽毛に覆われているところとそうでないところの境目にのみ、“控えめに”それらしい表現を入れることにしました。

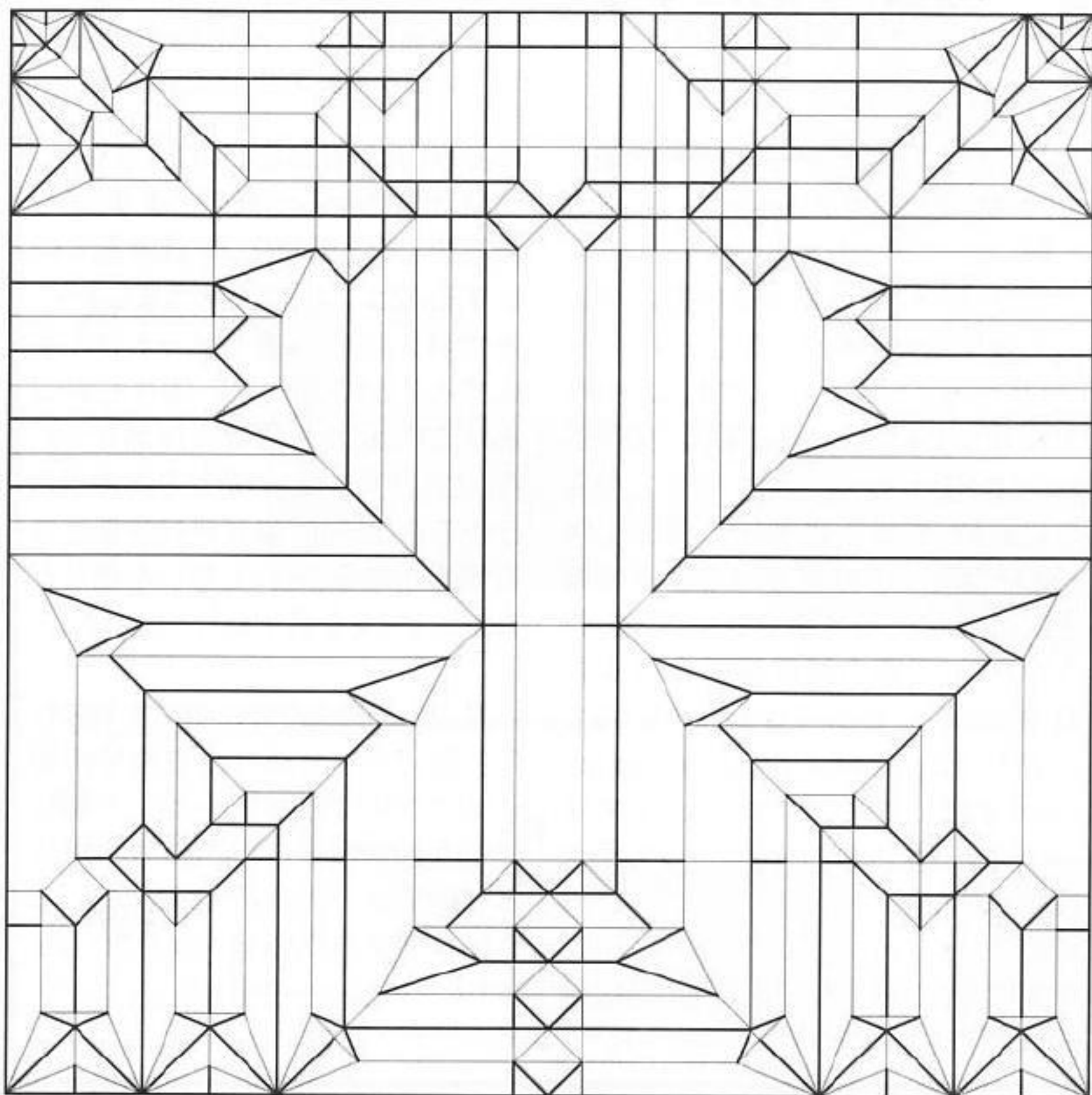
紙を選ぶ際の注意点ですが、頭部のあごの部分に紙の裏が出るので、色を変えたければ表裏が異なる色の紙を、そうでなければ表裏同色の紙を使うとよいと思います。また、局所的に紙の重なりが大きくなるので、使用する紙は、薄手で張りのある紙を使うとよいと思います。ちなみに、今回は、サンドペーパー(紙やすりではありません)を使用しました。

次に展開図について。見ていただければわかるように、構造は32等分蛇腹を基本として、一部の幅を2倍にしています。ところどころに幅変換を使ってはいますが、特に変わった構造は含んでいませんので、畳むのに戸惑うことはないかと思います。

最後に、仕上げですが、基本的には、

- ・蛇腹幅変換をすることでできた襷を使って細かいカドを折りだす
- ・紙の重なりを隠すようにする

という2点を念頭に置いて折り込んでいます。後者は、具体的には、かぶせ折りをしたり、蛇腹幅変換でできた幅の違いを使って重なりが見えるところにかぶせたりしています。一応作例はありますが、それにとらわれずに各自、工夫して仕上げてください。



File-39

ソク・ソン

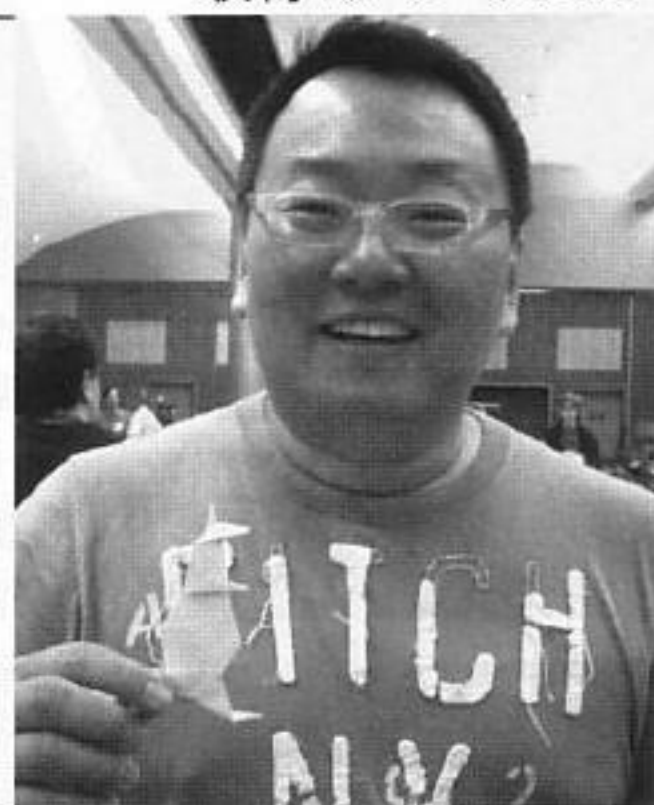
Sok Song

Anne LaVin

取材: アン・ラビン

ソウル(韓国)生まれ。7歳のとき、家族と共にUSAへ移住し、現在ニューヨーク市在住。仕事の合間をぬって、主催する折り紙グループで折り紙を楽しみ、また折り紙雑誌『Creased』の出版に向けて鋭意活動中。趣味は旅行と映画、そして新しいレストランを見つけてチャレンジすること。最初の折り紙著書となる『Crease + Fold』が、2010年11月にPotter Crafts社より刊行される予定。

個人サイト: www.creased.com



■折り紙をはじめたのはいつですか。

折り紙をはじめたのは6歳ぐらいのときです。折り鶴や箱など、非常に簡単な伝承作品からはじめました。ほとんどの作品は学校で習いました。私にとって初めての折り紙の本は、エリック・ケネウェイの『Complete Origami』でした。この本は、百科事典のように項目がアルファベット順に並んでいて、歴史や文化についての情報も載っていたので、気に入りました。その本に載っていた作品の多くは、今でも折っています。

その本にあった、たとえば8弁の花やひまわりなどは、現在でも大好きな作品です。

■今はどんな作品を折っていますか。

私はちょうど最初の本を書き上げたところですが、それは、シンプルから中級レベルの作品がほとんどです。内容は、ユニットから動物、花、そして紙幣折り紙にまでわたります。作品はすべて私の創作で、従来の基本形に基づいています。伝統的な基本形を組み合わせた基本形も使っていますが、それほど複雑な作品ではありません。

■好きな折り紙作家は誰ですか。

折りたいと思う作品がある一方、感心するような作品もあります。神谷哲史さん、北條高史さん、ロバート・ラングさんといった作家のコンプレックス作品は、芸術として賞賛しています。作品の芸術性や、髪の毛やギターのような細部における表現は、まるで彫刻のようで、感心させられます。

また、ジャン・ディンさんなどのアーティストの作品では、比較的少ない折

りで、しかし微妙な造形で複雑な表現が実現されており、驚かされます。

私自身が折る作品について言えば、どちらかというとシンプルな作品が好きです。巧みな折り手順が大好きですし、折っている途中で驚きのある作品が好きです。

■お仕事は何をしていますか。

実際のところ折り紙も仕事ですが、広告やインテリアデザインの分野で彫刻や小道具を作っています。

また、折り紙のワークショップをしたり、企業のイベントやプロモーションでデモンストレーションをしたりしています。

■OrigamiUSAではどのような活動をしていますか。

5年ほど、ニューヨークの自然史博物館のロビーに飾られるOrigamiUSAホリデーツリーのデザインをしていました。何人かで、毎年テーマを考え、細部までデザインし、どの作品が必要かを判断し、手伝ってくれるボランティアを組織していました。

ここ2年は、コンベンションで、巨大折り紙コンテストといったスペシャルイベントも組織しています。

■今後はどのような折り紙を折りたいですか。

展示できるような作品をもっと折りたいと思います。つまり、芸術として折り紙を折りたいと思っています。今のところ、自分の作品の展示はほとんどしていませんが、そういうことをもっとやりたいと思います。

私は7年間、商業的な活動をしてきました。それを展示活動に変えてゆけ

ればと思っています。

しかし、それは難しいことです。アメリカではほとんどの場合、折り紙はまだ、芸術としてではなく工芸としてみられています。多くのアーティストが、芸術の水準にまで引き上げ続けていますが、まだ広く認められてはいません。

私がもっとも興味を持っているのは、シンプルな作品を、たとえば本当に面白い特別な紙を使って折ったりして、展示できるようなものを作ることです。

■韓国の折り紙団体とは交流がありますか。

つい最近、韓国の団体と連絡を取りはじめたところです。私は韓国系ですが、実際のところアメリカ人なので、ほとんどのつながりはOrigamiUSAを通してのものです。

私はニューヨークで折り紙クラブを運営しているのですが、韓国協会の会長の娘さんがクラブの会合に出席し、紙を持ってきてくれたことがあります。その関係で、OrigamiUSAのストアとコンベンションで販売している韓国の折り紙用紙を入手するのを手伝っています。

■韓国のコンベンションに行ったことはありますか。

行ったことはありません。これまでの韓国の折り紙コンベンションは、折り紙とペーパークラフトが混ざっているように思います。それがどのように混ざり合っているのかを見るのは興味深いと思います。

Rabbit Ear

つまみおり

Information

◆第3回折り紙著作権国際会議

折り紙探偵団コンベンション初日(8月13日(金))の特別講演会は、第3回折り紙著作権国際会議との合同開催となります。世界的な折り紙著作権(知的財産権)に関する活動の一端を、海外からの講演者を迎えてご紹介する機会になればと考えております。講演予定者は、海外から第1回の海外側の議長であるマルシオ・ノグチ氏、Origami Author and Creators の世話人でもあるアン・ラビン氏、日本からは第1回の発起人である山口真氏、JOASを代表して西川誠司氏。また、今回は来日できない海外作家の方々から本会議に向けたメッセージの紹介なども予定しています。

講演会は参加費無料ですが「折り紙の知的財産権検討基金」より、一口1,000円のご寄付を申し受けます。講演当日に専用受付を開設致します。

◆第1回韓国折紙コンベンション

2010年 8月20日(金)、21日(土)、22日(日)

韓国折紙協会主催の第1回韓国折紙コンベンションが開かれる。

これは、おりがみはうすの山口真氏が韓国折紙協会との交流を深めるうちに、現在の韓国折紙協会が、アメリカ、ヨーロッパ方面との折り紙交流があまり無いということを知って働きかけたことから実現に至っている。

韓国のコンベンションを、JOASコンベンションの翌週に設定する事により、JOASコンベンションの海外からの参加者が、ストップオーバーのシステムを利用して、「寄り道」感覚で韓国の大会にも参加してもらおうというアイデアである。

第1回目となる今大会は、準備期間も短く、規模的にそれほど大きくない。しかし、今後継続していく事で、新しい折り紙の輪が広がっていくことが期待される。

主催: Korea Origami Association

韓国折紙協会

日程: 8月20日(金)、21日(土)、22日(日)

会場: Boramea Youth Center

ボラメ 青少年修練館(ソウル)

参加費: 50,000韓国ウォン

(21日弁当代込み)

懇親会: 30,000韓国ウォン(希望者のみ)

※基本的に、現地集合・現地解散です。

※渡航手段及び宿泊場所は、各自で予約する必要があります。

募集人数: 120名

主な内容(予定)

・外国人ゲストによる特別講演会

ゲスト/ブライアン・チャン氏

・韓国、日本、欧米参加者による、国際色豊かな折り紙教室

・懇親会(希望者のみ)

・折り紙作品展示

日程:

8月20日(金)

・参加受付(11:00-12:00)

・教室受付(12:30-13:00)

・開会式 (13:00-14:00)

・折り紙教室(14:00-18:00)

※20日の昼食は、受付の合間に各自でとります。

8月21日(土)

・特別講演会(10:00-12:00)

・昼食 (12:00-13:00)

・教室受付 (13:00-14:00)

・折り紙教室(14:00-18:00)

・懇親会 (18:30-) ※希望者のみ

8月22日(日)

・教室受付 (10:00-10:30)

・折り紙教室(10:30-12:20)

・昼食 (12:20-13:30)

・教室受付 (13:30-14:20)

・閉会式 (14:30-)

参加申込締切: 8月10日

※この時点で、渡航予約と現地宿泊所の手配が完了している必要があります。

※安い宿泊場所を紹介することが可能です。ご希望の方はおりがみはうすまでお問い合わせください。

◆第16回折り紙探偵団コンベンション直前情報

吉野一生基金招待者決定!

今年の吉野一生基金招待者は、USAのマルシオ・ノグチ氏と、韓国の若手作家3名に決まった。

ノグチ氏は多方面で活躍されているが、JOASにとっては、海外交流の橋渡し役の1人として欠かせない存在である。

韓国からの招待者は、韓国折紙協会の推薦を受けた3名。吉野一生基金から支給される1人分の20万円を、3人で利用して来日する。隣の国という近距離ならではの使い方といえよう。



マルシオ・ノグチ氏

NY在住の日系ブラジル人。OUSA評議員。折り紙に関わってわずか数年ながら、何でもできてしまう謎のマルチ人間。



イ・チェグ氏

nickname: Netherlands
不切正方形1枚のリアルな作品、特に飛行機の創作を得意とする。



チョン・キダン氏

nickname: Tic-Toc
シンプルで完成された作品を好み、自身もそのような創作を目指す。



チャン・ヨンギ氏

nickname: O-O kami
1991年生まれの高校生。ボックスブリーツによるコンプレックス作品を得意とする。

去る6月末、日々溜まるレポートに嫌気が差した4人の大学生+αがNYはOrigamiUSA Convention2010を目指した。今日はそんなお話をさせて頂く。毎年JOASの若手から参加者が抜擢されるが、今回は木っ端者の私も混ざって頂いた。初の海外渡航故、まだ着いても居ないのに飛行機ではしゃいでいたのは内緒だ。実際のつけから遅刻者が出たりと楽しい旅であった。因みに筆者も到着早々税関に捕まり一日分のおやつを失ったりと。

さて初の海外コンベンション参加、「一人でも多くの海外作家様に顔を売る一方ちゃっかり観光も満喫する」が当初の私の計略であり完遂された。

初日の夜はディナーに招待頂いた。見知る物が何一つ無く、内心震えながら席に着いていた私に最初に自己紹介してくださったのがロマン・ディアス氏であった。氏に限らず、作家さんと話がしたいが為に私が要所要所で繰り出した「英語モドキ」は今でも赤面物であるが、皆さんとお話し出来た事自体がこの上ない宝である。一方で私は「少々」濃い目の味付けの料理と格闘していたが、仕出される中国茶を併用すれば幾らでも胃に入る事に気付く、茶の威力とアメリカ人の食欲の秘密を垣間見た。

翌日、私は体育館に居た。運動ではない、ここが作品の展示会場である。持ち寄ったデザインチャレンジの作品を弄っているとマーク・カーシェンバウム氏がお声を掛けて下さった。無理しなくても「車」を折ってきて正解であった。

展示会場でふらふらしていると、作者は誰だと呼び出され、作品の構造、展開図は？裏側の様子は？等々、まるで自分が有名作家である様な錯覚に陥る程の質問攻めに遇うのは良い気分であった。そして国際的コンベンションというだけはある、異文化の作風が一堂に会する展示会場は暇を許さない、良い眺めであった。

3日目、遂に3日間に及ぶ講習会が始まった。1日だけで100近い教室が開かれる。これだけで東京コンベンションが終わってしまう程に選択肢が多いのも自由の国の成せる業。そしてその選択肢の一端を私も担がせて頂いた。私の講習作品は外国人ウケをワザとらしく狙い、結果教室はほぼ満員御礼。英語での講習には不安を禁じ得なかったが、アシスタント・通訳さんとしてノグチ氏のお力を借りる事が出来た。氏の協力無しでは私の講習は混沌を極めた事はまず間違いない。受講者の中に、熱心に講義のメモを取る子を見つけて感心した思い出がある。

4日目、仲間の講習も無事に終わると有り得ない光景が展開される。凡そ50チームが参加する、巨大折紙コンテストである。競技の為に1辺3m級のカラフルなロールが何十本と会場の壁に立て掛けられている様はデパートの生地売り場でも見ないだろう。競技の開始合図と共に100人近い参加者が一斉に持ち出し



神谷 亮氏の講習風景



フリードマン氏の講習を受ける筆者

ては床に敷いて折り始める様はきっと壮観であつただろう。そして深夜。このコンベンションの良い所はLateNightFoldingと称して、いわゆる徹折りが奨励されていることである。交流の輪を広げる重要な時間となった。

コンベンション最終日、夕方はお別れディナー会。JOASメンバーは早々に食事を切り上げ、何故かセス・フリードマン氏のテーブルに集まり、何故か折紙の課題を課す。すると見世物だとも思ったのか次々と他の参加者も集まりだし、氏は変な汗をかきながら課題を急かされるという構図に。調子に乗って御免なさい。実は筆者は始終会話を夢中で、奇妙なことに紙を折っていた記憶が殆ど無い(それはそれで満足の行くものだ)。そういう所で惜しくもコンベンションは無事終了した。

その後帰国する迄にも、ここに書けない様な珍妙な出来事は多々あったのだがそれはまた別のお話。何より、今回の貴重な経験の機会を与えて下さったおりがみはうすの皆さん、現地では大変お世話になったOUSAの皆さんに感謝の意を申し上げて幕とさせて頂く。



巨大折り紙コンテストのスタート風景



フリードマン氏、「初めての共同作業」



紙がちょっと破れて焦る、JOAS東海チーム



余裕の経験者、JOASインターンチーム



巨大な川崎ローズ



トム・ハル氏は得意のユニットで参戦



プレゼンも大事。JOAS早稲田チーム



インターンチームはグランド賞に

◆5OSME速報 6OSMEの日本開催が発表される

2010年7月13日～15日にかけて5OSME(第5回折り紙の科学・数学・教育国際会議)が都市国家・シンガポールにて開かれた。

今回の会議は、久しぶりのアジア圏での開催となったが、これは、発起人であるパツィー・ワン＝イパーソン氏が、基調講演を行ったエリック・ディメイン氏とロバート・ラング氏の二人に声をかけた事をきっかけにして決まったものである。参加者は200人弱と、前回の4OSMEに比べると少なめだが、「5OSME Plus」

として、2日間のコンベンションが続けて開催されることもあって、研究者のみならず、世界各国から多くの折り紙愛好家が集まった。

また、ラング氏の基調講演の最後には、次回6OSMEは立石浩一氏が議長となって、日本の関西で行う予定である事が発表された。日本での開催は、1994年に行われた第2回以来となる。

本会議の発表などの詳細は、次号に掲載を予定しているが、運営側の中心人物から、大会終了直後のコメントをいただいていた。

パツィー氏(今大会議長)のコメント:

すべての講演は素晴らしいものでした。回を重ねるごとに講演内容のレベルが上がっています。6OSMEでは、さらに充実した内容が期待できるでしょう。

また開催国となる日本は、折り紙にとって特別な国です。今回はより多くの国から多くの参加者が集まるでしょう。

ラング氏のコメント:

今回の会議は、どの講演もレベルが高く、とても印象的でした。5OSMEの論文集は、今年中に出版される予定ですが、聞けなかった講演の論文を読むのが楽しみです。

次の会議は日本で行いたいという話を立石さんから聞いた時、すばらしいアイデアだと思いました。探偵団のコンベンションと一緒にいう事ができれば、研究者とアーティストを同じ場に集める機会を提供する事になります。私もできることをお手伝いしたいと思います。

JOASホール今後の予定

◆「知子の部屋」

9月18日(土) / 講師=布施知子 / 参加費=2,500円 / 12:30～16:00

アットホームな雰囲気の中で、どなたでもご参加頂けます。15cmの折り紙持参。

◆「ある折り紙作家の教室」

9月26日(日) / 講師=神谷哲史 / 参加費=3,000円 / 11:00～16:00 / 講習作品=スピノサウルス

■参加の申し込みはFAX(03-5684-6080)か、メールinfo@origamihouse.jp宛でお願いします。

編集後記

■編集作業中、連日報道される豪雨。被災地の皆様にお見舞い申し上げます。

■何年ぶりかでぎっくり腰をやってしまった。■年のせいであろう、治りがやたらと遅い。■その間にも海外出張が続く。■周囲があきれた目で私を見る。■じっとしている事のできない私。今号が出る頃は韓国だ。■また、8月に韓国コンベンション。9月は国際交流基金の派遣でインドネシア、マレーシアと続く。■私ばかりでなく、スタッフも海外に出る事が多い。■神谷は現在、OSMEに参加中。■昨年9月からアメリカに行き、修行しているK君(神谷ではない)が帰ってくる。■若手が育ってくる中で、老害と言われぬように気をつけよう。(や)

日本折紙学会公式HP

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

折紙探偵団

2010年7月25日発行 第21巻2号 通巻122号
発行所 / 日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人 / 西川誠司

編集人 / 山口 真

編集スタッフ / 松浦英子、神谷哲史

デザイン / おりがみはうす

翻訳 / 立石浩一

発売元 / おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価635円(本体605円)

読者プレゼント



『本格折り紙 2』前川淳/著(日貿出版社刊)を抽選で3名の方に著者サイン入りでプレゼント!! ご希望の方はハガキ又はメールにて、お名前、ご住所、電話番号、年齢を明記し、本誌の感想なども添えて、以下までお送りください。

締め切り:8月28日

応募先住所:113-0001東京都文京区白山1-33-8-216 おりがみはうす宛

メールアドレス:info@origamihouse.jp

なお、前回のプレゼント『ふしぎな球体・立体折り紙』『ヤマありタニおり』の当選者は次の通りです。

『ふしぎな球体・立体折り紙』三谷純/著(二見書房刊) 塩路泰広(山口県)、鈴木雅江(埼玉県)、山本直枝(新潟県)

『ヤマありタニおり』日下直子/著(講談社刊) 田中秀門(愛知県)、宮本宙也(東京都)、山口健吾(東京都)(敬称略)以上6名の方です。

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=JOASホール / 参加費=大人500円(中学生以下300円) / 講習会=14:00～16:00 / 研究会=16:00

●8月7日(土) / 講師:神谷亮 / 作品:馬

●9月4日(土) / 講師:未定 / 作品:未定

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F / 参加費=大人500円(中学生以下は200円) / 講習=10:30～12:00 / 講習・情報交換=13:00～14:30

●8月1日(日) / 講師:辻和之 / 作品:どうぶつのしおり

東海友の会 ※折り紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンパスA棟303号室 / 参加費=大人200円(中学生以下)

下は100円) / 時間=13:00～16:30

●8月21日(土) / 講師:未定 / 作品:未定

●9月18日(土) / 講師:未定 / 作品:未定

関西友の会 ※折り紙は各自持参

会場=高槻市立総合市民交流センター3F 第1会議室 / 参加費=無料 / 時間=10:00～16:00

●9月26日(日) / 講師:未定 / 作品:未定

九州友の会 ※折り紙は各自持参

会場=佐賀県立アバンセ4階第3研修室B / 参加費=500円(中学生以下は100円) / 時間=13:00～16:00

●8月29日(日) / 講師:池上牛雄 / 作品:うさぎ

●9月26日(日) / 講師:未定 / 作品:未定

■ORIGAMITANTEIDAN / No.122 / Published on 25, July 2010 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Bambiraptor" Produced by Kanazawa Takashi: Photographed by Yamaguchi Makoto / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはずべておりがみはうすです。

日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第16回折紙探偵団 折り図集vol.16

日本折紙学会 編 / 2,000円 / 送料420円
B5判 / 全256頁 / 約50作品収録予定

2010年8月13日発売!

※13~15日はコンベンション参加者のみ購入可能

予約受付開始!

申し込み方法は通常の通信販売方法(右下参照)と同様です。送料と本の代金をお送り下さい(送付先住所と商品名を明記のこと)。コンベンション終了後発送開始致します。

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,000円	国内一律 1冊 420円 (梱包込)※ 複数冊は 異なります	B5判/全228頁/カラー口絵4頁/19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫1」 川畑文昭・西川誠司 共著 山口 真 編	3,100円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/17作品収録 '93~'94年の「昆虫戦争」で誕生した作品の記録
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
面~The Mask~ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円		B5判/全200頁/全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
空想おりがみ 川畑文昭 著	2,900円		B5判/全180頁/カラー口絵4頁/18作品収録 1995年6月初版発行の恐竜と空想動物の本
第15回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.15 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作 56 作品を収録
第11回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.11 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録
第10回記念 折紙探偵団 国際コンベンション 折り図集vol.10 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録

※第1回~第9回及び第12回~第14回の折り図集は全て絶版です

※書籍は郵便の「ゆうメール」で発送しております。送料には梱包材代が含まれています

『折紙探偵団』専用ファイル 好評発売中!!	
変形B5判/箔押し(緑)ロゴ入 ピンが7本ついた改良型 雑誌「折紙探偵団」1年分(6冊)と、会員特別配布物(1冊)が 収納可能!	
1冊750円	送料: 1冊250円(合計1,000円)
※定形外郵便で発送します (書籍・紙製品とは別発送です)	2冊350円(合計1,850円)
	3冊470円(合計2,720円)

書籍 複数 の 送料	書籍2冊の送料は 530円
	書籍3冊の送料は 670円
	例外:「折り図集」だけを3冊の場合のみ 530円 (例:折り図集10,11,15を各1冊)

上記以外の場合はお問い合わせください 書籍と紙製品は別発送となります

商品名	送 料	内 容
折紙探偵団Tシャツ XS, S, M, L, 各サイズ 2,000円(税込)	国内一律 2着まで 500円	折紙探偵団のロゴが入ったTシャツ 色は黒のみで布は厚手 ※数に限りがありますので、ご注文の 際には在庫を確認してください。
恐竜柄おりがみ用紙 1,000円(税込)	国内一律	35×35cm/10枚入/70kg の洋紙に細かい恐竜模様を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット 1,200円(税込)	1~2セット 440円	恐竜柄おりがみ用紙+ ドラゴン(北條高史作)の折り図

※定形外郵便で発送しております(書籍とは別発送) 送料には梱包材代が含まれています

本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません
ご送金頂いてもお送りできませんのでご注意ください

商品の申し込み方法

冊数と料金をよくお確かめの上ご注文ください。

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を送付させていただきます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。

※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。

※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。



ギャラリー **おりがみはうす**

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp
月~金 12時~15時 土・日 10時~18時

折り紙用紙専門のオンラインショップ開店!
(株)トーヨーの商品を中心とした豊富な品揃えです。

<http://origamihouse.store-web.net/>

※本ページ商品は取り扱っておりません。ご注意ください

とってもおもしろー! おりがみ ふわふわパン屋さん

6種類のパンが
つくれるよ!

トレイやバスケットにのせてあそんでね

¥300
(税抜き)

バスケット

フランスパン

クロワッサン

トンガ

サンドウィッチ

フルーツ
デニッシュ

ホットドッグ

パンは2コずつ
つくれるよ!

かめ×ロンパン

トレイ



株式会社トヨー

ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。
※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡営業所 / 札幌出張所 / 松山出張所

日本折紙学会発行 定価 635円(本体605円)

